

右之條に堅相守可申候、以上、

* 重右衛門のみ
判形なし。あるひ
は彼は名主であつ
たのか、又は潰家
であるかも知れな
い。

善	六 ^(甲)	喜兵衛 ^(甲)	八兵衛 ^(甲)	四郎兵衛 ^(甲)
太郎左右衛門 ^(甲)	惣右衛門 ^(甲)	彌右衛門 ^(甲)	四郎右衛門 ^(甲)	
長	八 ^(甲)	久五郎 ^(甲)	重右衛門 ^(甲)	市兵衛 ^(甲)
次兵衛 ^(甲)	久左右衛門 ^(甲)	久右衛門 ^(甲)	次郎兵衛 ^(甲)	吉兵衛 ^(甲)
久左右衛門 ^(甲)			安右衛門 ^(甲)	半兵衛 ^(甲)

半紙十二枚。
旗本領。

三九 文化七年上總國望陀郡高柳村五人組改帳*

差上申一札之事

一 當村五人組之儀者毎年被 仰付候通、村中家持之儀者不及申上、子供・門家・借家之者共迄、壹人も不
 殘、下組書付差上申候事、^(二)

一切支丹宗門之儀者毎度宗門帳堅御改被成候得者、彌常ニ詮儀仕、怪敷者参り候ハ、捕置、早速御注進可
 申上候、若シ脇ノ訴人御座候而切支丹出申候ハ、宿借シ候もの之儀者不及申上、名主・組頭・五人組迄

茂不殘曲事被 仰付候御事、^(三)

一 はくち・ほう引、惣而欠之勝負仕候者并宿仕候儀、堅御法度被 仰付候間、村中五ニ吟味仕、少シ勝負
 成共爲致申間敷候、名主・組頭・長百姓、銘々家ニ改可申候、自然隠置候者有之候ハ、組合之儀者不及
 申上、名主・組頭・長百姓曲事可被 仰付候事、^(三)

一 盜賊・悪黨・はくち打候者村中御座候を訴人仕候ハ、たとへ同類たり共、其科御免御褒美可被下候由
 被 仰付、承知奉畏候、自然親類・縁者あたをなし可申と存候ハ、内ニ而あた不仕候様御仕置可被
 仰付候由御座候間、少も怪敷者共御座候ハ、不隠置早速御注進可申上候事、^(四)

一 耕作家職不仕候者、悪事可仕候間、左様之者郷中有之候ハ、名主・組頭・長百姓・年寄、如何様ニ而
 も通渡申候、吟味可仕候事、^(五)

一 人賣買并田畑賣買仕間敷候、たとへ年季ヲ極メ相渡候も、名主斷いたし、拾ヶ年限之證文手形双方江引
 取、已來出来出入無之候様相極可申候事、^(六)

一 御訴訟之事其外何事成共、神水ヲ吞、神文誓紙をいたし、一味同心仕間敷候事、^(七)
 右之條、無油斷堅相守可申候事、

若シ組中夜あるき不審成者御座候ハ、早ニ相組ノ名主・組頭迄斷、急度可申上候、爲其組合連印ヲ以如斯
 御座候、以上

文化七年午六月八日

五人組帳資料

五人組帳の研究

二七〇

五人組頭源右衛門 [㊦]	五人組頭紋四郎 [㊦]	八郎兵衛 [㊦]	一郎兵衛 [㊦]
彌三右衛門 [㊦]	□ ^虫 衛門 [㊦]	忠藏 [㊦]	又兵衛 [㊦]
□ ^虫 門 [㊦]	權三郎 [㊦]	助右衛門 [㊦]	伊兵衛 [㊦]
善兵衛 [㊦]	善右衛門 [㊦]	嘉兵衛 [㊦]	五人組頭長右衛門 [㊦]
彌兵衛	久作 [㊦]	五人組頭三右衛門 [㊦]	忠左衛門 [㊦]
五人組頭三郎左衛門 [㊦]	五人組頭彌四郎 [㊦]	平九郎 [㊦]	小右衛門 [㊦]
勘左衛門 [㊦]	甚右衛門 [㊦]	八郎左衛門 [㊦]	甚左衛門 [㊦]
惣左衛門 [㊦]	新右衛門 [㊦]	利右衛門 [㊦]	善六 [㊦]
茂兵衛 [㊦]	一郎左衛門 [㊦]	利兵衛 [㊦]	五人組頭久右衛門 [㊦]
孫右衛門 [㊦]	紋左衛門 [㊦]	千藏 [㊦]	清左衛門 [㊦]
柳助 [㊦]	五人組頭□ ^虫	五人組頭安左衛門 [㊦]	清右衛門 [㊦]
五人組頭長左衛門 [㊦]	作平 [㊦]	市左衛門 [㊦]	喜十郎 [㊦]
□ ^虫 門 [㊦]	長兵衛 [㊦]	兵右衛門	伊左衛門 [㊦]
武右衛門 [㊦]	瀧右衛門 [㊦]	半兵衛 [㊦]	傳兵衛 [㊦]
善助 [㊦]	與惣兵衛 [㊦]	五人組頭文右衛門 [㊦]	清五郎 [㊦]
作兵衛 [㊦]	五人組頭□ ^虫 郎 [㊦]	金左衛門 [㊦]	五人組頭太兵衛 [㊦]

* 名主以下村役人は何れも五人組別の内に入らず。
 * 柴田七左衛門は二千石の旗本である。

權左衛門	五人組頭伴右衛門 [㊦]	五人組頭金兵衛 [㊦]	源左衛門 [㊦]
與次右衛門 [㊦]	傳右衛門 [㊦]	佐右衛門 [㊦]	彌兵衛 [㊦]
藤右衛門 [㊦]	久兵衛 [㊦]	九郎兵衛 [㊦]	半左衛門 [㊦]
藤兵衛 [㊦]	清兵衛 [㊦]	半右衛門 [㊦]	庄左衛門 [㊦]
助左衛門 [㊦]	文左衛門 [㊦]	五人組頭甚兵衛 [㊦]	

柴田七左衛門^{***}様御内
 木村隼太様
 盛山惣太夫様
 木村東馬様

與頭 五郎左衛門[㊦]
 同斷 平右衛門[㊦]
 同斷 十左衛門[㊦]
 名主 安右衛門[㊦]

五人組帳資料

二七一

四〇 文化八年武藏國多摩郡上長淵村御條目五人組御改書上帳

條目

- 一 前々從 公儀被 仰出候御條目之趣ハ勿論、自今以後被 仰出候御法度之旨堅可相守候事、^{〔一〕}
- 一 父母に孝行、夫婦兄弟睦敷可仕候、被召仕候者は主人江奉公大切ニ可相勤候、右之趣名主・組頭・五人組兼々心を附、教立候様ニ可仕候事、^{〔二〕}
- 一 親に孝有者、主に忠有者、夫に能仕、兄を敬、弟を惠、上江之御奉公宜敷勤候者、末々其身行宜敷者は、名主・組頭・五人組其段可申出候事、^{〔三〕}
- 一 不孝・不忠・不貞・兄弟親類と不和ニ而異見をも不用、不義之輩於有之ハ、名主・組頭・五人組致吟味、其段可申出候事、^{〔四〕}
- 一 吉利丹宗門之義は御制禁之条、不審成者有之ハ可申出候、若不審成者隱置、後日ニ顯候ハ、五人組共急度可申出候事、^{〔五〕}
- 一 村々の内鉄炮之義、前々吟味之上預ケ置候外、一切所持仕間敷候、持主之外他人は不及申ニ、親類爲兄弟と云共、堅貸シ申間敷候事、^{〔六〕}
- 一 兼而從 公儀被 仰出候通り、捨子堅仕間敷候、惣而無便り老人・幼少之者有之は、其所ニ而致介抱置、其旨可申出候事、^{〔七〕}

* 半紙三十枚。田安領。なほ下長淵村に文化七年庚午二月の筆寫の五人組帳前書がある。同書は恰も習字の手本の如く書かれ、最後に前記の年號を記し、「於瑞龍院裡寫□畢」と認め、多摩郡下長淵村八木和助と署名してある。内容は文化八年上長淵村のそれと變りなく、ただ最後の條項を缺く。習字用本と見做し、文化八年の分を採用した。

一 捨馬之儀堅仕間敷候、前々之通り相守可申候、自然離レ牛馬有之ハ、名主・組頭立會養置、早速可申出候事、^{〔八〕}

一 人賣買御制禁之条、堅可相守候、召仕之男女抱候節、宗門相改、慥成證人手形を取、可差置候事、^{〔九〕}

一 前々(より)荒地之場所隨分地主精を入れて立歸り候様ニ可仕候、若地主不及力ニ程之義ニ候ハ、百姓仲間ニ而助合、田畑荒シ不申候様ニ可仕候事、

附り 立歸り場所所有之ハ不隱置、早速畝歩、書記、可差出候事、^{〔一〇〕}

一 常々無油斷、耕作ニ精を入、(百姓ニ)不似合遊事、何ニ而茂仕間敷候、作物不精成者有之ハ、(隨分)致異見、不用ニおゐてハ其段可申出候事、^{〔一一〕}

一 獨身之百姓長病ニ而耕作成兼候節は、五人組として助合、田畑荒シ不申候様ニ可仕候事、^{〔一二〕}

一 用水之義は先規之例を以、兼々相定置、渴水之節爭論無之様ニ可仕候事、^{〔一三〕}

一 川通り村々湛水之節、名主・組頭・惣百姓罷出、堤・川除・井堰・溜池等切レ不申候様ニ、隨分防キ可申候、勿論常々無油斷御普請大破ニ不及様ニ可相心得候事、

附り 用水・溜池毎春浚江可申候事、^{〔一四〕}

一 境論無之様ニ常々念を入可申候事、

附り 古荒地・川欠(之)場所并新開發ニ可成所有之は、其趣注進可致候、尤新開發有之ハ、隠しなく(其趣)注進可致候事、^{〔一五〕}

- 一 訴訟其外不依何事ニ、申出ル儀有之ハ、五人組江相斷、名主・組頭を以可申達候、百姓致我儘、名主・組頭之申付を承引不致候者有之ハ、吟味之上可申付候事、^{〔二六〕}
- 一 毎年百姓夫喰ニ可成類貯置、凶年之節、夫喰等相願不申候様ニ、常ニ心かけ可申候事、^{〔二七〕}
- 一 田畑譲リ候節、高拾石以下之者分ケ申間敷候、若シ無據子細有之ハ可申出候事、^{〔二八〕}
- 一 寺社江田地寄進之儀不相成儀ニ付、可得其意候、若又無據子細有之、寄附致候ハ、其段可訴出候、品ニ可申付候事、^{〔二九〕}
- 一 跡式之義兼而書置仕、名主・組頭・五人組立會、致加判、死後ニ出入無之様ニ可仕候事、
- 附リ 跡目無之者ニ慮ニ死失候ハ、所持之品ニ名主・組頭・五人組立會、相改可申出候事、^{〔三〇〕}
- 一 嫁養子取組之儀、名主・組頭・五人組立會、能ニ念を入、重而六ヶ敷儀無之様可仕候事、^{〔三一〕}
- 一 百姓家作之儀、分限相應ノ輕ク可仕候、目立候普請不可致候、衣類之義は平百姓は不及申ニ、名主・組頭并妻子たりと云共、布木綿の外著シ申間敷候、惣而糸織卷物之類襟をび等ニ茂用不可申候事、^{〔三二〕}
- 附リ 男女共ニ乗物并乗鞍馬停止ニ候、惣而奢リケ間敷儀不可致候、尤無斷して刀不可指候事、^{〔三三〕}
- 一 村繼之廻狀不限晝夜を、先ニ江相届ケ手形取置可申候事、^{〔三四〕}
- 一 旅人相煩候敷、又ハ酒ニ酔有之ハ、名主・組頭立會、所持之品ニ相改、在所名承届ケ致介抱置、本服之後、右之品ニ相渡シ可申候、病氣重キにおゐてハ可申出候事、^{〔三五〕}
- 一 旅人一夜之宿茂貸シ申間敷候、無據貸シ候ハ、名主・五人組江可相斷、習日逗留於仕ニは、名主・

組頭・五人組立會、吟味之上留メ可申候、尤怪敷者ニ一夜之宿も貸シ申間敷事、

附リ 旅人何にても取落シ置候ハ、早速追かけ爲持可遣候事、^{〔三五〕}

一 村ニ御普請人足扶持方其外被下(候)物(之)類、當座ニ割合可申候、尤年中村入用懸リ物之儀は、其時ニ名主・組頭・年寄・百姓立會、帳面ニ記置、致加判、無相違様ニ割合、重而出入無之様ニ念を入可申候、若不吟味之儀有之、申出候ハ、詮義之上、名主・組頭可爲越度候事、

附リ 繼合勘定一切仕間敷候、不依何事ニ、得心之上ニ而可致印形候事、^{〔三六〕}

一名主・組頭印形替リ候ハ、判鏡を以可申出候、其外之者は名主方迄判鏡可出置候事、^{〔三七〕}

一 五人組之儀は家並最寄次第、五軒宛組合、借地・店借リ・寺社門前・下人等ニ至迄、諸事吟味仕、惡事無之様に可仕候事、^{〔三八〕}

一 田畑永代賣買・頼納賣買・八重質之儀御制禁之条堅相守可申候、縦年季質物ニ入候共、不可過拾ヶ年ニ候、尤名主・組頭・五人組加判を以、證文爲取替可申候事、

附リ 名主・組頭加判無之證文取上無之候事、^{〔三九〕}

一 拾ヶ年季越候質地證文之事、

但シ右三ヶ條之儀并田畑永代賣買、又ハ地主ノ年貢諸役を勤、金主ハ年貢諸役を不勤質地之類は前ニ御停止にて村方五人組帳ニ書記有之處、右之通りニ傳之證文を以、訴出候茂有之(由)自今五人組帳名主・組頭ノ大小之百姓江度ニ讀きかせ、不致忘却候様ニ可仕候事、^{〔四〇〕}

五人組帳資料

* 右三ヶ條云々
とあるも、このと
ころ混同したるが
如く、普通は第二
十九條の附、第三
十條及び三十一條
の三條を指す。(元
文三年武藏國豊島
郡角管村第十六條
參照)後掲文政六
年橋田村の分も同
様の混同あり。

*この條本書に
なし、橋田村の分
を以つて補ふ。
*普通この二ヶ
條は第三十二、三
十三の兩條を指
す。(元文三年角筈
村五人組帳第十七
條参照)。

- 一 名主自分ニ置候質地は、相名主又ハ組頭等之役人加判無之證文取上ケ無之候事、^{〔三二〕}
- 一金子有合次第可請返旨證文有之質地ハ、質入之事ヲ拾ケ年過、訴出候ハ、取上無之候事、^{〔三三〕}
但シ右貳ヶ條^{〔三四〕}自今拾ケ年之内訴出候ハ、取上ケ裁斷可有之候、右年數過候分は取上ケ無之候事、^{〔三五〕}
- 一 享保元申年以來、年季明ヶ候質地は自今年季明ヶ拾ケ年過、訴出候ハ、取上ケ無之候事、^{〔三六〕}
- 一 質物之儀は能ク致吟味、儘成證人を立可申候事、^{〔三七〕}
- 一 押賣押買仕間敷候、他所ヲ來リ候旅人江たいし、不作法なる儀不仕如何様之輕キ者ニ而も令輕、かさつ
なる義仕間敷候事、^{〔三八〕}
- 一 御鷹場村、前ニ從 公儀被 仰出候通り、右御用向大切ニ相守可申候事、^{〔三九〕}
- 一 御朱印傳馬并往還之繼人馬先規ヲ勤來リ候儀は不及申ニ、傳馬宿之外在ニたりといふ共、
公儀 御用は勿論、御手前御用ニ而通られ候衆有之ハ、晝夜風雨を不厭、人馬無滯出シ可申候、尤御朱印
之外御定之駄賃錢請取之、繼送り可申候、若シ囚人通り候ハ、無油斷人馬出シ大切ニ可仕候事、^{〔四〇〕}
- 附リ 往還之旅人ニたいし不作法なる儀仕間敷候事、^{〔四一〕}
- 一 町在ニ共ニ諸事御用ニ付、役人差遣候節、賄(之)義、公儀 御定之木錢雜用可相渡候間、請取之、
所有合候物を以相賄、馳走ヶ間敷儀一切仕間敷候、并召仕之仲間小者等迄、右同事に相心得可申候、勿論
金銀・酒肴・衣類・諸道具、如何様之輕キ品ニ而も、音物堅仕間敷候、尤金銀米錢當分たりと云共、借り
貸シ一切仕間敷候、^{〔四二〕}

*橋田村の分に
この附則なし。

- 附リ 役人并召仕之者非分之儀申懸候もの有之ハ、早速可申候事、^{〔四三〕}
- 一 他所江罷越一宿仕候節ハ、名主・組頭江可相斷候、其外五人組江相斷、歸リ候ハ、其届ケ可仕候事、^{〔四四〕}
- 附リ 江戸并何方に用事有之、罷出候共、其事相濟次第、早速可罷歸候、永逗留不可致候事、^{〔四五〕}
- 一 不依何者ニ他所ヲ引越候者有之ハ、致吟味、儘成證人を立、其段可申出候事、^{〔四六〕}
- 附リ 所主たりと云共、年久敷、他所江罷越、立歸リ候者有之ハ、其斷可申出候事、^{〔四七〕}
- 一 喧嘩口論有之ハ、開付次第、出合押江置可申候、人を討立退キ候者有之ハ、押江置可致注進、若捕逃シ
候ハ、跡をしたひ、落著所を見届ケ預ケ置可致注進候、見失候共、何れ之道、其段可申出候事、^{〔四八〕}
- 附リ 喧嘩口論取おさへ候節、飛道具不可持出候、尤かせひ不可致候事、^{〔四九〕}
- 一 火事喧嘩(其外)不依何事ニ、不慮之儀於有之ハ、早速注進可仕候事、^{〔五〇〕}
- 附リ 火の元常ニ五人組限リ致吟味、(大切ニ可仕候、自然村中之義ハ不及申)隣郷ニ而も出火有之節
ハ早速火元江かけ付、火を防キ可申候、諸道具等會而綺申間敷候事、^{〔五一〕}
- 一 他所ヲ手負候者來リ候ハ、名主・組頭立會、致介抱置、委細承給届ケ可申出候事、^{〔五二〕}
- 一 倒死候者有之ハ、名主・組頭立會、委細相改、所持之雜物相封附置、死骸ハ所を不替、番人附置、早速
注進可仕候、尤尋來リ候者有之ハ、出所等承届ケ、是又可申出候事、^{〔五三〕}
- 一 欠こみ者有之(節)、追手之者慕來リ、其届於有之ハ、早速村中之者共馳集リ、隨分取逃不申候様に致置、
可致注進候、たとひ捕逃シ行へ不知候共、其訳ケ可訴出候事、^{〔五四〕}

一 三等附之義堅仕間敷候、若點者抔仕候者有之歟、外々右躰之者参り、宿等頼候共、一夜之宿も貸シ申間敷、右之段五人組限り相改、常々心を付、怪敷儀茂候ハ、早速可申出候事、〔四六〕

一 博突之諸勝負一切停止ニ候、尤宿堅仕間敷候、若相背候者有之ハ、其科おもかるべき事、

附り 常々人の妨ケいたし、或ハ酒狂・口論・狼藉いたし候者有之ハ、名主・組頭吟味之上可申出候、〔四七〕

（又ハ耕作・商等家業茂不致者）、無用事等して出入者有之ハ、心を付、吟味之上可申出候事、〔四八〕

一 堂宮山林ニ怪敷者不罷在候様ニ、常々吟味可仕候、惣而行へ不知者不可差置候事、〔四九〕

一 出家・山伏、其外何ニ而も不思儀いたし候者、（外々）來り候ハ、勿論、住居之者ニ而も、早速可申出候、〔五〇〕

はやり神等有之ハ、可申出候事、

一 不依何事ニ、徒黨ケ間敷義仕間敷候、惣而公事出入之儀有之ハ、名主・組頭・五人組（立合）、取扱之、

不相濟義は可申出候事、

附り 致荷擔候者有之歟、（又ハ）公事を工（ミ）、出入を進ル族有之ハ、其科おもかるべき事、〔五一〕

一 往還之道橋は不及申ニ、脇ニ而も常々無油斷繕之、人馬通路無難儀様ニ可仕候事、

附り 有來り候道橋田畑江切込申間敷候事、〔五二〕

一 川舟渡シ船運賃之儀は古來定之通り、不可致違亂候事、

附り 御城米積候船は不及申ニ、不慮之破船有之ハ、近在之者共早速罷出、相働キ、尤荷物紛失無之

様ニ仕、其段可申出候事、〔五三〕

*この附則橋田村の分なし。

一 神事・祭禮有來り之通り相勤、新規之祭禮仕間敷候事、〔五三〕

一 新規之神社不可致建立候、并念佛塚・庚申塚・ほこら有來り候外、不可致建立候事、〔五四〕

附り 住寺・神主替り（候）節は可申出候事、〔五五〕

一 所ニ跡ミ有來り候造酒屋之外、新造酒屋自今以後仕間敷候事、〔五五〕

附り 前々御改御免之高酒造米之外、酒屋仕間敷候事、〔五五〕

一 勸進能・相撲・操・狂言・芝居其外諸見物之類可爲停止候事、

附り 遊女・哥舞妓（之類）不可差置候事、〔五六〕

一 御林は不及申ニ、山林并四壁竹木猥リニ伐あらし申間敷候事、〔五七〕

一 毎年御年貢御割付出候ハ、（惣）百姓、出作之者迄、爲致披見、無相違様ニ割合（可申候）尤御年貢米

金、名主・組頭請取之儀、手形を取（かわし）置、重而出入無之様ニ可仕候事、〔五八〕

一 御年貢米拵之儀、名主・組頭・米見・舛取立會、隨分遠吟味、青米・赤米・碎米無之様ニ仕、（尤）米性

吟味いたし、舛目不切様ニ俵念入可申候事、〔五九〕

一 俵拵之儀前々引付之通り、隨分念入、致二重皮に、かゝり候義は是又仕來り候通りかゝり立、摺繩（ニ

いたし）、龜相ニ無之様ニ拵立可申候、勿論俵之内江入候中札、國郡村名・名主・米見・米主・舛取銘、

相記、致印形、逸々俵毎に念入可申候、外札は木札ニ而も、竹札ニ而も、國郡村名・御代官之姓名斗書記

可申候、尤札之裏ニ俵之貫目書付可申候、若又致貫目多ク候とて、皮厚之俵を拵（立）取繕候儀、堅仕間

*この附則橋田村の分なし。

敷候事^{〔六〇〕}

一 御年貢米郷藏ニ詰置候節、番人附置、大切ニ相守可申候、勿論川岸等江出シ置候^{〔四〕}、村中(百姓)立會、晝夜無油斷可相守候、若近所ニ出火有之ハ、早速馳集リ相防キ可申候、若又御米紛失等有之候ハ、惣百姓辨納可仕候事、

一 御年貢米江戸廻り之節、積船之儀二年・三年船を限り、古船又ハ船具不足之船ニ積申間敷候事、^{〔六二〕}

一 御年貢金夏秋冬三度ニ割合之通り、百姓前々取納之、名主持參相納候節、念入請取書(付)取之、皆濟勘定之節、相違無之様ニ可仕候、但シ御年貢米之儀も、藏納之節念入、手形を取(置)可申候事、^{〔六三〕}

一 郷中番屋之儀有來リ之番人差置、不審成者有之ハ、聲を立可申候、自然盜賊入候ハ、番人は不及申ニ、所之者(共)不殘かけ附捕取可申候、尤むさと殺シ申間敷候、不出合者(有之)ハ可爲越度候事、^{〔六四〕}

一 近來在方村々之者共、耕作を等閑ニいたし、却而困窮之儀申立、奉公人疋ニ出候者、所持之田畑を荒置類有之由相聞江候、不埒之至ニ候、以後村方人別割合何人迄ハ奉公ニ出シ、殘リ之人數ニ而耕作は勿論、

村方差支無之哉否、村役人相糺、無據奉公に出度旨相願候者有之ハ、右割合人數迄ハ、村役人共承給届ケ、

年季を限り奉公ニ出候様ニ可致候、若村方差支をも不願、奉公ニ出、田畑荒候儀有之ハ、當人ハ不及申ニ、

村役人迄可爲越度者也、^{〔六五〕}

右之條、堅可相守可申候、箇條之趣名主方ニ寫置、正月・五月・九月、壹ケ年に三度宛、村中大小之百姓江爲讀聞、得と呑こみ候様ニ可致候、若違背之者於有之には、當人は不及申ニ、名主・組頭・五人組迄曲事ニ

*第六十五條は橋田村の分にはなし、又前記文化七年の筆寫本にもなし。

可申付候、品ニク親類迄茂可相答者也、

右御條目之趣、村中大小之百姓・水呑・下人等ニ至迄、壹人茂不殘、爲讀聞、承知奉畏候、尤常ニ無油斷吟味仕、若違背仕候者有之ハ、當人は不及申上ルに、親類・兄弟・縁者・名主・組頭・五人組迄、如何様之曲事に茂可被 仰付候、且五人組之(儀)親類・縁者・好身有之者は組合不申候、村中相談之上、五人組相極、連判、御證文差上申處、仍而如件、

文化八年未三月

武州多摩郡上長淵村

孫左衛門 ^{〔四〕}	孫右衛門 ^{〔四〕}	仁兵衛 ^{〔四〕}	萬助 ^{〔四〕}
吉太郎 ^{〔四〕}	五人組 善右衛門 ^{〔四〕} 太兵衛跡 利上 ^{〔四〕}	梅次郎 ^{〔四〕}	市右衛門 ^{〔四〕}
次兵衛 ^{〔四〕}	源兵衛 ^{〔四〕}	仁左衛門 ^{〔四〕}	彌兵衛 ^{〔四〕}
五郎左衛門 ^{〔四〕}	次左衛門 ^{〔四〕}	五人組 久左衛門 ^{〔四〕}	伊之助 ^{〔四〕}
太郎左衛門	又兵衛 ^{〔四〕}	喜兵衛 ^{〔四〕}	惣兵衛 ^{〔四〕}
五人組	五人組 八郎左衛門 ^{〔四〕}	德右衛門 ^{〔四〕}	五人組 半兵衛 ^{〔四〕}
市兵衛 ^{〔四〕}	由右衛門 ^{〔四〕}	清兵衛 ^{〔四〕}	仙助 ^{〔四〕}
吉右衛門 ^{〔四〕}		長兵衛 ^{〔四〕}	九左衛門 ^{〔四〕}
新左衛門跡 梅			與市 ^{〔四〕}
喜右衛門 ^{〔四〕}			

五人組帳資料

二八一

市太郎 <small>印</small>	卯兵衛 <small>印</small>	市郎右衛門 <small>印</small>	富吉 <small>印</small>
五人組	平吉 <small>印</small>	惣右衛門 <small>印</small>	五人組
幸助 <small>印</small>	孫兵衛 <small>印</small>	次右衛門 <small>印</small>	伊左衛門 <small>印</small>
藤右衛門 <small>印</small>	五人組	清左衛門 <small>印</small>	喜兵衛 <small>印</small>
佐兵衛 <small>印</small>	太右衛門 <small>印</small>	政右衛門 <small>印</small>	善兵衛 <small>印</small>
半助 <small>印</small>	平五郎 <small>印</small>	五人組	善治郎 <small>印</small>
吉右衛門 <small>印</small>	半兵衛 <small>印</small>	平藏 <small>印</small>	藤左衛門 <small>印</small>
五人組	儀兵衛 <small>印</small>	惣八 <small>印</small>	五人組
嘉右衛門 <small>印</small>	奥右衛門 <small>印</small>	太郎兵衛 <small>印</small>	加兵衛 <small>印</small>
平左衛門 <small>印</small>	五人組	久兵衛 <small>印</small>	利右衛門 <small>印</small>
万次郎 <small>印</small>	孫七 <small>印</small>	善藏 <small>印</small>	久兵衛 <small>印</small>
五左衛門 <small>印</small>	儀右衛門 <small>印</small>	五人組	繁八 <small>印</small>
茂右衛門 <small>印</small>	磯吉 <small>印</small>	八兵衛 <small>印</small>	三右衛門 <small>印</small>
五人組	伊平治 <small>印</small>	伴藏 <small>印</small>	五人組
太兵衛 <small>印</small>	豐七 <small>印</small>	四郎左衛門 <small>印</small>	源兵衛 <small>印</small>
武左衛門 <small>印</small>			助三郎跡 <small>印</small>

*半紙十二葉。後記の如く旗本領である。

四一 文化十年上總國市原郡菊間村五人組詰帳

定

長助 <small>印</small>	七郎右衛門 <small>印</small>	八郎左衛門 <small>印</small>	同半助 <small>印</small>
又兵衛 <small>印</small>	久兵衛 <small>印</small>	九兵衛 <small>印</small>	同清左衛門 <small>印</small>
勘兵衛 <small>印</small>	茂七 <small>印</small>	惣左衛門 <small>印</small>	同八兵衛 <small>印</small>
五人組	六人組	六人組	同八郎左衛門 <small>印</small>
長右衛門 <small>印</small>	十右衛門 <small>印</small>	名主太郎左衛門	同百姓代善藏 <small>印</small>
又右衛門 <small>印</small>	惣兵衛 <small>印</small>	組頭次左衛門	
忠左衛門 <small>印</small>	太郎兵衛 <small>印</small>	同與市 <small>印</small>	同御勘定所

一 從 御公儀様被 仰出候御書付之趣ハ不及申上、惣而御法度之儀少茂相背申間敷候、若相背申族有之候ハ、組合早速御役所江相届ケ可申候事、

一 胡亂成者、不限勸進ひじりニ、一切宿貸申間敷候事、

五人組帳資料

一 村内大勢御取合之處、御法度被 仰出候義有之、尤同前相守可申候、我儘ニ意趣立子慮外仕間敷候、惣而相談出會候ハ、一統ニ可罷出候事、^{〔三〕}

一 市町江罷出、百姓ニ不似合長脇差をさし、酒を吞、男伊達仕、あばれ申者御座候ハ、組合之内御役所江相届ケ可申候、見隠開遁、後日脇ヲ顯申候ハ、其組合之者共、一同急度可申付事、^{〔四〕}

一 惣而名主・百姓出會之儀有之候ハ、其手限申所相談ニ而埒明可申候、若仲間ニ而埒明不申候ハ、御注進可申候、年中申候ハ、萬一利有之候共、非義申付、其身ハ不及申、組合之者共迄同科ニ可申付候事、^{〔五〕}

一 親子兄弟朝夕孝之道を上げまし可申候事、^{〔六〕}

一 召仕之者男女ニよらず、主人ニ相したかひ相動可申候事、^{〔七〕}

一 一夜之旅ニ而茂罷出候節ハ御役所江相斷可申候事、^{〔八〕}

一 三笠博突之儀御法度之通相守可申候事、^{〔九〕}

一 無益成事申立出入仕間敷、何れ之五人組ニ不限、聊難澁成義出來仕候ハ、組合近所之者共、立合ニ而相濟可申候、若相濟不申候ハ、村役所江訴、村役人衆中御取斗ニ而茂相濟不申、無據出訴仕、名主・組頭又ハ組合之者罷出候節、路用ハ不及申、旅宿逗留中小遣等ニ至まで、其當人限り相遣可申候、夫ニ而茂續不申上ハ、組合ニ而割合出錢相遣可申候事、

附り 入用出錢之義ハ格別、物每兼而相慎ミ、惣而出入ケ間敷儀仕間敷候事、^{〔一〇〕}

右之條ニ堅相守、五人組仕、差出申候上ハ、相背申候ハ、如何様之越度ニ茂可被 仰付候、爲後日五人組

連印仕、差上申候處、仍而如件、

文化十癸酉年三月 日

* 次ぎの組の佐兵衛と入替る。

頭 惣右衛門 ㊦	孫 兵 衛	頭 四郎兵衛 ㊦	長 助 ㊦
次 兵 衛 ㊦	半 兵 衛 ㊦	市 兵 衛 ㊦	頭 八右衛門 ㊦
太郎左衛門 ㊦	喜 兵 衛 ㊦	太 右 衛 門 ㊦	勘 兵 衛 ㊦
長 八 ㊦	頭 久右衛門 ㊦	傳 次 郎 ㊦	清 八 ㊦
善 兵 衛 ㊦	彌 右 衛 門 ㊦	四 郎 右 衛 門 ㊦	半 兵 衛 ㊦
次郎兵衛 ㊦	吉 五 郎 ㊦	長 右 衛 門 ㊦	

* 寅年に入替その他改められたことを意味する。

兵 右 衛 門 ㊦	茂 兵 衛 ㊦	寅 改 傳 兵 衛 ㊦	頭 傳 三 郎 ㊦
孫 右 衛 門 ㊦	茂 右 衛 門 ㊦	八 左 衛 門 ㊦	次 右 衛 門 ㊦
清 兵 衛 ㊦	佐 兵 衛 入 替 ㊦	頭 甚 右 衛 門 ㊦	平 助 ㊦
與 兵 衛 入 替 *	清 吉 ㊦	長 重 郎 ㊦	四 郎 右 衛 門 ㊦
彦 右 衛 門 ㊦	主 斗 ㊦	佐 次 兵 衛 ㊦	庄 之 助 ㊦
頭 佐 兵 衛	頭 七 郎 兵 衛 ㊦	鐵 五 郎 ㊦	次 左 衛 門

*この組頭記入なし。

五人組帳の研究

二八六

久兵衛門⑩	寅改榮	藏	寅改彦兵衛	頭七左衛門門⑩
頭重藏門⑩	四郎左衛門門⑩*		平左衛門門⑩	半右衛門門⑩
次郎右衛門門⑩	善三郎門⑩		頭作兵衛門⑩	甚五兵衛門⑩
寅改彦兵衛門⑩	五左衛門門⑩		染七門⑩	甚八門⑩
三右衛門門⑩	六左衛門門⑩		七平門⑩	幸助門⑩
長兵衛門⑩	次兵衛門⑩		幸左衛門門⑩	
長田幾之助様御知行所				
御役所				
御役人衆中				

長田幾之助直陳は六百石の旗本。

***半紙二十七枚。

四二 文化十四年信濃國安曇郡上野組花見村五人組連判帳

(前書なく、五人組連判のみ、その體裁は寛政八年同郡田屋村五人組連判帳と同様である。本村については文化十五年、文政二、四、五、七、九、十、十一年、天保八年の九冊あるが、何れも同様である。ただ天保八年の分は正式に提出したものと同様らしく、中判大形である。)

*半紙十四枚。なほ文政十三年の分も存してゐるが、その形式は本書と同様である。

四三 文化十五年武藏國埼玉郡八条領古新田宗門人別

五人組御改帳

(最初に宗門人別帳・召使男女宗旨御改證文を掲げてゐるが、省略する。次に五人組を記すこと次ぎの如し。)

六左衛門門⑩	喜左衛門門⑩	榮次郎	市之丞	與八門⑩
武左衛門門⑩	傳八門⑩	平右衛門門⑩	新五郎門⑩	
彦右衛門門⑩	清兵衛門⑩	岩松傳右衛門門⑩		
宇右衛門門⑩	源次郎門⑩	喜太郎門⑩	忠藏門⑩	
安左衛門門⑩	彦五郎門⑩	松之助門⑩		
	久次郎門⑩	宇兵衛門⑩	喜兵衛門⑩	
平次郎門⑩	佐右衛門門⑩	佐五右衛門門⑩	平六門⑩	
甚右衛門門⑩	長右衛門門⑩	嘉右衛門門⑩	庄次郎門⑩	
作右衛門門⑩		淺右衛門門⑩	孫兵衛門⑩	治郎右衛門門⑩

五人組帳資料

二八七

勘 二 郎[㊦] 庄 右衛門[㊦] 小 助[㊦] 猪 之 助[㊦]
 惣 七[㊦] 伊 三 郎[㊦]

右は家並最寄次五人組相改メ書面之通り奉差上候處、相違無御座候、以上、

八条領古新田

名主 兵 右衛門[㊦]

組頭 六 左衛門[㊦]

孫 兵 衛[㊦]

榮 次 郎

百姓代 安 左衛門[㊦]

文化十五年寅三月

御地頭所様

御役所

(最後に寺院の請狀を載せてゐるが、省略する。)

四四 文政四年上總國市原郡不入斗村新田五人組帳

(この五人組帳の前書六拾五ヶ條は二〇明和四年武藏國高麗郡中藤村五人組帳と同様である。ただ一ヶ條違つた條項が挿入されてゐるが、他のところで二ヶ條を一つにしてゐるので、箇條數は同じである。その差違は大體二〇に記してあるから参照されし。なほこの五人組帳にはその後別に別次ぎの如き代官の申渡しを附記してゐる。)

其村、今般我等御代官所ニ被

仰付候上は前ニ被 仰出候御法度之趣、堅ク相守可申候、第一農業無懈怠致出精可申、萬一農業不精ニ仕、田畑外ニ出來劣候類茂有之候ハ、村役人ノ其人相糺、異見差加江可申、若不取用者有之候ハ、早速可訴出候、隱置、後日ニ相知候ハ、村役人可爲越度候事、

一 小百姓共之内萬一病氣ニ而田畑仕付手後ニも相成候類も有之候ハ、五人組は勿論相互ニ助合、作方手後ニ不相成様可致事、

一 作間手透之節、男女共爲遊候間、惰弱ニ相成、不宜風俗之ものも致出來候ニ付、所ニ應し穰可致候事、
 一 百姓ニ不似合近年衣食住共奢ケ間敷儀も相聞、度ニ御書付お以被 仰出候、以來衣食住共奢ケ間鋪義不致、綿服之外決而緋袖等ニ至迄著用致間鋪候、ケ様ニ申渡候而も俄ニは不相成様心得違致候者も可有之哉、御法度之儀は其日より相改候事專一之事ニ候、縦妻子等ニ至迄持來候共、被仰出ニ不相當之衣類は決而著

* 大判四十二枚。
 表題は「御料所御仕置五人組帳寫」となつてゐる。不入斗村鈴木源藏が文政八四年二月に筆寫したものである。天領。

用致間敷^(一)

附 近年百姓共之内長脇差お帯し、身分不相應之小袖杯致著用候者も有之由、不埒至極ニ候、畢竟右躰之者有之者を其分ニ差置候間、不辨者は見様見真似ニ美服お好、農業お疎略ニいたし、祭禮盛り場等ニ出、酒食ニ金銀お遣ひ捨候由、以後右躰之もの有之候ハ、早速可訴出、急度相糺候条、其方相心得、小前之もの共へ嚴鋪可申聞候、^(四)

一 祝儀事其外共決而料理ケ間鋪事致、振舞義無用たるへく候事、^(五)

一 神事祭禮等之義村ニ町ニ而所ニ寄、大造舞台お掛け、踊狂言等致候も有之由、是等は以之外ニ候条、以來村入用不相掛様、右躰堅ク相止可申候、併神事等之義往古々仕來候義有之は格別、訳ケ立候て祭禮等出候義有之候ハ、其段役所江申出、差圖可致事、^(六)

一 當時村之益ニ不抱、五七ヶ年或は拾ヶ年程にも相立、村助成ニ相成候品も有之候ハ、其村ニ不限、外村ニ江も申教江爲作可申事、^(七)

一 荒地之場所打捨置候而は立歸之義無之候間、如何様ニ茂出精起返り候様ニ可致候事、

附 荒地數年相立、土砂等置候得共、肥入諸作仕付候而も出來形不宜杯ト捨置之類有之趣相聞候、右躰之場所は少しの手入ニ而立歸候義有之候間、薄地之内は萩柳等お川上之方植候得は、一兩年之内出水之度ニ土砂置候様ニ相成候条、無油斷可相心得、^(八)

一 川除堤、御普請所・自普請所共、小破之内取繕候得は、出水之節相保、田畑損地も出來不致、平生小破

之内可致手入旨度ニ被 仰渡も有之候間、是等之義村方寄心得違いたし、御普請被 仰付お 公儀ニ而御厭ひ、村方へ取繕被 仰付候義ト存候不取用も有之哉、給之出水ニ茂堤押切候而、田畑損地致出來候類有之趣相聞江候、畢竟被 仰渡を熟得致ズゆへ之事ニ候、百姓力ニ及ひ候程之義は取繕ひ候得は、田畑損地ニも不相成、損地出來候得は、第一百姓難義之筋眼前ニ候条、此所相辨何分小破之内手入可致候事、^(九)

一 空地或は池浪地等新開いたし候而も差障無之場所も候ハ、早速訴出、新開吟味可請候之事、
附 用水無之、是迄打捨置候場所も有之候敷、又は用水掛りは有之候得共、用水路難場ニ而物入有之候ニ付、相願不申場所も有之候ハ、可訴出、見分吟味之上致方も可有之、^(一〇)

一 御納所筋ニ障無之、百姓之爲ニ相成候義も有之候ハ、可訴出、吟味之上相成候事候得は、申立遣可申候事、^(一一)

一 我等手代共廻村之節、不用之人馬決而不差出、休泊ニ而は御定之木錢米代相渡候間、所ニ有合之品お以、一 汁一菜之外、馳走ケ間鋪義堅致間鋪事、^(一二)

一 我等并手代・侍・中間・小ものニ至迄聊之品たり共、音信等致間鋪候、萬一心得違之者も候ハ、急度我等方江可申出事、^(一三)

一 博突賭之諸勝負は勿論、御免も無之、富其外三等附等致もの有之候ハ、早速可訴出候、召捕、急度可令吟味事、^(一四)

一 在町共火之元之義隨分念入可申、冬春之内晝夜當番を立、見廻り可申、見馴もの見掛怪鋪存候ハ、召

捕可訴出、捕違之義は不苦候事、

一 御用ニ而役所江罷出候もの可成丈手間取不申候筈、手代共江も申渡置候、御用向相濟候ハ、早と歸村可致候、若御用向相濟候而も、役所江隠シ、無謂長逗留致し候者有之候ハ、急度吟味之上咎可申付候条、其旨相心得可申候事、

右之條と小前百姓共江茂不洩候様爲讀聞、堅ク相守可申、尤書付之寫之奥江請書相認、追而可差出者也、

文政四巳年四月

右被 仰渡之趣御簡條逸と承知奉畏、依之一同御請連印一札差上申所如件、

巳四月

上總國市原郡不入斗村新田

名主

組頭

惣百姓

山田茂左衛門様

御役所

* 半紙列二十五枚。天領。

四五 文政五年信濃國佐久郡茂澤村五人組帳。

條々

一 前々從 公儀被 仰出候御條目之趣ハ勿論、自今以後御法度之旨堅相守可申事、

一 五人組之義家並最寄次第五軒宛組合、其内ニ而可然もの壹人宛組頭ニ相極メ置、借家・門屋・寺社門前・下人等ニ至迄、諸事吟味仕、常々申合、悪事出来不仕様ニ可仕候事、

一 一切支丹宗門之義御制禁之條不審成者有之ハ、早速可申出候、若不審成もの隠置、後日顯候ハ、名主・五人組共ニ急度御 仕置ニ可被 仰付之事、

一 常々無油斷耕作ニ精を入、百姓等ニ不似合遊事仕間敷、若耕作ニ不精成もの有之ハ、隨分致異見、不用ニおゐてハ可申出事、

附り 耕作商賣諸職及不仕、胡亂成もの有之候ハ、可申出事、

一 父母ニ孝行盡し、兄弟親類とむつましく可仕候、若親類とふ和ニ而、異見をも不用、ふ孝ふ義之輩有之ハ、名主・組頭・五人組致吟味可申出事、

一 兼而被 仰出候通り捨子堅仕間鋪候、惣而便なき老人幼少之もの有之ハ、其所ニ而介抱いたし、不及湯命様ニ可仕事、

一 其村鉄炮之儀前々吟味之上預ケ置候之外、一切所持仕間敷候、尤持主之外、他人ハ不及申、親子兄弟た

五人組帳資料

りといふ共、堅かし借致間敷事、

- 一 人賣買御制禁之条堅相守、召仕之男女其外譜代抱候とも、宗門相改、儘成證文を取り、差置可申事、
- 一 捨馬不仕前之通り相守可申候、自今はなれ牛馬有之ハ、名主・組頭立會、養置、早速可申出事、
- 一 御年貢米江戸廻り之節、積舟之義武年三年之外古舟、又は船道具不足之船ニ積申間敷候、尤名主・組頭立會、吟味仕、儘成船頭相極候上、手代見分を請可申候、勿論壹ヶ村之御米壹艘ニ積送り不申、村ニ組合ニ可仕候事、

一 御年貢米之儀前之通り隨分念を入可申候、尤繩依等迄、名主・組頭立會吟味可仕事、

附り 廻米之外、金納之分日限申觸次第無遲滯上納可申候事、

一 御朱印傳馬并往還之繼人馬、先規勤來り候儀は不及申、傳馬宿之外在にたりといふ共、御用ニ而通り候衆有之ハ、晝夜雨風をいとわす、人馬無遲滯出し可申候、尤御朱印之外、定之駄賃請取繼送り可申候、若囚人通り候ハ、無油斷人馬出シ、大切ニ可仕事、

附り 往來之對旅人ニ、ふ作法成義仕間敷事、

一 道中筋宿江大助・定助郷之義、宿場間屋方人馬申觸次第、不限晝夜、無遲滯差出シ可申候、勿論壹ヶ村之人馬割合少も無甲乙様、急度名主・組頭吟味可仕事、

附り 往還其外共ニ道橋組合村ニ之分、是又道橋本入用人足申觸次第急度相勤可申事、

一 田畑永代賣買・頼納賣買并八重賣之義御制禁之条堅仕間敷候、惣而質田畑之義從前ニ被 仰出候御仕置

之筋急度相守可申候、尤年季質物ニ入候共、名主・組頭・五人組加判を以、證文取置可申事、

附り 名主・組頭加判無之證文ハ取上無之事、

一 跡ニ有來り候造酒屋之外、自今以後新酒屋仕立申間敷候事、

附り 前ニ御改之節御免高造酒米之外、堅造酒仕間敷候、勿論内ニ而酒株賣買仕間敷事、

一 火事喧嘩、其外不依何事ニふ慮之義於有之は、早速注進可仕事、

附り 火本之義、五人組切ニ常ニ吟味致シ大切ニ可仕候、勿論村中之義ハ不及申、隣郷出火有之ハ、

早速火本江かけつけ、火を消し可申候、諸道具等惣而綺申間敷事、

一 御年貢米郷藏ニ積置候節、番人附置大切ニ相守可申候、若村内出火有之ハ、惣百姓かけつけ、火を不移様ニ隨分防可申事、

附り 御米郷藏ニ積置候節、御用ニ而出入仕候者、名主・組頭立會相對仕置可申候、雨風之節ハ度ニ

見廻り破損又ハ雨洩不申様ニ常ニ心ニかけ可申事、

一 御傳馬宿其外村方出火有之ハ、御高札燒失不致様ニ心かけ、はつし取御注進可申事、

一 旅人ニ一夜宿かし候共、出所能ニ承り届、名主・五人組江可相斷候、若無據義有之ハ、翌日逗留仕ルにおゐてハ、名主・五人組立會吟味之上留可申、尤怪敷ものニ候ハ、一夜之宿茂かし申間敷事、

附り 旅人何成とも落置候ハ、早速追かけ爲持可遣候事、

一 旅人相煩候願、又ハ酒醉有之ハ、名主・組頭立會、諸事之品ニ相改、在所假名承り届ケ、介抱致置、本

服之後、右之品ミ渡可遣候、煩おもきニおゐてハ可申出事、^{〔三〇〕}

一 他所より手負之もの來り候ハ、名主・組頭立會介抱いたし、委細承り届ケ可申出度、^{〔三二〕}

一行倒之もの有之ハ、名主・組頭立會、委細相改、所持之雜物合封附置、死骸其所を不替、番人附置、早速注進可仕候、尤尋來ルもの有之ハ、出所承り届ケ、是又可申出事、^{〔三三〕}

一 欠込もの有之節、追而之者慕來り、其届ケ於有之ハ、早速村中之もの馳集、隨分取逃シ不申様致シ置、注進可仕事、^{〔三三〕}

一 博突、惣而賭之諸勝負一切可爲停止、尤宿堅ク仕間鋪候、若相背もの有之ハ可被重其科事、

附り 常々人の妨をなし、或ハ酒犯口論を好ミ、又は公事其外無筋訴訟を致、腰押族有之ハ、法外成

世渡致スもの有之ハ、名主・組頭吟味之上可申出候、尤用事なくして、切々出入もの有之ハ、五人組之ものを付可申事、^{〔三四〕}

一 喧嘩口論有之ハ、開付次第取押可申候、人を討、立退候もの有之ハ、押へ置可注進、若取逃シ候ハ、跡を慕、落付所を見届ケ預ケ置可注進事、

附り 喧嘩口論取押へし節、飛道具持不可出、尤加勢不致事、^{〔三五〕}

一 堂宮山林ニ怪敷者不罷有様ニ常々吟味可仕候、惣而行衛不知もの一切差置申間敷事、^{〔三六〕}

一 郷中番屋之義、如有來ル、番人指置、ふ審成義有之ハ、聲をたて可申候、自然盜賊候ハ、番人ハ不及申、所之者もかけつけ捕へ可申候、むさと殺シ申間敷候、若不出合もの有之ハ、可爲越度事、^{〔三七〕}

一 新規之寺社方不可建、并念佛塚・庚申塚・ほこら等有來ルハ外不可致事、

附り 住寺・神主代目之節ハ可申出事、^{〔三八〕}

一 神事祭禮等先例ニ而仕候共、失却無之様ニ、村中出錢ニ而隨分輕ク可致候、尤新規之祭り仕間鋪候、風祭り、蟲祭り仕候共、是又輕ク可仕事、

附り 法事・追善等不應分限ニ義堅不仕、隨分輕可致事、^{〔三九〕}

一 勸進能・相撲・操・狂言・芝居、其外諸見物之類可爲停止事、

附り 遊女歌舞好子之類一切不可指置事、^{〔四〇〕}

一 不依何事ニ徒黨ケ間敷義不及申、惣而百姓一烈事仕間鋪候、無據公事出入出來候ハ、名主・組頭・五人組立會取扱之不相濟儀ハ可申出事、

附り 荷擔之者有之ハ、又ハ公事を工、出入を進る族有之ハ、其科重かるべき事、^{〔四一〕}

一 村境ハ不及申、田畑山野山之境目ニ付、違論無之様、常々念を入可申事、

附り 古荒起歸り、井川欠崩等之立歸り新田畑、切添之場所所有之ハ、少ニ而も無隱可申出、尤御所務可立筋之義於有之ハ、是亦注進可致事、^{〔四二〕}

一 用水之儀先規之例を以、兼而相定置、渴水之節諍論無之様ニ可仕事、^{〔四三〕}

一 川通り之村ミ洪水之節ハ、名主・組頭・惣百姓罷出、堤・川除・井堰・溜池等押切不致様ニ隨分防可申候、勿論常々無油斷、御普請所不及大破様ニ可相心得事、

附り 用水溜池井井堰共ニ毎年春之内凌可申事、^{〔三三〕}
一 往還之道橋は不及申、脇道ニ而も常々無油斷繕之、人馬通路難儀不致様ニ可仕事、

附り 有來ル道井堀溝を田畑へ切込申間敷事、^{〔三五〕}

一 川船渡船運賃之義古來定之通り不可違事、

附り 御城米積候船ハ不及申、ふ慮之破船有之ハ、近在之者早速罷出相働、尤荷物紛失無之様ニ仕、
可致注進事、^{〔三六〕}

一 公儀御林之儀ハ不及申、山林井四壁之竹木猥リニ伐荒申間敷事、

附り 御林井往還並木、風折等有之ハ、當分通路障リニ成不申様仕置、早速注進可仕事、^{〔三七〕}

一 御巢鷹山有之村は別而大切ニ相守、猥リ々間敷義無之様ニ、巢守ハ不及申、村中常々吟味可仕事、^{〔三八〕}

一 金銀鉛銅山有之ハ、見立次第注進可致事、

附り 硫黃山・松茸山有之村は運上可出事、^{〔三九〕}

一 御用ニ付何方ノ茂廻文有之節ハ、不限晝夜、先々江相届、請取手形取置可申事、^{〔四〇〕}

一 市場其外在ニ而も新規ニ質屋相始候ハ、其段願出、可得差圖候、但シ質物取候ニおゐてハ能々念を
入、慥成請人爲立、可取之、縦親類縁者ニ候とも、不審成もの持來り候ハ、少之内茂受取申間敷事、^{〔四一〕}

一 百姓家作之儀、分限ノ輕ク可仕候、目立候普請不可致候、衣類之儀ハ名主妻子共ニ布木綿之外、著シ申
間敷候、純子・紗綾・縮緬・羽二重、惣而糸織卷物類多りおひ等一切用へからず事、

附り 男女共ニ乗物井乗鞍馬停止ニ候、惣而奢ケ間敷義不可致、尤御免なくして刀堅不可差事、^{〔四二〕}

一 毎年地面相應之種物、秋之内心懸ケ、其外百姓作夫食迄貯置候様ニ可仕候、其心懸なくして自然夫食・
種貸等相願候共、惣而取上無之事、^{〔四三〕}

一 田畑讓り候節、高貳拾石以下ハ分ケ申間鋪候、若無據子細有之ハ可申出事、

附り 居村家作之外は無據わけニ而さしかけ等ニ而も致度候は、名主方へ相届、名主方ノ可相伺候
事、^{〔四四〕}

一 一婢・一姫・養子取組之儀、名主・組頭・五人組立合、能々念を入、重而六ヶ敷義無之様可仕事、^{〔四五〕}

一 一行衛知れざる浪人一切指置申間敷候、無據所縁有之、他所ノ引越候もの於有之ハ、遂吟味、慥成證人ヲ
立、其斷可申出事、

附 所生之者たりとも年久敷他所ニ罷有、立歸り候者有之ハ、其斷可申出事、^{〔四六〕}

一 他所へ罷越一宿ニ而も可仕節ハ、名主ハ組頭と申合、其外之者は五人組へ相斷、歸り候ハ、其届可仕
事、

附り 江戸井何方へ用事有之、罷越候ハ、其事相濟次第早速可罷歸、永逗留不可致事、^{〔四七〕}

一 跡式之義兼而書置致、其者之親類・縁者井名主・五人組立會加判いたし、死後ニ出入無之様可仕事、

附り 跡目無之者ふ慮ニ死失候ハ、所持之品々名主・組頭・五人組立會、諸色帳面ニ記、親類・縁
者之内、爲立會、跡目可繼筋目を糺、極次第可引渡事、^{〔四八〕}

一 獨身の百姓長病なといたし候か、又ハあやまち有之、耕作成兼候節ハ、五人組にて助合、田畑荒シ不申様ニ可仕事、^{〔四九〕}

一 訴訟其外不依何事ニ、申出候義有之ハ、五人組へ斷、名主・組頭を以可申達候、若取次不仕ニおひてハ直ニ可申出事、^{〔五〇〕}

一 名主・組頭非分成義申懸、小百姓を掠メおひてハ可申出、百姓我儘いたし、名主・組頭之申付をも不承引者有之ハ、詮儀之上急度可申付事、^{〔五一〕}

一 町在共諸事御用ニ付、手代差出シ候節、當用之物相調之、所相場代錢請取之可申候、逗留候ハ、飯米・鹽・味噌其外入用之もの、銘・直段付賣上手形出之、尤御定之木錢受取、何ニ而も馳走ケ間敷〔義〕一切仕間敷候、并召仕之者、中間小者迄、右同事ニ相心得可申候、勿論金銀米錢・酒肴・衣類・諸道具、何様之輕キものニても、音物堅仕間敷候、尤金銀米錢當分たりといふ共、一切借貸仕間敷候事、

附 手代召仕之者迄非分之義申者有之ハ、早速可申出事、^{〔五二〕}

一 毎年御年貢割付出候ハ、惣百姓并入作之者迄立會、明細ニ割合、勿論大小之百姓入作共ニ免上披見之上、無高下割賦仕ル段、名寄帳奥ニ印形仕置可申候、且又毎年御年貢皆濟無之以前、穀物猥リ他所へ不可出ス候、村ニ名主仕形之儀、毎度小百姓共ニ茂相尋候条、非義仕間敷事、

附 御年貢米金惣而上納物名主・組頭請取候節、手形を取、其上元帳ニ納人印形致置、重而出入無之様ニ念を入可申候、名主ハ不及申、小百姓之内、御年貢引負、遂電可仕様子有之哉〔五三〕之常ニ心付

可申候事、^{〔五三〕}

一村ニ御普請人足扶持方其外被下、拜借物之類、當座之割合可申候、并年中村入用懸リ物之儀、其時ニ名主・組頭・年寄百姓立會、帳面ニ記、致印形置、ふそくなき様ニ割合置而、出入無之様ニ入念可申候、若ふ吟味之儀有之、申出候ハ、詮義之上、名主・與頭可爲越度事、^{〔五四〕}

附 繼合勘定一切仕間敷候、不依何事ニ、合點之上ニ而可致印形事、
一 惣而百姓印判龜末ニ致候旨相聞、後日及違論候義など有之由、不依何事、直ニ書物見候而印形可仕候、勿論印形替り候ハ、名主・組頭へ相斷可申候事、^{〔五五〕}

一 御料所國ニ百姓共御取箇并夫食種貸等、其外願筋之義付、強訴・徒黨・逃散候儀者、堅ク停止ニ候處、近來御料所之内ニ而右躰之願筋ニ付、御代官陣屋へ大勢相詰訴訟致候義茂有之、不届キ至極ニ候ハ、自今以後嚴敷吟味之上、重キ罪科ニ可被行候条、可得其意事、^{〔五六〕}

右之條ニ堅可相守、若違背之族有之は、當人は不及申、品ニより親類・縁者・名主・組頭・五人組迄、可爲曲事者也

右御條目之趣、村中大小百姓水吞之者迄、不殘奉承知候、勿論前ニ被仰渡候得共、猶又此度急度被仰付候上は、自今以後彌以被仰渡候御法度之趣無油斷相守、少茂違背仕間敷候、若相背者御座候ハ、當人は不及申ニ、其者之親類・名主・組頭・五人組まで如何様之曲事ニも可被仰付候、此一札名主方ニ寫置、惣百姓寄合之度ニ爲讀聞、末ニ之者迄御箇條知存罷有、常ニ相守候様ニ可仕候、爲其村中相談之上、五人組相極、

連判ニ而差上申所仍而如件、

文政五年
午正月改*

佐久郡茂澤村

名主 市 兵 衛
 組頭 市右衛門
 " 清左衛門
 百姓代 良左衛門

* 月日の傍らに「御公儀様方御渡シ被遊候」と記してある。この月に下付されたことを意味するのかどうかは、はつきりしない。なほ本原帳は名主方の寫であつたと見えて、五人組の割付けには訂正が書き込まれてあるが、ここには最初の印形ある分だけを記載し、訂正は省略する。

吉五郎組	安五郎	長右衛門	佐左衛門
三郎左衛門	金兵衛	吉兵衛	平右衛門
茂兵衛	喜兵衛	嘉左衛門	新左衛門
久兵衛	重太郎	峯之助	新藏
忠藏	政五郎	貞右衛門	勝次郎
忠吉	幸三郎	勝五郎	音彌
與左衛門	友次郎	幸左衛門	良右衛門
源藏	龜吉	又兵衛	佐五左衛門
勇吉組	庄左衛門	傳五郎	文左衛門

磯五郎	太吉	兩左衛門	丹藏
幸次郎	政左衛門	市左衛門	惣助

右之通り年々御公儀様江差上申候處少相違無之候、以上、

四六 文政六年下總國香取郡橋田村五人組帳*

(本五人組帳前書は文言に多少の相違はあるが、文化八年武藏國多摩郡上長淵村の分に同じ。ただ六十四條から成り、最後の一條を缺くのみ。即ち兩者とも田安領であつたためであらう。村名橋田は、又橋田とも讀めるが、何れにしても香取郡中に未だその名を發見し得ない。暫く橋田村として置く。裏表紙に「田安延享四年五月、此書付相渡る、則此年田安御領に成る」とある。最後の名宛は次ぎの如し。)

文政六年癸未年

名主 五 兵 衛
 百姓代 治 右 衛 門
 組頭 治 郎 左 衛 門

伊藤仁左衛門様

五人組帳資料

* 半紙二十二枚。表紙には「御仕置條々」とあるのみ。田安領。

四七 文政八年五人組御條目*

〔五人組帳前書のみ。全文五拾四條附二拾二條。多少の差違はあるが、後掲の五〇文政十年下總國葛飾郡大
 野新田五人組御仕置帳と同様故、これを省略し、五〇の上欄に主なる異同を記して置いた。本帳の最後に
 「文政八百三月」と記してあるので同年のものとしたのである。〕

* 半紙二十二枚。
 表紙には「安政三
 酉辰四月上旬寫之
 とあり、「御條目
 寫」壹通と題す。
 國郡村名不詳。

** 中判二十六
 枚。天領。

四八 文政九年下野國芳賀郡上籠谷村五人組御仕置帳**

- 一 前々從 公儀度々出候御法度書之趣、彌以堅相守、御制法之儀不相背候様、村中小百姓下々迄可申付事〔一〕、
- 一 五人組之儀町場は家並、村方は最寄次第五軒宛組合、子供井下人・店借・地借之者ニ至迄、悪事不致様、
 組中無油斷可令詮儀、若徒もの有之、名主之申付をも不用候ハ、可訴之事〔二〕、
- 一 公儀を重し、御年貢諸役等太切ニ相勤、親ニ孝を盡し、下人は主ニ従ひ、夫婦兄弟、諸親類ニむつまじ

く、下人をあわれみ、友立ハ老たるを敬ひ、物毎心を合、村中まち／＼に無之様可相勤候、人に勝れ親に
 孝行成者有之候ハ、其様子見届可申出、若不孝之者候ハ、随分異見申聞、承引不致候ハ、無隠役所
 江可申出、且又老て子もなく、幼少にて親に放、或ハ後家に成、かたわに成、又ハ長病杯ニ而より所なく、
 身上難立者有之時は、一類共は不及申、名主・組頭・五人組心を合、引立渡世可爲致事〔三〕、

一切支丹宗門之儀、累年御制禁ニ候間、常々堅相守り、毎年相改候節、店借・地借・召仕等迄、壹人茂不
 殘寺請狀取置可申候、万一不審成もの見出、聞出候ハ、早速注進可申出候、若見逃、聞逃いたし、他所
 へ顯れ候ハ、當人は不及申、名主・組頭・五人組迄急度罪科可被行候事、

附 高札場覆垣損候ハ、無油斷修覆可致事〔四〕、

一 田畑壹歩之所茂荒置申聞敷候、いわれなく荒置候ハ、上毛之御年貢申付、其上地主・名主・組頭共急
 度曲事に可申付事〔五〕、

一 田畑を費し、衣食之助ニ不成物作り申聞敷事〔六〕、

一 御年貢米金納之儀、役所へ觸出次第、日限無相違急度上納可致候、若日限相違之村方は吟味之上越度可
 申付候、惣而御年貢收納之儀は百姓第一之事ニ候處、前々は年内ニ皆濟不致、來春ニ至リ上納致候事不宜
 候、其年之作毛を以、致收納候儀ニ候得は、翌年迄致遲滯候儀は有之間敷事ニ候、若又來春ニ至、春稼を
 以納候は翌年之御年貢と申物ニ而候、向後は極月十日限皆濟之積、惣而可相心得候、御年貢遲滯之村方ハ
 役所江度々召呼、村方江茂手代取立ニ相廻、其上ニ茂滯候村方ハ咎め申付候得は、旁以百姓之ために不宜

候故、日限之通皆濟致候儀、百姓之勝〔一六〕ニ成候条、惣百姓暮方常ニ致覺語、御年貢皆濟無滯様可相心得候事〔一七〕、
 一 御年貢皆濟不致以前、穀物他所江出申間敷候、尤能米賣替、悪米を以御年貢ニ納出候ハ、當人は不及申、名主・組頭・五人組迄急度越度可申付候事〔一八〕、

一 御年貢米拵之儀隨分撰立、入念繩俵等迄定之通拵、江戸廻可致候事〔一九〕、

一 御城米并麥・大豆・稗・荏取立、郷藏又ハ名主手前ニ差置候節、或ハ火事、或ハ盗人、又ハ積置候内、ふけ・鼠喰等ニ而損失有之候ハ、村方ニ而急度辨納可致事、

附 御用置米同斷ニ可心得事〔二〇〕、

一 御年貢米升取之儀、郷中相談ニ而相立、御定之通升入斗立、三斗七升納可申候、江戸廻納之儀、村中相談にて宰領付可申候、縦河路ニ而御米如何様之減米立候共、村方辨納可致事〔二一〕、

一 夫錢帳・五人組帳・宗門帳正月・二月中ニ差出可申候事〔二二〕、

一 割附其外役々渡候書物、惣百姓寄合致披見、其年損毛引方共、明細ニ割賦致、割付之裏ニ惣百姓印形可致候、若名主登人ニ而割合候ハ、早ニ可申出候事〔二三〕、

一 御年貢皆濟目錄相渡候節、大小之百姓披見之上相違無之旨、惣百姓連判之請書差出可申候事〔二四〕、

一 一年々御年貢内割仕候節、名主・組頭・小百姓寄合、勘定相違無之様割合致、反歩米永員數委細記之、皆濟手形押切印形、小百姓方江名主方可相渡候事〔二五〕、

一 御年貢米金其外假初之ものニも五ニ請取手形取置可申候、證文無之出入ハ不取上候事〔二六〕、

一 諸役入目之品ニ其當座委細帳面ニ付置、名主方ニ登冊、百姓方ニ登冊差置、年限勘定極、出入無之様可致事、

附 御年(貢)金・夫錢無差別割合致間敷候事〔二七〕、

一 檢見下見帳之儀ハ名主・組頭・田主立會、坪刈目掾〔二八〕いたし、壹坪ニ付何合毛と田毎明細ニ記、名主・組頭與印致、帳面登冊宛可差出候、建札と右帳面相違之儀有之候ハ、遂一吟味いたし、檢見手間取候節ハ、村々物入多、百姓稻刈取候障ニも相成候間、入念明白ニ可致事〔二九〕、

一 御普請人足御扶持方等被下候節ハ、當座ニ小百姓江割渡、爲致證文、名主方江取置可申候、惣而從公儀渡候米金、納物之替ニ次合勘定仕間敷候事〔三〇〕、

一 田畑屋敷年季を定、質物ニ入、金銀等預候ハ、名主・組頭・五人組加判之證文、双方ニ取置可申候、勿論年季ハ拾ヶ年之外永年季ニ致間敷候、田畑質物之儀可埒明儀を、名主・組頭私曲を構、加判相滞、當人迷惑致候ハ、其段可申出候、名主・組頭無加判、相對ニ而證文致候ハ、双方可爲曲事〔三一〕、

附 質置主名主ニ候ハ、合名主加判可致候、相名主無之候ハ、村中組頭外百姓代可令加判事〔三二〕、

一 田畑永代賣買之儀、兼而御法度之通堅相守可申事〔三三〕、

一 質物證文たり共永代之文言書入申間敷候事〔三四〕、

一 御朱印地一切質ニ取申間敷候事〔三五〕、

一 御鷹場ニ而鷹を遣ひ候者有之候ハ、相改、何方迄茂付參、宿閉届、御鳥見江其品可申達候、縦餌差ニ

候とも、御法度之鳥取候ハ、可致注進候事^{〔三二四〕}、
 一 鉄炮之儀兼而申渡候通、急度相守、相互ニ致吟味、隠シ鉄炮所持之者有之ハ、早速可申出候、并他所ノ
 罷越、鉄炮打候もの有之候ハ、相改可申候事、

附 御鷹場之外、殺生御免之場所ニ而茂鶴・白鳥ハ不及申、御法度之鳥類一切取申間敷候事^{〔三二五〕}、

一 御林・御立山之竹木は不及申、枝葉成共一切伐採申間敷候、若盗取候者有之候ハ、召捕、可致注進候、
 深山ニ而當分不相知存盗取候敷、又ハ村中申合、焼畑等ニいたし候事、外ノ露顯致候ハ、吟味之上、名
 主・組頭・五人組迄急度曲事可申付候、縦百姓自分ニ仕立置候山林四壁之竹木ニ而茂、無斷猥ニ伐荒申間
 敷候、家作其外無據入用之節は役所江申聞、可請差圖事、

附 野火一切付申間敷候事^{〔三二六〕}、

一 新地寺社建立之儀堅御停止ニ候、惣而ほこら・辻堂・石塔・供養塚等之類、田畑野山道路之端、新規ニ
 一切立申間敷候、神事・佛事・祭禮等致來候儀茂、輕ク可致候、新規之祭禮等不可取立事^{〔三二七〕}、

一 神佛致開帳候ハ、可致注進候、當村ノ當分他所江相移、開帳等致候ハ、是又前方ニ可致注進候、又
 ハ他所ノ神輿を送來候様成儀有之ハ、不可受取之、尤少之間も不可差置事^{〔三二八〕}、

一 能・操・歌舞妓・相撲、其外何ニ而茂、小見世物類・淨溜理語等村内ハ不及申、村境ニ而茂一切致間敷
 候、勿論右躰之宿致間敷候事、

附 遊女・野郎等一切差出申間敷候事^{〔三二九〕}、

一 博奕之儀御法度之趣堅相守可申候、惣而賭之諸勝負一切致間敷候、若宿致候者、本人同様御仕置可申付
 事、

附 三笠附之類御法度之趣堅相守候事^{〔三三〇〕}、

一 人請加判猥ニ致間敷候、若親類敷、又ハ出生能存、儲成者ニ候ハ、名主・組頭江相斷、請人ニ立可申
 候事^{〔三三一〕}、

一 不依何事、一身同心致、徒黨ケ間敷儀、或ハ公事出入を好、惡事ニたつさわる者有之ハ、早ク可申出候、
 遂一吟味之上、頭取ハ不及申、一味之輩罪之輕重ニ隨ヒ、急度御仕置可申付候、若隱置候ハ、名主・五
 人組迄可爲曲事、

附 公事出入出來候儀は百姓困窮之基候条、常ニ互ニ可慎之候、郷中ニ而騒動ケ間敷儀出來候ハ、
 早ク可訴之候、且又訴狀願書差出候ハ、不依何事名主・組頭江相斷、名主奥印於無之は不取上
 候、若名主江對し候出入敷、又ハ名主非儀を構、不致奥印候ハ、其趣可申出候、勿論非儀を申
 立、名主・組頭申聞候儀茂承引不致、名主奥印無之訴狀・願書差(上)候ハ、吟味之上急度可
 申付候事^{〔三三二〕}、

一 他村之田畑野山川境并水論其外公事出入出來候ハ、名主・組頭隨分正路ニ致詮儀、内ニ而不相濟候
 ハ、早ク可訴出候、不詮儀ニ而非分成儀、最貞之沙汰有之間敷事、

附 他領江訴訟事申出候儀役所江無斷不可罷出事^{〔三三三〕}、

五人組帳資料

一 盜賊惡黨者有之候ハ、村中之者早速出合、召捕可申候、若近郷々追來候ハ、無油斷出合捕候而、其子細相尋、追來候者江相渡、可然筋ニ候ハ、證文取、可相渡、若難相渡訊有之候ハ、追來候者共留置、役所江可申出候、堂宮・山林・野・川原等に不審成者からまり有之候ハ、村中立合、擲取可置候、若捕候儀難成候ハ、跡をしたひ行、先江斷置、早ニ可注進候、縦同類ニ而も、其科をゆるし、仇をなざる様可申付候、萬一隠置敷、又ハ見逃、聞逃シいたし、外ハあらはれ候ハ、本人ハ不及申、名主・組頭可爲越度事、^{〔三五〕}

一 市町江出、大酒を吞、醉狂致、百姓・町人ニ不似合狼藉等致候ハ、無隠可申出候、見逃、聞逃等致、惡事出來候ハ、當人ハ不及申、吟味之上、同道之者迄曲事可申付事、^{〔三五〕}

一 旅人其外何者ニ而茂相煩候敷、又ハ酒ニ醉、道路ニ倒臥候者有之候ハ、致介抱、行衛開届ケ通可申候、若相果候ハ、名主・組頭立合、其者之年頃・衣類・諸道具・荷物等明細ニ書付可申出候、勿論手負ニ候ハ、不限晝夜早ニ可申出候事、

附 所之者ふ慮ニ疵抔蒙候者有之候ハ、是又早速可申出事、^{〔三六〕}

一 往來之者喧嘩・口論等ニ而人を切、立退候節ハ、所之者并隣郷之者出合、留置、早ニ可申出候、若切拂逃候ハ、先ニ何方迄茂付參、落付所江渡置可申候、理不盡ニ打殺申間敷候事、^{〔三七〕}

一 在所ニ江盜人入候ハ、委細書付、早ニ注進可申出候、縦雜物不盜取候共、其訳可申出候、若延引いたし、其盜人欠落致候敷、雜物紛失爲致候ハ、其者ハ不及申、名主・五人組迄可爲越度事、^{〔三六〕}

一 火を附るものを及見聞候ハ、早ニ可申出候、惣而村中常ニ火之元入念、相互ニ危末無之様可致候、若出火有之候ハ、早ニ馳集可消之、火鎮候以後、火元名・類焼之家敷・時刻等委細書可致注進事、

附 火消道具拵置、名主宅或ハ番屋江可差置事、^{〔三九〕}

一金銀・衣類・諸道具、何によらずひるひ候ハ、名主或ハ問屋江申聞、差圖を請可申候、萬一隠置、後日にあらはれ候ハ、急度越度可申付候事、^{〔四〇〕}

一 衣類・道具、又ハ門橋等之はづし鉄物之類、出所不知賣物買取間敷候、右之類質ニ取、又ハ不可隠置、出所知候者ニ而茂、請合無之候ハ、質ニ取申間鋪候事、^{〔四一〕}

一米穀・金銀・衣類・諸道具・藥種之類、新規之品ハ勿論、有來品物ニ而も相増仕出候儀停止之事、^{〔四二〕}
一 似せ藥種・毒藥賣買一切仕間敷候事、^{〔四三〕}

一 御傳馬人馬之儀、役人ハ斷次第差出可申候、其儀なく候ハ、壹人壹疋茂差出申間敷候、馬次宿ニ前ニ從、公儀被仰出候御法度之趣、堅相守可申候、御定人馬無遲滯差出可申候事、^{〔四四〕}

一 御傳馬宿江助郷々人馬寄候儀、問屋年寄致吟味、猥に人馬觸申間敷候、其宿ニ馬を圍ひ置、面ニ勝能荷物附候様成儀一切致間敷候、助郷之儀は晝夜風雨ニ不限、人馬無滯出之、問屋年寄之任差圖、役儀相勤可申候、尤人足馬士往還之面ニ江對し慮外仕候敷、荷主宰領合點無之、途中ニ而荷物附替候事爲致間敷候事、^{〔四五〕}

一 地頭役人并往來之面ニ在ニ通候節、人馬雇度由申候ハ、主人其者之名苗字又ハ先ニ之駄賃・人足賃

拂帳見届、無相違候ハ、御定之賃錢請取之、無滞先ニ江次送可申候、御傳馬宿ニ而無之候共、少茂疎略遅ニ致間敷候事、^{〔四六〕}

一 御用之儀并諸役等申付候節、時刻不違急度可相勤、尤手代御用ニ而廻村致候節、人馬無滞可差出候、無益之人馬駕籠一切差出申間敷候、惣而村次之廻狀、晝夜風雨ニ不構、刻附致、相送可申候、御用ニ付呼出候節、書付之通無滞可參候事、^{〔四七〕}

一 百姓印判、農業ニ出候共、身をはなさず、常ニ所持致、若紛失致候敷、替候ハ、名主・組頭ハ役所江相斷可申候、小百姓ハ名主江申達、帳面ニ附置可申候、惣百姓印形を名主・組頭江預置申間鋪候、名主・組頭茂預候ハ、急度可爲越度事、^{〔四八〕}

一 百姓何方江罷出候共、刀差申間敷候、勿論輕キ侍奉公ニ出、其後在所江引込、先主々合力等請候共、刀指間鋪候、尤詮儀おこたるニおゐてハ名主可爲曲事、^{〔四九〕}

一 諸浪人を抱置候儀堅無用ニ候、若親類・縁者、又ハ難遁者ニ而宿致候ハ、其訳注進可致候、無其儀、宿致候ハ、急度曲事可申付事、

附 江戸近在浪人御改場所ハ前ニ被仰出候通可相守事、^{〔五〇〕}

一 不依男女、欠落者諸浪人并無宿、惣而行衛不知もの、一夜之宿茂致間敷候、飛脚之者其外獨旅人ハ能ニ見届、慥成儀有之候ハ、宿場ハ問屋年寄江斷、一夜は借可申候、在ニ村ニ而ハ一切宿不可致候、若宿不致候而不叶事有之候ハ、名主・組頭江相斷、差圖可請候、且又親類・縁者・好身之者、又は所出生之

者成共、數年他所ニ罷在立歸候ハ、先ニ而之儀能ニ致詮儀、様子承届、差置可申候、然上ハ僧俗男女共、其子細を書付、役所江可申出候事、

附 道心者・山伏・行人・虛無僧・かねたゞき・非人等之類ニ至迄、行衛不知もの一夜之宿も借申間敷候事、^{〔五一〕}

一 捨子可爲停止候、若他所之者捨置候ハ、村中ニ而養育いたし、早ニ可致注進候事、^{〔五二〕}

一 捨牛馬不可致候、若他所ニ捨牛馬并放牛馬來候ハ、見付次第名主・組頭江申達、村中立會、致詮儀、持主相知候ハ、其村ニ名主并牛馬主々手形を取相返、其上早ニ可致注進候事、^{〔五三〕}

一 馬之筋をのべ候儀不可致、牛馬賣買致候ハ、出所改、受人取、名主・組頭江斷、賣買可致候、内證ニ而怪敷牛馬賣買致間敷事、

附 作場江牛馬放申間敷候事、^{〔五四〕}

一 地借・店借・出店之者差置候ハ、入念請人を立、證文取置可申候、無其儀其者惡事仕候ハ、地主・家主ハ不及申、名主・組頭・五人組迄可爲曲事、

附 店立候ハ、請人々引取手形取置可申候事、^{〔五五〕}

一 百姓他所(江)出、一夜泊罷出候程之儀は、名主江相斷可罷出候、若他所江奉公ニ出候敷、如何様之儀ニ而他出致候共、其子細名主・組頭江書付を以可相斷事、^{〔五六〕}

一 百姓持來候田畑、子ニ讓候儀、小高之百姓ハ勿論、持高拾石内之百姓は一切分々申間敷候、若分々渡不

申候而不叶儀ニ候ハ、其訳書付、役所江申達、差圖可請事、

附 跡式之儀、不依老若、病中書置いたし、名主・組頭加判取置、死後爭論無之様可致候、若書置心

掛茂不致百姓有之候ハ、名主・組頭并妻子・親類共立會、病人江申合、所存之程書付置可申候、
壹人立候書付不用候事、

一 百姓身持之儀、諸事者ケ間敷儀致間敷候、惣而衣類之儀布・木綿・絹・紬之外、帯・半氈り・袖口等ニも不致、目出候家作不仕、名主妻子たり共、百姓ニ不似合風俗いたし、又ハ長脇差を指候儀令停止候、并男女共乗物乗鞍ニ乗間敷候、且又浪人寺社たり共、田畑を作り候もの、諸事百姓同然可相心得候、第一農業不致油斷、浦山ニ而も稼助ニ可成物見斗ひ、潤澤ニ候而茂、猥不遺捨、尤幼少又ハ年寄稼不成者ハ、草木之實葉根等、其外時々之物を取置候而、夫食之たりニ致、雜穀を貯置、凶年之節不及稼、百姓相續候様、兼而心掛ケ可勵事、

一 掣取・賑取并新宅・初産之祝儀等奢ケ間敷儀無之様、分限々輕ク可致候、祝言之水祝ひ停止(之)事、

附 葬禮之野酒停止之事、

一 身代不成百姓ハ前方々名主・五人組見斗ひ、其者之可納御年貢相考、猥ニ爲遣申間敷候、若又欠落など致候ハ、其者之御年貢村中弁納可致事、

一 小百姓退轉致候跡之田畑持添ニ致候事御法度候条、可得其意候、前々百姓壹軒分之跡は死失候とも、百姓ニ仕付、壹軒之跡立可申候、村方之斗ひニ不罷成候儀は早ニ可申出候、無其儀、家を崩し、又ハ四壁

之竹木を伐候ハ、其五人組・名主・組頭共ニ急度越度可申付候事、

一 酒造屋之儀、役所帳面之外、新規ニ酒屋一切出申間敷候、尤酒株無之者可爲停止事、

一 海川運上有之所は無隠可申出候、縦少之儀ニ候共、隠置、外々運上を以願出候ハ、吟味之上其者ニ申付候間、可得其意候事、

附 魚鳥運上を以請負有之場所ハ、請負人之外、魚鳥一切取申間敷事、

一 川筋之村々ハ満水之節、晝夜ニ不限、近村之者出合、堤川除不押切様、隨分相圍ひ可申候、若危場所相見候節は、最寄村々細・依・菰・杭・柱・鉞・もつこ持寄、堤損候處かこひ可申候事、

附 堤ニ有之竹木芝草萱之類一切刈取申間敷事、

一 堤・川除・井堀其外御普請所常々申合、小破之節修覆を加之可申候、破損之所春中百姓手透之内ニ修覆可致候、しからみ・蛇籠等之損候所見分いたし、書付を以訴之、差圖請可申候、小破之節捨置、及大破、申出候ハ、可爲越度候条、油斷致間敷候事、

一 溜井ハ不及申、堤・用水・土手等、惣而水溜置候場所切落、水懸引、自分ニ致間敷候、若水不落候而不叶は訴之、差圖を請可申候事、

一 落込・懸込前々之如く請取之村々芝・芝・依等無油斷寄置、自然水出候節、込之戸前立明肝要ニ可致候、押切候敷、戸前之立明延引致、耕作損毛爲致候ハ、其請取之村々急度可爲曲事、且又落込井を堀、或ハ釜を伏、魚をかへ取、井堀築留、用水之障ニ成候ハ、急度可申付事、

一 前々村に請取之往還道橋掃除場之儀、常と掃除可致候、並木有來候所は枯失候ハ、毎年植立可申候、道橋惡敷所は無油斷相拵、人馬通路自由無之様可致事、

一手代并召仕等迄、名主・百姓江對し、依怙最良之儀有之候歟、非分成儀有之候ハ、無遠慮可申出候事、

一手代其外召仕之者共、御用ニ付、村方江罷出候節、金銀米錢衣類諸道具ハ不及申、少之物ニ而茂音物一切致間敷候、若相背候ハ、急度曲事可申付候、泊之節は木錢米代請取之、野菜は所有合之物可差出候、酒肴は有合候而も出申間敷事、

附 手代并召仕等於在、押賣・押買等、又ハ借貸ニ付不屈成儀申掛、其外がさつ成致方有之候ハ、無隱早と可申出事、

一手代并召仕等江音物致候迎、名主々百姓江金銀米錢割付候共、決而出申間敷候、遠而出候様申候ハ、早速可申出事、

一手代并召仕之者共入用之物有之、其所ニ而相調候節は、所直段ニ而急度代物請取、賣渡可申候、所ニ無之もの他所々取寄、下直ニ致、まいたいの様ニ賣渡候ハ、後日相聞候共、急度越度可申付候事、

附 召仕之中間並手代之小者在、御用ニ付、差越候節は、手代共々添書遣不申候ハ、一夜之宿も致間敷候、勿論人馬一切出申間敷候事、

一 不依何事前々申渡候儀ニ而茂時節々百姓迷惑之事茂有之ハ可申出候、尤御爲ニ成候儀は小分之儀ニ而茂早と可申出事、

一 御領所國々百姓共、御取箇并夫食・種貸等、其他願筋之儀ニ付、強訴・徒黨・逃散候儀ハ堅停止ニ候處、近年御料所之内ニ而茂、右躰之願筋ニ而御代官陣屋江大勢相集、訴訟致候儀茂有之、不屈至極候、自今以後嚴敷吟味之上、重キ罪科ニ可被行候事、

右之條々村中大小之百姓農隙之節寄合、得と爲讀承、堅可相守候、若違輩有之ニおゐてハ、可爲曲事者也、前書之御々條逸々奉拜見、村中大小之百姓、五人組ニ登人茂除候者無御座候、御々條書名主方ニ寫置、度々爲讀承、急度相守可申候、若相背者御座候ハ、如何様之御咎ニ茂可被 仰付候、依之連判仕、差上申候、以上、

野州芳賀郡上籠谷村

文政九戌年

名主 七郎右衛門

百姓 市左衛門

〃 勘左衛門

〃 吉右衛門

〃 四人

百姓 平 八 喜 三 八 〃 平 次 郎 〃 市郎右衛門

〃 惣右衛門 〃 五人 〃 三人 〃 利兵衛

〃 甚 平 百姓 七 左衛門 百姓代縫 次 〃 四人

半百姓半 五兵衛 〃 金 兵衛 百姓 半 之 丞 名主 新左衛門

五人組帳資料

三一七

百姓 傳兵衛	" 六右衛門	" 佐次右衛門	百姓 善左衛門
" 半三郎	半百姓安右衛門	" 五人	" 五人
半百姓傳重郎	" 利右衛門	百姓 權七	百姓 兵助
" 七兵衛	" 四人	" 又左衛門	" 孫左衛門
" 五人	百姓 六兵衛	" 與四兵衛	" 藤藏
組頭 平左衛門	半百姓嘉平	" 八左衛門	" 四人
百姓 新兵衛	" 權平	半百姓惣次郎	金右衛門
" 權四郎	" 兵三郎	" 五人	六兵衛
半百姓兵藏	" 四人	組頭 長三郎	仁左衛門
" 彌六	百姓 儀左衛門	半百姓源藏	與惣次
" 清八	" 權三郎	" 德右衛門	與惣右衛門
" 六人	" 半十郎	百姓 金藏	" 五人
百姓 五右衛門	半百姓長七	" 太兵衛	
		百姓代 縫次	
		組頭 長三郎	
		" 平左衛門	

平岡彦兵衛様

御役所

名主 七郎右衛門
" 新左衛門

四九 文政九年下野國芳賀郡加倉村五人組御仕置帳*

(前書のみで、組分けその他の記述はない。その前書七十四條の全文は、四八文政九年の同國同郡上籙谷村のものと同然同一であるから、これを省略する。)

* 半紙三十五枚より成り、慶應二丙寅年二月七日の寫である。天領。

五〇 文政十年下總國葛飾郡大畔新田五人組御仕置帳**

條々

一 前々從 公儀被 仰出候御條目之趣は勿論、自今以後被 仰出候御法度之旨堅可相守事、

五人組帳資料

** 半紙二十一枚。天領。

* 文政八年及び天保八年五人組御條目には本條なし。

- 一 御鷹場村之儀は前之被仰出候通、右御用向大切相守可申^{〔三〕}、
- 一 五人組之儀は家並最寄次第五軒宛組合、借地・店借・寺社門前・下人等ニ至迄、諸事吟味仕、悪^{〔三〕}無之様可仕^{〔三〕}、
- 一 一切支丹宗門之儀は御制禁之条、不審成者有之は可申出、若^{〔三〕}審成者隱置、後日顯候ハ、五人組共ニ急度可申付^{〔三〕}、
- 一 常ニ無油斷耕作ニ精入、百姓ニ不似合遊^{〔三〕}、何ニ而茂仕間鋪、作物不^{〔三〕}成者共有之ハ、隨分致異見、不用ニお^{〔三〕}ゐては可申出^{〔三〕}、
- 一 父母ニ孝行、夫婦兄弟親類むつましく可仕、ふ孝^{〔三〕}ふ儀之輩有之ハ、名主・組頭・五人組致吟味可申出^{〔三〕}、兼而被仰出候通捨子堅仕間敷候、惣而便なき老人・幼少之者有之は其所ニ介抱いたし、其通可申出^{〔三〕}、
- 一 其村之内鐵炮之儀前、吟味之上預ケ置候外一切所持仕間敷候、尤持主之外他人は不及申、親類兄弟たり共、堅^{〔三〕}貸申間敷^{〔三〕}、
- 一 人賣買制禁之条堅相守、召仕之男女抱候節ハ宗門相改、慥^{〔三〕}成證人手形を取差可^{〔三〕}置^{〔三〕}、
- 一 捨牛馬之儀前、之通相守可申候、自然はなれ牛馬有之ハ、名主・組頭立會養置、早速可申出^{〔三〕}、
- 一 御年貢米江戸廻之節、積船之儀貳年三年之舟を限り、古船又は船具不足船ニ積申間鋪^{〔三〕}、
- 一 御年貢之儀は前、之通隨分念入可申、尤繩^{〔三〕}依等迄名主・組頭立會吟味可^{〔三〕}仕^{〔三〕}、
- 一 御朱印傳馬并往還之次人馬、先規^{〔三〕}勤來候儀は不及申、傳馬宿^{〔三〕}之外、在^{〔三〕}たりといふ共、御用ニ而

* 文政八年及び天保八年五人組御條目には附則として「往還之旅人ニ對し不作法成儀仕間敷候事」とあり。

- 通候衆有之ハ、晝夜風雨いとわす、人馬無滯出可申候、尤御朱印之外定メ之駄賃請取繼送り可申候、若^{〔三〕}囚人通候ハ、無油斷人馬を出、大切可仕候^{〔三〕}、
 - 一 押賣・押買仕間敷、他所^{〔三〕}來候對シ旅人、ふ作法不仕、縱輕キ者ニ而もかろしめ、かさつなる儀仕間敷候^{〔三〕}、
 - 一 田畑之儀永代賣買・前納并八重質之儀ハ御制禁之条堅相守へく、縱年季質物ニ入候共、不過拾ケ年、尤名主・與頭・五人組加判ヲ以、證文取かわし可申事、
- 附 名主・與頭加判無之證文取上無之事、
- 一 名主江置候質地は相名主又は組頭合役人加判無之證文之事、
 - 一 拾ケ年季を越候質物證文之事、
 - 右三ヶ條之儀并田畑永代賣買、地主^{〔三〕}年貢諸役不勤質地之類は前^{〔三〕}より御停止ニ而村方五人組帳面書記有之、右之^{〔三〕}ふ埒成證文を以訴出候茂有之、自今以後五人組・名主・庄屋等^{〔三〕}大小之百姓江度ニ爲讀聞、不^{〔三〕}ル忘却^{〔三〕}様可仕候、
 - 一 享保元申年以來年季明キ候質地ハ、自今年季明キ拾ケ年過訴出候ハ、取上無之事、
 - 一 金子有合次第可請返旨證文有之質地ハ、質入之年^{〔三〕}拾ケ年過訴出候ハ、取上無之事、
 - 右貳ヶ條之儀自今拾ケ年之内訴出候ハ、取上裁斷有之候、右年數過候分は取上無^{〔三〕}之^{〔三〕}、
 - 一 所ニ而跡^{〔三〕}有來候造酒屋之外、自今以後新酒屋仕間敷事、

* 文政八年及び天保八年五人組御條目には本條なく、その代りに、「名主・組頭加判無之質物證文之事」とあり。

附 前々御改御免高酒造米之外造酒仕間敷事、

一 火事・喧嘩、其外不依何事ニ不儀有之ハ早速注進可仕事、

附 火之元五人組常々吟味いたし大切ニ可仕候、自然村中之儀不及申、隣村ニ出火有之節は早速火之

元江欠付火を消可申候、諸道具會而紛セ申間敷事、

一 前々荒地之場所隨分地主精入連ニ立歸リ候様可仕候、若地主力ニ不及程之儀に有之は、百姓仲間助合
起返シ候様可仕事、

附 起返場所所有之ハ、不隱置早速畝歩書付可差出支、

一 御年貢米郷藏ニ積置候節、番人附置、大切相守可申候、若村之内出火有之ハ、惣百姓欠付、不移様隨分
防可申候事、

一 御傳馬宿出火有之ハ、高札燒失不致様、早速はづし取可申候事、

一 旅人一夜宿賃候共、名主・組頭江相斷へく、若無據儀有之、翌日逗留仕ニおゐてハ、名主・與組(頭)立
會吟味之上留可申候、尤怪敷者ニ一夜之宿成共貸間敷事、

附 旅人何成共取落候ハ、早速欠付爲持可遣支、

一 旅人相煩候敷、又は酒酔有之ハ、名主・與頭介抱致置、委細承届ケ可申出支、

一 倒死候者有之ハ、名主・組頭委細相改、所持之雜物封附置、骸其所を不替、番人付置、早速注進可申來
候事、

* 文政八年及び
天保八年五人組御
條目には本條の次
ぎに「他所より手
負候者來り候ハ
、名主・組頭立
會介抱致置、委細
承届可申出候事」
の一條あり。

一 欠込者有之節、追手之者慕ひ來、其届ケ有之おゐてハ、早速村中之者馳集、隨分取逃不申様致置、可致
御住進事、

一 御料所國々百姓共御取箇井夫食種貸等、其外願筋之儀ニ付、強訴・徒黨・逃散候儀は、堅御停止候處、
近來御料所之内ニ茂右躰之願筋ニ付、御代官陣屋江大勢相集、致訴訟儀も有之、ふ届キ至極候、自今已後
嚴敷御吟味之上重罪之科可被行候条、御代官支配限百姓共兼々急度申付置候様ニ御代官共江可被申渡支、
一 博突賭之諸勝負一切停止ニ候、尤宿堅仕間敷候、若相背候者有之ハ、其科重かるへく事、

附 常々妨をなし或は酒酔口論好疾有之、耕作商等家業不致者有之ハ、名主・組頭吟味之上可申出、
尤用事なくして出入者有之ハ、五人組心を付可申出支、

一 三笠之儀堅仕間敷候、若點者抔仕候者有之敷、外々右躰之者參り宿を頼候共、一夜之宿ニ而も貸申間敷
候、怪敷儀も候ハ、早速可申出支、

一 喧嘩口論有之ハ聞付次第出合取押可申候、人を射立退候者有之は、跡慕ひ落著所を見届、押可住進事、
附 喧嘩口論取押候節、飛道具不可持出、尤加勢不可致事、

一 堂宮山林、怪敷者不罷在様ニ常々吟味可仕候、惣而行衛不知者差置申間敷候事、

一 郷中番屋之儀、如有來番人於差置ハ、ふ審成者有之は、聲を立可申候、自然盜賊入候ハ、番人は不及
申ニ、所々之者共不殘欠付、不出合者有之ハ、可爲越度事、
一新規寺社不可建立、并念佛塚・庚申塚・ほこら等有來候外不可致事、

* 文政八年及び
天保八年五人組御
條目には本項なし。

* 嘉永四年下總國葛飾郡三輪野山村「五人組書上帳」には附りとして、「遊女・歌舞妓之類可差置事」とある。勿論「不可差置事」の誤りであらう。

一 神事祭禮有來通相勤、新規之儀仕間敷支、
附 住寺・神主替目之節可申出支、
附 佛事作善分限少輕可致事、

一 能・相撲・操・狂言・芝居、其外諸見物之類可爲停止支、

一 不依何事ニ徒黨ケ間敷儀仕間鋪候、惣而公事出來之儀有之ハ、名主・組頭取扱之、不相濟儀ハ可申出事、
附 荷擔致者有之敷、又は公事を工ミ、出入をすゝめ候族有之ハ、其科重かるヘク事、

一 境論無之儀常ニ念入可申候事、

附 右荒地川欠場所并新開之所有之ハ、其趣住進可致事、

一 用水之儀先規例ヲ以、兼而相定置、満水之節油斷無之儀可仕事、

一 川通村ニ湛水之節は名主・組頭・惣百姓罷出、堤・川除・井堀・溜池等切れ不申候様ニ隨分防可申候、
勿論常ニ無油斷御普請所不及大破ニ様ニ可相心得事、

附 用水溜池毎春浚可申候支、

一 往還之通橋は不及申ニ、脇ニ而も常ニ無油斷往還之人馬不通、難儀不致様ニ可仕事、

附 右往來道田畑江切込申間敷候事、

一 川船渡シ口運賃之儀古來之通不可違亂支、

附 御城米積候船は不及申ニ、ふ慮之破舟有之は、近在ニ者共早速可罷出相勤働、尤荷物紛失無之様

* 前記の三輪野山村五人組帳にこの附則なし。

ニ可仕事、

一 公儀御林は不及申ニ、山林四壁猥ニ伐荒申間敷支、

附 御林并往還道並木風折等有之ハ、當分通路之障ニ成不申様ニ仕置、早速注進可申支、

一 村次之廻狀不限晝夜、先ニ江相届ケ可申候事、

一 質物之儀能ニ致吟味、儘成證人を立、可取之支、

一 百姓家作之儀分限相應ノ輕可仕候、目立普請不可致、衣類之儀は名主妻子たりといふ共、布木綿之外著

し申間敷候、惣而糸織物之類糸り帶等ニも不可用事、

附 男女乗物并乗鞍馬停止ニ候、惣而奢ケ間敷儀不可致、尤無斷して刀不可指支、

一 毎年百姓夫食ニ可成類、貯置、凶年之節等ニ相願不申様ニ常ニ心懸ケ可申支、

一 田畑譲り候節、高拾石以下は分ケ申間敷候、若シ無據子細有之ハ可申出事、

一 不依何事ニ、他所ノ引越候者有之ハ、出所致吟味、儘成證人を取、其斷可申出事、

附 所生たりといふとも、年久敷他所ノ歸り候者有之ハ、其斷可申出事、

一 他所江罷越一夜宿可仕節は、名主・組頭申合、其外之者迄五人組江相斷、歸り候ハ、其斷可仕候、

附 江戸并何方ニ而も用事有之罷出候ハ、其事相濟次第早速可罷歸、永逗留不可致支、

一 跡式之儀兼而書付仕置候事、

附 跡目無之者ふ慮ニ死失候ハ、所持之品ニ名主・組頭立會相改可申出事、

* 文政八年五人組御條目に本條なし。
* 同上。
* 三輪野山村五人組帳に本附則なし。
* 右五人組帳には本條の附りとして「跡目無之者ハ不慮ニ死失候ハ、所持之品、名主・組頭立會相改可申事」とあるが、右は四十九條附にあり、第四十六條より同條までを缺いてゐるから、恐らく書き落したものであらう。
* 文政八年及び天保八年五人組御條目には本條の後に、「舞嫁養子取組之儀は名主・組頭立會、先ニ念入、重而六ヶ敷儀これなく様ニ可仕候事」の一條あり。

- 一 獨身之百姓、若長煩杯致、耕作兼候節、五人組として助合、田畑荒不申様可仕事、^{〔五〇〕}
- 一 訴訟其外不依何事、申出候儀有之ハ、五人組江斷、名主・組頭を以可申達候、百姓致我儘ヲ、名主・與頭申付をも不承引之者有之ハ、吟味之上可申出度、^{〔五一〕}
- 一 町在共諸事御用ニ付手代差遣候節、賄之儀御定之木錢・雜用代可相渡候間、請取之、所に合候物を以相賄、馳走ケ間敷儀仕間敷事、并召仕者・仲間・小者迄右同事ニ相心得可申候、勿論米錢・酒肴・衣類・諸道具何様之輕物ニ而も、音物堅仕間敷候、尤金銀米錢當分たり共、一切貸シ借リ仕間敷候事、^{〔五二〕}
- 附 手代并召仕之者ニ至迄悲分^{〔五四〕}之儀申者有之ハ、早速可申出度、^{〔五三〕}
- 一 毎年御年貢割付出候ハ、惣百姓出作之者迄爲披見、無相違様割合可申候、御年貢皆濟無之以前、穀物猥ニ他所江不可出事、

附 御年貢金納、名主江預ケ、請取之儀手形取かわし置、重而出入無之様可仕度、^{〔五三〕}

* 三輪野山村五人組帳及び文政八年天保八年五人組帳御條目には本條の附則として「都合勘定一切仕間敷候、不依何事ニ、合點之上判形可致事」とある。

- 一 村ニ御普請人足扶持方、其外取下ケ物之儀當座割合可申候、尤年中村入用懸物之儀は、時々名主・組頭・年寄・百姓立會、帳面等記、致判形置、無相違様割合、重而出入無之様念入可申候、若ふ吟味之儀申出候ハ、詮儀之上名主・組頭可爲越度事、^{〔五四〕}
- 一 名主・組頭印形替候ハ、判鑑を以可申上、其外之者共名主方迄判鑑ヲ可出置事、^{〔五五〕}
- 右之條ニ堅可相守、若違背之族有之は、當人は不及申ニ、親類・縁者・名主・組頭・五人組迄可爲越度者也、右御條目之趣大小之百姓其外水吞等迄村中之者不殘承知奉畏候、常々無油斷吟味可仕候、若違背仕候者御座

候ハ、名主・組頭迄何様之曲事ニも可被 仰付候、爲其村中相談之上五人組相極、連印手形差上申候、依而如件、

下總國葛飾郡大野新田

文政十年三月

五人組	新右衛門	〇
百姓	喜左衛門	〇
同	彌市	〇
水吞	文右衛門	〇
組頭	源七	〇
名主	善兵衛	〇

伊奈友之助様
御役所

* 中判廿九枚
天領。

五一 文政十年播磨國川邊郡木津村之内皮多御仕置五人組帳

條々

- 一 前々從 公儀被 仰出候御法度書之趣、彌以相守、御制禁之儀不相背様、村中大小之百姓下迄可申附事、^{〔五六〕}

五人組帳資料

一 五人組之儀町場者家並、在郷者最寄次第、家五軒宛組合、下と井下人・店借り・かり地之ものに至迄、悪事不仕様常々無油斷、組中可令詮儀、若徒成もの有之候而、庄屋・年寄之申附をも不用候者、可訴出事、
 一切支丹ころびのもの類族有之分者、別帳ニ記之可差出、若他所縁組等ニ而當村江右之族來り候共、早速可注進事、

一 毎年宗門御改帳三月迄之内可指出、若御法度之宗門之もの有之者、早速可申出、切支丹宗門之儀御高札之旨可相守、宗門帳之通人別入念可相改、宗門帳相濟候而後、召抱候下人等者寺請狀別紙ニ可取置事、

一 父母ニ孝を盡し、兄弟睦ク可仕候、勝れて孝行成もの、或者飢人拯救候類もの、井正路實躰之もの有之者可訴出、若不孝不儀之輩有之者は又可訴出事、

一 惣而家業を第一ニ可相務、百姓ニ似合さる遊藝を好ミ、或者悪心を以、公事好ミをいたし、非公事をすゝめ、偽を工ミ、人之害をなす輩有之者、不隠置可申出、何事ニ寄らす、誓紙をなし、徒黨かましき儀仕間鋪事、

一 諸作第一能き種を撰候而蒔付、耕作可入念、荒作之様ニ致し候もの有之者、可詮儀、獨身之百姓長煩、又者幼少ニ而親ニ離れ、耕作・仕付難成もの有之者、庄屋・年寄立會、村中ニ而助合、田畑不荒様可仕事、

附り 地所ニ不相應田畑諸作地ニ替り劣り、耕作不精成もの有之者、吟味之上檢見之節、引方相立申間鋪事、

一 常々人之妨をなし、喧嘩口論を好ミ、夜歩き仕、耕作不精ニ而、渡世營おろそかにて庄屋・年寄・五人

組之異見をも承引不仕もの有之者、可申出、右不屈之もの隠置、脇々相聞候者、庄屋・年寄・五人組迄可爲越度事、

附り 何之縁をも不仕もの村中ニ有之者遠吟味、其趣可訴出事、

一 田畑・屋敷・山林等永代賣買御停止ニ候、若質物等ニ指入候者、拾ヶ年を限り、證文ニ庄屋・年寄・五人組加判爲致、田畑質ニ取候ものに作らせ候而、御年貢・諸役地主勤候者勿論、切地様ニ致シ候儀仕間鋪事、

附り 田畑質物ニ書入候證文ニ庄屋加判無之候得者不取上、地主庄屋ニ候ハ、相庄屋敷年寄ニ加判

爲致可申候、右之通無之、及出入候とも、不取上事、

一 御朱印地之寺社領・除地・叶物等一切質ニ取不可申事、

一 衣類・諸道具、又者門橋等之はつし鐵物類、出所不知もの一切買取間鋪候、右之品と質ニ取、又者預り不可置、出所知れ候ものニ而も、請人無之候者、質物ニ茂取間鋪事、

一 庄屋者正道を專にして私欲を不仕、慈悲之心有之、普く小百姓ニ心を附、身上不成ものを介抱致し、何事ニ寄らす、村中公事出入有之時者、庄屋・年寄立會、双方之趣意を承届ケ、親疎好悪を不撰、理非能々分別致シ、毛頭無依怙最取扱可相濟、勿論滯儀有之者可訴出事、

附り 荷擔之もの有之者可爲曲事、若庄屋・年寄不義有之者、急度可申付事、

一 盜賊・悪黨人有之者訴人可仕、御ほうび可被下之、其上仇をなさる様ニ可申付事、

一 百姓衣類之儀、結構成ものを不可著之、名主者妻子其外布・絹・紬・木綿可著之、平百姓者布・木綿之外不可著之、綸子・紗・緩・縮緬之類者襟帶等ニ茂致間敷候、然共身舛よろしきもの者役所迄斷を申上、差圖を請、絹・紬可著事、

附り 男女共乗物ニ不可乘、惣而家造目立候普請、奢りケ間敷儀仕間敷事、

一 掣取・嫁取・養子之祝儀奢りケ間鋪儀無之様ニ致シ、惣し而諸祝儀分限ニ應シ、内證ニ而軽く祝ひ可仕候、并葬禮之野酒一切停止之事、

一 捨子不可仕、若他所之もの捨置候者、村中ニ而養育致し、早速可注進事、

一 生類憐之儀心掛ケ、不實無之様ニ可仕候、不仁之儀一切不可致事、

一 獵師之外、爲遊興鳥獸を取へからず、假令雖爲獵師、鶴・白鳥取候儀者勿論、商賣ニ致し候もの有之者可訴出事、

一 馬之筋をのへ候儀御停止ニ候、牛馬賣買致し候者出所を聞、請を取、五人組へ相斷可賣買、不慥成牛馬不買取事、

一 新規之社社建立之儀、堅ク可停止、惣して祠・念佛題目之石塔・供養塚・庚申塚・石地藏之類、田畑野山林麓、又者道路端ニ一切立間敷候、佛事・祭禮等軽く可執行、新規之祭禮不可取立事、

一 寺社之儀、住持・社人替り候者可注進事、

附り 寺社修葺致し候者、役所へ相斷、差圖可請事、

一 神佛致開帳候者可注進、當村之神佛他所江當分移し、開帳仕候儀有之候者、前方ニ可注進、又者他所ノ神輿送り候様成義有之者、不可請取之、村中ニ少之間茂指置申間鋪事、

一 當村ニ有之出家・社人・山伏・行人・道心者・店借り之もの、并非人等、其外□□之類迄常ニ致吟味、胡亂成もの住居爲仕間鋪候、庄屋・年寄(ニ)不相達、他所ノ來り候もの、一夜之宿をも不仕様ニ、村中大小之百姓、水吞等ニ至迄、常ニ堅可申付事、

一 村内之もの、或者逐電、或者身上潰れ候而、住居難成もの有之者可注進、又者他村を子細有之、立退來り候もの、雖爲親類、無斷村内ニ一切不可差置事、

一 他所之もの當村ニ致住居度旨願出候者、其もの、出所・家職之様子聞届、出所へ斷、慥成請人手形取之、宗門相改、役所へ遂注進候而、可指置、店借り・かり地等之もの置候共、右同斷可相心得事、

附り 浪人差置候儀御停止ニ而、向後一切差置申間敷事、無據訳ニ而指置候者、其節訴出可請差圖事、

一 百姓田畑子孫等ニ讓分候儀、高拾石ノ内ハ訳申間鋪事、若無據子細有之者可申出、惣而新規之百姓有付候者可注進、惣而跡式之儀存生之内、庄屋・年寄并親類立會、書付置、後日出入無之様ニ可心掛事、

附り 跡目無之もの、ふ慮ニ致死去候者、所持之品ニ庄屋・年寄、其もの親類立會、相改可訴出事、

一 田畑・屋敷・山林境論無之様ニ、常ニ庄屋・年寄吟味仕可置事、

一 前方帳面ニ付有來り酒屋之外、新規之酒屋不可仕事、

も、隣村之境目紛敷地ニ而候者、芝居不始以前ニ早ニ可注進事、^{〔三九〕}

一 惣而遊女・野良かけ類一切不可置、一夜之宿をも致間敷事、^{〔三〇〕}

一行衛不知もの一夜之宿をも借へからず、旅人其外何ものニ而茂、堂宮・山林・道端ニ死人有之者、其もの、雜物等改、庄屋・年寄立會、様子委細書付候而可注進、若堂宮・山林等ニ隠れ忍び胡亂成ものあらハ、致詮儀、品ニノ擲取可訴出、其外手負又ハ不審成もの他所より候者、出所尋、致附届、役所へ注進之上、可請差圖事、^{〔三一〕}

一 往來之輩、若煩候者、醫者ニ見せ、隨分致養生、能ニ痛リ、食物入念あたへ、看病仕置可注進、若歩行不叶、先江參候儀難成候者、其もの、在所を承り届、迎よび、手形取、相渡し可申候、若病死致シ候者、其もの、道具等改、庄屋・年寄立會候而、致封印置、訴出可請差圖事、^{〔三二〕}

一 殺害人、或者自害いたし候もの、或者倒もの有之者、番人を附置、早速可注進、火事・盗人并喧嘩・口論・手負之もの、惣而不慮成儀出來候者、右同前、無油斷可注進事、^{〔三三〕}

一 欠込もの有之節、追手之ものしたひ來り、其届有之者、早速村中馳集り、隨分取逃不申様ニ致シ置、可注進事、^{〔三四〕}

一 村中ニ喧嘩口論有之者、庄屋・年寄立會、可裁判、他村ニ而喧嘩口論有之節、不可馳集、人を殺し立退候もの有之者、早速擲捕可注進、擲捕候儀難成候者、跡をしたひ、落付處へ急度申届、可訴出事、^{〔三五〕}

一 田畑荒シ不可置、永荒場起返り切添、又者新地之田畑有之者、早速可申出、隠置脇より訴候者、庄屋・年

寄可爲越度事、

附り 永引ニ成候場所、致普請可起返、地主計之力ニ而難起返場所者、村中之もの助合候而も立歸り

候様可仕、若村中之もの自力ニ而難起返場所者可申出、吟味之上指圖可申付、并本田ニ多葉粉作候儀停止之事、^{〔三六〕}

一 堀を埋出し、又者道をせはめ、秣場・林際を切添、田畑ニ不仕、前より道なき處へ道を附、牛馬不可入込、若道を附替、新堀を不致候而不叶處有之者、可請差圖事、^{〔三七〕}

一 用水掛引先規之例を以、常ニ申合置、爭論無之様可仕候、水論・境論等之場へ、刀・脇指・弓・鎧・長刀等持出、令荷擔もの有之者、其科本人より重かるべき事、^{〔三八〕}

一 御傳馬宿江定助郷・大助郷より人馬寄候者、問屋・年寄より致吟味、猥ニ人馬觸仕間鋪候、其宿之馬を圍置、面ニ勝手よき荷物を附候儀、一切不可仕、御朱印者勿論、駄賃傳馬・人足之外、常ニ無滞様ニ可仕、若用人通り候者、無油斷人馬出し、大切ニ可仕事、^{〔三九〕}

附り 助郷人馬觸來り候者、刻限を不違可出之、若人馬割難心得候共、先無滞出之、後日ニ可申出事、^{〔四〇〕}

一 渡船在之村者、定之通船賃取之、往來之輩晝夜無滞可渡之、雖爲大水之時、定之外船賃多取間鋪事、^{〔四一〕}

附り 往來之旅人江對し不法成儀仕間鋪事、^{〔四二〕}

一 御用之人馬者不及申、本海道ニ而無之候共、往來之もの、駄賃馬・人足之儀晝夜を不限、無滞可出之事、^{〔四三〕}

一 御朱印、又者御證文も無之、人馬を出し候様ニと申、或者駄賃を不出、通候もの有之者、其品ニノ押江

置、庄屋・年寄立會、詮儀之上、怪敷體ニ候者、可注進事、^{〔四三〕}

一 村中申合、番家を造り附置、家別銘ニ火消道具を拵置、火之用心随分入念、風烈敷時者晝夜を不限、町並者町中、村方者村中、庄屋・年寄も相廻り、自身番を仕、出火無之様ニ可仕、若出火有之者、鳴を立、村中之もの馳集り、精出し消、勿論御年貢米入置候郷藏大切ニかこひ可申事、

附り 毎度灰小家ヲ致出火候間、灰小家へ入置候時、水ニ而しめし、入念小家へ入可申事、^{〔四三〕}

一 堤・川除不切様ニ常ニ心掛置、洪水之時者村中之もの出會、随分可圍之、大造成道橋損毛ニ可成所者、小破之時可修覆、及大破實ニ自普請場常ニ無油斷道橋造り可申事、^{〔四四〕}

一 樋戸前道具并鐵物・川除梓・杭・箒等之類盜取族有之間、常ニ心掛見廻り、不盜様可仕事、^{〔四五〕}

一 満水之時、堤・川除かこひ候節、村中之もの拾五歳以上、六拾歳以下之男者不殘可出、若其場へ不出合ものあらハ、庄屋・年寄令詮儀、可注進事、^{〔四六〕}

一 鐵炮之儀、斷相立、所持仕候獵師筒、又者貸渡候威鐵炮之外、所持不可仕候、縱令親子兄弟たりとも、貸渡シ仕間敷候、持主相果候者、其段訴出、可請差圖事、

附り 他村ヲ引越候もの鐵炮所持仕候敷、又者村内ニ所持仕候もの有之者、早速可注進、隠置後日相知候者、當人者不及申、庄屋・年寄・五人組迄曲事ニ可申付候、勿論鐵炮賣買之儀、万一他所ヲ持參候共、一切差加り申間敷事、^{〔四七〕}

一 御林・御立山之儀、竹木者勿論、枝葉・下草等迄、御用之外伐採間敷候、縱令百姓持林并屋敷四壁之本

ニ而も、目立候木者不可伐採、子細有之伐採候者訴出、可請差圖候、尤切採候者、苗木を可植置事、

附り 堤圍ニ植置候竹木、猥ニ伐採間敷事、^{〔四八〕}

一 入會之野山・面ニ持山ニ而も、草木之根掘取間敷候、鶴のはしを入候儀可爲停止、田畑山崩・砂入等無之様、山林苗木を植立可申、勿論山崩之所者土砂留致し置可申事、

*この以下に一句脱落あるもの如し。

附り 山中ニ而焼畑致し來り候所者格別、下ニ迄も此旨堅可申付置、若野山へ火入候者、早速村中馳集り、火消可申事、^{〔四九〕}

一 博突、惣而賭之諸勝負・三等附之類、或者百人講と名付、或者商賣ニ事よせ、博突ニ似たる儀、何事ニよらず、一切不可仕之、若違背之もの有之敷、又者右之宿等致し候ものあらハ、早速可訴出事、^{〔五〇〕}

一 百姓ニ不似合風俗、長脇指を帶シ、喧嘩口論好、或者大酒、致酔狂、行跡惡敷もの有之者、可訴出事、^{〔五一〕}

一 惣而御代官所之百姓、公事訴訟等、何事ニ寄らず、江戸者勿論、諸向役所へ不相伺候而、猥ニ罷出間鋪候、用事之品、庄屋・年寄迄吟味、以書付、役所江可申出事、^{〔五二〕}

一 他所へ出、宿泊り罷出候程之儀ニ候者、庄屋・年寄へ斷出罷越候者、其子細庄屋・年寄・五人組江可相届、尤庄屋・年寄者右之趣早速可注進事、

附り 所ニ生れしものたりといふとも、他所ニ年久敷罷在、歸り候ものあらハ、其斷可申出事、^{〔五三〕}

一 御年貢米・粃・大豆・金銀共年限ニ相納、極月皆済可致候、若未進いたし、欠落仕候百姓有之者、其五人組・庄屋・年寄可辨納、且庄屋・年寄引負候儀有之者、百姓之内ヲ早速可申出、其通致置候者可爲越度

事、

附り 御年貢金銀相納候度、金銀請取之通ひ可出之間、皆濟之節、村々勘定目録ニ可引替事、^{〔五四〕}

一 御年貢皆濟無之以前、穀物他所へ不可出之、三分一・拾分一等有之場所、右爲銀納米賣候者、先米納之分員數積、納米ほと上米を拵置、次之餘米を賣可申事、^{〔五五〕}

一 御年貢米之儀、庄屋・年寄立會、青米・粉粹・糲・糠等無之儀、隨分致吟味、舛目不切様俵入可念入事、^{〔五六〕}
一 俵拵之儀、二重こもに、口かゝり、俵は摺繩ニ而堅繩・横繩三所もしり、目繩結ニ致シ、俵不損様ニ可致、中札者紙ニ而何國何那何村・米何斗入・年號月日書付、庄屋・年寄・米主・舛取・米見名書記、連判致シ、俵毎ニ可入念候、外札者竹ニ而何之年御年貢米・我等御代官所・何之國何那何村米主誰と書記、札裏ニ貫目可記事、^{〔五七〕}

一 御城米何方之御藏納成共、船上乘納庄屋慥成もの、村中遂吟味可遣候、尤他所之ものに爲請負、渡し切ニ仕間鋪候、御藏前ニ而欠米、其他損米等有之者、郷中として急度不足之分相納可申候、且又御年貢米入用并船中雜用等多不入様ニ申附、委細帳面ニ記させ、入用可渡事、^{〔五八〕}

附り 納庄屋上乘江戸・京・大坂逗留中、物入多無之様ニ可吟味事、^{〔五九〕}
一 御年貢金銀庄屋方江取集候者、扣帳を致シ、納候度ニ金銀之員數・納主之名書付、爲致印形、庄屋方金銀請取、手形通帳致シ渡、扣帳ニ押切致印形可遣候、其上其年之御年貢割之通、銘ニ百姓々皆濟候者、惣百姓々御年貢之儀ニ付、少し茂申分無之旨、御年貢割之帳面奥ニ惣連判取置、後日出入無之様可仕候、

若御年貢割納方等之儀不埒ニ仕置、百姓連判取置不申、及出入候者、庄屋・年寄急度曲事可申付事、^{〔六〇〕}

一 御年貢米納所之節、庄屋・年寄方々米主へ手形遣之、庭帳ニ入念書付、判形可致、ふ念ニ而手形無之、及出入、後日訴候共、取上間鋪事、

附り 郷藏雨もり不申様、入念修復可仕候、尤御米納候節、晝夜番人附置、無油斷大切ニ相守、庄屋・年寄も見廻り可申候、若火難・水難・盗人ニ逢候者、早速村中可致辨納候、御米濡候敷、或者下敷薄ク御米不足米等ニ成候者、村中辨納申附候上、庄屋・年寄可爲越度事、^{〔六一〕}

一 惣而從 公儀被下候人足扶持方等、當座ニ銘ニ割渡、帳面ニ請取之趣爲書付、印形可取置、惣而糺合勘定不可致事、^{〔六二〕}

一 毎年御年貢免狀定相渡候者、村中之もの爲致披見、庄屋・年寄方々村中大小之百姓・出作之ものに至迄不殘相觸、寄合候而免割致シ、小物成米取・浮役臨時のものとも可納、米金銀壹人前宛委細書付、百姓疑敷不存様ニ、其訳爲申聞、免立會披見仕候旨、別紙書付、銘ニ印形可取置、郷藏之戸前ニも免割之寫致し可張置、御年貢割仕候節、村中夫錢・小入用等を御年貢等之入交、一同ニ不致、差別を立可割之、算違無之様、隨分可入念、御年貢之儀者不及申、外ものとも申渡候日限之通相納候様、常々村中可申合事、^{〔六三〕}

一 御用之儀、又者村中申合等之儀ニ付、庄屋方へ百姓寄合候節、村入用ニ掛之、食物酒肴等一切給間敷事、^{〔六四〕}
一 我等家來・手代并妻子・召仕ニ至迄、金銀米錢・衣類・諸道具・酒肴・其外輕きものニ而も、音信・禮物一切致間敷候、右之もの共、若かしの・借り物等、或者押賣・押買、何事ニよらず不作法之儀致シ候

者、不隱置、有跡其趣可申出、隱置後日ニ相聞候者、庄屋・年寄可爲越度事、
 一人賣買停止之儀者不及申、并男女奉公人年季之儀、拾ヶ年を限り可申候、譜代ニ召抱候者、可爲相對、
 壹ヶ年切召抱候共、慥成證文可取置事、
 [六五]

一 我等并手代村ニ江相廻り候節者、何村ニ而も晝食者爲持、飯米鹽僧野菜等者其所ニ而相場直段ニ調候而、
 當座代物可取之、泊り休ミ所ニ而者、御定之木錢出之、上下共百姓之馳走ニ不罷成、村ニ費無之様、急度
 申付候条、酒肴等此方ノ差圖無之もの、何ニ而も調置間鋪候、若調置、此方ニ遣ヒ不申ニ付、寄合飲食、
 村入用ニ割掛候者、庄屋・年寄可爲曲事、無差圖人馬集置、百姓之隙を費申間鋪事、
 [六六]

一 庄屋・年寄御用ニ付、役所へ罷出候雜用・筆墨紙等、惣而村入用之儀、其村入用之詛、惣百姓爲致得心、
 割合帳印形取之、尤銘ニ請取手形可出之、惣百姓申分無之趣、奥書仕、庄屋・年寄・惣百姓不殘連判仕、
 帳面貳冊仕立、年ニ正月中役所へ差出、壹冊者役所へ出し置、壹冊者役所押切印形ニ而村方江相渡置候間、
 右帳面之外別帳拵置、取立申間敷事、
 [六七]

一 五人組宗門帳押候外、別之印形拵置間鋪候、若子細候而印形替候者、庄屋・年寄者役所へ相斷、印鑑可
 指出候、平百姓者、庄屋・年寄江可相斷、名を改候者早速五人組帳・宗門帳共改之名可記事、

附り 御用向ニ出候節、印形無失念持參可致事、
 [六八]

一 百姓帯刀かたく停止之事、
 附り 百姓之子供を始、諸親類之内他所へ奉公ニ出候もの、後日ニ在所へ歸り候而も、刀指申間敷候、

縦令先主々合力杯請候共、刀指申べからず、若庄屋・年寄見ゆるし置候者、可爲曲事、
 [六九]

一 御料所面ニ百姓共、御取筒并夫食・種貸等、其外願之儀ニ付、強訴・徒黨・逃散候儀者御停止ニ候處、
 近來御料之内ニ茂、右跡之願筋ニ付、御代官陣屋江大勢相集、致訴訟候儀も有之、不届至極ニ而、自今以
 後嚴敷吟味之上、重き可被行罪科事、
 [七〇]

一 近年在方村ニものとも耕作を等閑ニ致し、却而困窮等之儀申立、奉公稼ニ出候もの多、所持之田畑荒置
 候類有之由相聞、不届之至ニ候、以來村高人別割合、何人迄者奉公ニ出候而も、殘人數ニ而耕作者勿論、
 村方之差支無之哉否、村役人共相糺、實ニ無據子細ニ而奉公ニ出度旨相願候もの有之候者、右割合之人數
 迄者、村役人共承届、年季を限り奉公ニ出候様可致候、若村方之差支も不願、奉公ニ出杯、田畑を荒シ候
 儀等有之候者、當人者勿論、村役人共可爲越度事、
 [七一]

右之條ニ堅ク可相守、此旨違背之輩有之者可爲曲事、此帳面毎年正月・五月・九月・十一月、壹ヶ年ニ四度
 宛、村中大小之百姓寄合、逸ニ爲讀聞、此趣合點仕罷在候様、入念可申附もの也、

文政十年亥

石原清左衛門

*** 貼書して「天保
 七申年」とあり。
 *** 同年にもこの前書
 を使用したもの
 がある。又その上
 に「天保十三寅年
 高槻役所」と貼紙
 あり。
 *** 大津代官(二
 百俵)
 *** ここには天
 保七年と記して
 るところからみれ
 ば、本帳は同年の
 寫しとみられる。

前書御簡條之趣、遂一奉拜見、則庄屋方ニ寫置、村中大小之百姓五人組限り壹人茂不殘、御定之通り爲讀聞
 可申候、若相背候もの有之候者、如何様之曲事ニ茂可被 仰付候、爲其惣百姓連判仕、指上申候、以上、
 天保七申年

五人組帳資料

* 以下訂正、消し、貼紙等があるが、最初のもを思はるるもののみを記す。

五人組帳の研究

播州川邊郡木津村皮多*

組頭 治兵衛
 佐助 儀兵衛
 嘉兵衛 兵衛
 ちよ 兵衛
 五人 徳兵衛
 茂兵衛 兵衛
 新兵衛 兵衛
 りか 兵衛
 勘兵衛 兵衛
 五人 文右衛門

直七 兵衛
 五兵衛 兵衛
 磐八 兵衛
 兵衛 兵衛
 喜兵衛 兵衛
 五人 喜兵衛
 り兵衛 兵衛
 長宜寺 兵衛
 重藏 兵衛
 大次郎 兵衛
 五人 大次郎
 常八 兵衛
 作次郎 兵衛
 嘉藏 兵衛

* 「寅年」は「不書」と貼紙あり。

五人組帳資料

定五郎 兵衛
 九兵衛 兵衛
 五人 太七
 源右衛門 兵衛
 仁兵衛 兵衛
 利兵衛 兵衛
 四人 直次郎
 龍助 兵衛
 平五郎 兵衛
 文藏 兵衛
 五人 安右衛門

庄右衛門 兵衛
 常藏 兵衛
 小はる 兵衛
 龍藏 兵衛
 四人 播州川邊郡木津村之内皮多
 百姓代 文右衛門
 年寄治兵衛 兵衛
 庄屋喜兵衛 兵衛
 取次木間生村 兵衛
 庄屋長右衛門 兵衛
 大津御役所 兵衛

五二 文政十一年上總國市原郡岩崎新田五人組證文

五人組證文之支

*半紙十四枚。表紙裏ともなく、かつ後半を缺く。同新田の文書中にあつたので、同新田のものとして推定する。本文中にあるが如く、文政十年水野壺岐守の領分となる。

- 一 第一農業精出し、萬端檢約ヲ守リ、何事ニ不寄、奢リケ間敷義不仕、御年貢ハ初秋々相納、年内限り皆濟可仕候事、
- 一 山林之義、御林者不及申、百姓山ニ而も猥リニ伐取、又ハ枝葉等かきとらせ申間敷候、万一心得違之もの有之候ハ、爲過錢五百文宛差出可申候、
- 一 博突・三笠附之義、段々從御公儀様御禁制ニ被爲 仰付、依之忤共亦ハ家來等ニ至迄、壹錢賭之諸勝負たりとも、堅く致し申間敷候、
- 一 田畑山林之儀、先規之通相守、自然境木等枯失候ハ、双方之地主立合、植直し可申候、無相談ニ致候義、決而有間敷候事、
- 一 賣地・質地等之儀、證文ハ御條目之通り拾年季ニ相定、年季賣主證文之通り金子返濟成兼候ハ、流地ニ致シ、出石之格式ヲ以、諸事相納可申候、質地之義ハ年季之内たりとも、金子調候ハ、相互ニ談合ニ可仕候事、
- 一 聖養子相定之義、前々能親類相談之上、五人組中組頭役所江訴可申候處、近年心得違にて内證にて相定、其上不宜者をも極め候訳にも相成、不届之至り、向後賑たりとも、無沙汰にて相究め申間敷候、

- 一 萬事之作物等荒申間敷候、殊ニ菜大根等盜取候ハ、見附次第、爲過錢ト、五百文宛爲差出可申候、若シ見遁候儀相知候ハ、可爲同事候事、
 - 一 行衛不知者に壹夜之宿も貸し申間敷候、縦親類・縁者たりとも諸浪人を無沙汰にて、かくまひ申間敷候、
 - 一 道橋山際之土猥りに取申間敷候、并ニ近年田畑によらず、地主外ニ肥作候義、地主難儀ニ罷成候間、向後地主外にて、田畑近所江肥作り申間敷候事、
 - 一 一村中家主ハ不及申、^(不明)共家來等ニ至迄、於隣村、喧嘩口論仕出シ申間敷候様、常々心掛可申候、若シ何事ニ寄らず、出入ケ間敷義致出來候ハ、近所組合にて世話致し取斗、相治メ可申候、自然出入ケ間敷儀出來致し、近所組合之了管にも不及、出訴をも相願候訳にも相成候ハ、右願人路用・諸賄共、爲差出可申候事、
 - 一 從先年くさじき刈之義、苗代肥ニ致シ來り候、依之其節役所々觸出候處、近年心得違之もの有之候訳ニ付、以來ハ役所々觸出候ハ、村中一同立合、役人差圖有之候間、猥りに無之様伐取可申候、
- 附り 正月粟穂之祭禮之時、細きを以致し、相互ニ餘慶刈取申間敷候事、
- 一 芝居之義先規之通り堅く可爲停止候、其外萬事相定メ之通相守、新法之義無相談にて相企申間敷候事、
 - 一 無盡之義前方數多有之、村方困窮ニ罷成候間、相談之上相延、前方之分落切不申迄ハ相企申間敷候事、
 - 一 此度村中相談之上、大橋水揚場御仕立被成候、此所先年土留場ニ有之、其上川南太郎右衛門名田之所、古來揚場之場所ニ候得共、連々土留、いつと無く地窪ニ相成、此邊之田地、川左右共惡田ニ相成、數ヶ敷

義、依之土留場上揚場相止メ、此所へ壹ヶ所ニ相成、然上ハ満水又ハ用水戸明建之節ハ、時役人相談之上可致趣、此度御定メ被成候事、

一文政十亥年閏六月、新田村之義、水野壹岐守様御領分ニ相成、五人組證文之義も、左之通相認差上申候、五人組之義是迄ハ時之名主・組頭ハ五人組合之外ニ致し、萬事取斗候所、此度名主・組頭・平百姓壹烈ニ組立、六軒・七軒と致し、差上候得共、村内執斗方之義ハ先規仕來之通り、任例ニ、勤役之者ハ組合相談有之候節ハ相除き可申候事、

右箇條之趣少茂無相違相守可申候、自然相背候者有之候ハ、御披露之上、何様之曲事ニも可被 仰付候、其節毛頭御恨申上間鋪候、以上、

文政十一戊子三月

條々

一 従前と被 仰出候御條目之趣、彌以堅相守、御法度之義不相背急度相慎可申候、五人組之義ハ町場ハ家並、在こハ最寄次第、家五軒宛大小之百姓・地借・水吞迄、組合仕、子供下人迄諸事吟味可仕候、自然不吟味ニ而惡事出來仕候ハ、組中越度可申付候、若申合を背もの於有之ハ可訴出事、

附り 何事によらず、村中相談之上無依怙最良、就多分ニ、正直可申合事、
一 親に孝を盡し、主人を敬ひ候事不及申、其内勝て孝行成もの、或ハ飢人拯救ひ候類可注進事、

*この以下が五人組帳前書の本文か、又は舊前書を採録したものと明かでない。

一 毎年宗門帳三月迄之内可差出、若御法度之宗門之者有之は、早速可申出候、御高札之趣相守、人別念入可相改、宗門帳相濟候以後、相抱(候) 下人等迄寺證文別紙可取置事、

附り 御高札、若破損候ハ、早速可申出、雨覆□□等損し候節、早々修覆可仕事、
一切支丹ころひもの并類族有之は別紙ニ記し可差出候、他村ハ縁組等ニ而當村江右之族來候敷、他所へ遣し候共、早々可注進候事、

一 庄屋役之義ハ不及申、年寄等ニ而も内證相談ニ而引替不申、役所江訴出、可請差圖事、
一 印形之義宗門帳・五人組帳押置候を相用可申候、印形之義替候ハ、庄屋・年寄ハ役所江相斷、判鑑可差出候、小高百姓ハ庄屋・年寄へ可相斷、名を改候ハ、早々斷五人組宗門帳に改候名可記事、

附 御用向出候節、印形無失念持參可申候、若無據義ニ付、名代差出候節ハ印形致し、封印可差越事、
一 田畑井ニ山林等永代賣買御停止ニ候、若質物ニ入候共、拾ヶ年ヲ限り、質物手形、庄屋・年寄・五人組加判可仕候、田地ヲ質ニ取候もの爲作候而、御年貢諸役地主勤候ハ勿論、切地抔致し候而、右之通仕間敷候事、

附り 田地質物書入候證文ニ庄屋之加判無之候而ハ不取上、地主庄屋ニ而候得は、相庄屋か、年寄判爲致可申候、右之通及出入候とも不取上事、

一 御朱印地・寺社領・除地・什物等質ニ取申間敷候事、
一 衣類・諸道具、又ハはつし金物類出所不知賣物、買取候義ハ不及申、質ニ取又ハ預ヶ置候義も仕間敷、

井ニ出所知候物にても、請人無之質物堅取間敷候事、^{〔九〕}
 一 百姓衣類、庄屋絹・紬・木綿、妻子共ニ可著、平百姓ハ布・木綿其外不可著、綸子・紗綾・縮緬之類、襟帶等にも用ひ間敷候、家作等目立候普請、奢ケ間敷義仕間敷候事、

附り 男女共乗物乗鞍馬ニ不可乘事、^{〔一〇〕}

一 掣取・嫁取之義相應之者ニ取組、少茂奢ケ間敷義仕間敷候、何事ニ不寄、祝儀振舞輕く可仕候、一代之内度ニ無之振舞ニ而も一汁三菜不可過事、^{〔一一〕}
 一 葬禮之野酒一切停止之事、

附り 齋非時一汁三菜ニ不可過候、寺社奉加之義、分限不相應成義仕間敷候事、^{〔一二〕}

一 風水旱魃損毛ニ付御物成減し候上、百姓共願次第御救夫喰、種貸し等有之候とも、向後損毛之品ニ寄、吟味之上御救之義可有之候得共、兼而其心得、費等無之様、常ニ致勘辨、取續候様ニ能ニ心掛可申候事、^{〔一三〕}
 一 家業第一可相勤、遊藝を好、悪心を以、公事を巧、或ハ出入等之腰押、害をなし、又ハ不(所)存もの有之ハ、不置隠可申出、何事ニ不寄、誓約をなし、徒黨ケ間敷義堅く仕間敷事、

附 百姓不似合風俗、長脇差を指、或ハ致大酒、惣而行跡不宜敷もの有之ハ、可訴出事、^{〔一四〕}

一 常ニ人之妨をなし、喧嘩口論を好、夜歩行致し、耕作不精にして渡世營疎に、名主・五人組異見をも承不仕者有之ハ可申出、左様之不届もの隠置、脇差相聞候ハ、名主・五人組可爲越度事、
 附り 何ノ稼も不仕もの村中ニ有之候ハ、遂吟味、其趣可訴出事、

其外大勢申合、無謂休候等農業不精之事、^{〔一五〕}

一 御領分百姓共御取箇ニ夫喰・種貸等、其外願筋之儀に付、強訴・徒黨・遊散候義堅く停止ニ御座候、若シ不埒之致願筋候ハ、急度御咎め可被仰付候間、百姓共兼ニ急度可申付事、^{〔一六〕}

一 百姓小供始、諸親類之内、輕侍奉公ニ出、其後在所へ引込候而も、刀指候族有之由、相聞へ候、自今以後如此類在所へ歸居候ハ、先主ヨリ少ニ合力請候共、刀指候儀停止候、若シ詮儀息ニおいてハ、名主可爲曲事候事、右之書附前ニ御觸之通堅く相守可申候、^{〔一七〕}

一 博突惣而賭之諸勝負・三笠附之類、商ニ事寄、博突ニ爲似候義、一切仕間敷候、於相背ニハ當人宿共、御仕置被 仰付、庄屋・年寄・五人組ハ急度過意被 仰付候間、前度被 仰付候通、急度相守、毎月五人組切ニ相改、證文取置可申候事、^{〔一八〕}

一 人賣買停止之義ハ不及申、井ニ男女奉公人年季之義拾ケ年限リ可申候、普代召抱候とも、不可爲相對、壹ケ年切ニ召抱候共、慥成證文可取置事、^{〔一九〕}

一 人請之義猥ニ不可立候、乍去近キ親類、出所能存、慥成ものニ候とも、庄屋・五人組へ相斷候上にて可仕候、自然人請之義ニ付、出入有之候は庄屋・五人組立合、急度埒明可申候、勿論親類たりとも攝有之もの圍置間敷候事、^{〔二〇〕}

一 養子ハ親類を撰、相應之養子可致、娘斗有之、入掣取候とも、親類之内慥成を養子合可申候、然共其娘の年不相應ニ候ハ、他人ニ而も吟味之上、親類江其趣相達し、其上ニ而養子致へし、譬實子たりとも親ニ

不孝、又ハ不行跡ニ而、庄ヤ・五人組立合、度々異見加へ、夫ニ而も用ひ不申族有之候ハ、其訳庄屋・五人組より訴之上にて、他人養子にても可仕候、父登人之了簡を以不可仕候、又ハ二男・三男迄有之、惣領病身歟、不屈者にて、跡式難讓候ハ、二男・三男之内へ讓候節、是又五人組立合、訴之上可申付事、
附り 兄之方弟を養子ニ致し候共、右之心得たるべき事、

一 田畑分ヶ候義、分地高拾石、反別壹町少當候ハ、不可分、尤分ヶ方ニ不限、殘高も右定少不可殘、然上ハ高貳拾石、地面貳町少ク田地持候もの、子供始、親類之内、田地配分不相成候間、厄介人有之ハ、在所にて耕作之働にて爲致渡世、或ハ相應之奉公人(ニ)可差出事、
一 惣而跡式之義存生之内、庄屋・年寄立合、爲致書付置、後日出入無之様心掛へし、是亦(以下亡失)

五三 文政十三年下總國千葉郡下坂尾村五人組證文

五人組證文之事

一 御公儀御法度は不及申上、御家之條目并御定書之趣、彌堅相守可申候事、
一村中五人組を立、相互ニ途吟味、右被仰出候趣相背申間敷候事、

* 本書は同村名主寅三郎手記「寅人別宗門御法度寫」と題するものであるが、そのうちに五人組帳前書が記してあるのみで、その部分のみを掲載する。その部分は半紙七枚。本村は堀田備中守領分に屬する。

一 田畑永代賣買は勿論、不實之商ひ并人賣買仕間鋪候夏、
一 百姓跡式之儀は常々相究、名主・組頭・五人組江兼而可申届置候、若不極内、大病(ニ)および、跡式讓候ハ、遺狀ニ名主・組頭・五人組并一類共印形加へ差置、已來出入無之様ニ可致候、若遺狀茂不致、子供無之者、跡式之儀ハ親類并名主・組頭・五人組途相談、筋目近者方江遣、百姓相立、御役等可相務候事、

附 先規御定之通持高拾石已上之分ハ、父之心次第子供江配分可致候、其已下は配分可爲無用事、

一 他組は不及申、村中ニ而も出入等有之節、并訴訟等可致儀出來之刻、道理無之儀致荷擔、惣而無筋儀を取持、名主・組頭申付候儀不用、我儘者有之候ハ、早速可申立候事、

附 不依何事、百姓直ニ申上間敷候、申上候儀御座候ハ、名主・組頭ヲ以可申上候、品ニより名主・組頭取次不申候ハ、頭百姓一兩人僮ニ罷出可申上候、左様之儀も不仕、百姓直ニ申上候ハ、御吟味之上、何分之理分ニ而御座候共、此證文ヲ以、急度可被 仰付候事、

一 居村は不及申上、近邊ニ而も火事・盜賊、其外噪敷義有之刻、兼而申合置候相圖之鳴物次第、早速欠合可申候夏、

一 居村之外一切人受ニ立間敷候、親類・縁者無據子細有之候は、其趣名主・組頭・五人組江相斷、可任差圖候事、

一 他所村中江引越候者有之候ハ、其訳名主・組頭江相斷、先方之寺證文・送り證文取置、御役所へ訴、

- 一 可任御差圖候、他所へ縁付養子等ニ遣候ハ、是又名主・組頭江相斷、御役所へ窺可申候事、
- 一 浪人之儀一切差置申間敷候、併前々有來者有之候ハ、其訳可申立候、以來無據者來ハ、其訳御役所へ御窺、可任御差圖候事、
- 一 新地之寺社彌御制禁之事、
- 一 田畑荒シ申間敷候、仕付之時節、輕百姓煩ひ、又ハ無據差合有之候ハ、村中々仕付、耕作可仕候、荒置(候)ハ、可爲曲事候、尤御斷立候共、引方被 仰付間敷候事、
- 一 御年貢并諸役掛物名主・組頭其外役人立合、甲乙無之様割合相改、勘定帳面ニ銘シ印形仕置、以來出入無之様ニ可仕候、若子細有之候ハ、早速可申達候、經年月ヲ、申立候ハ、御取被成間敷候事、
- 一 途中ニ死人等有之候ハ、名主・組頭立會相改、死人番ヲ付、雜物に紛失無之様ニ仕置、早速御注進仕、御差圖次第ニ可仕候、并病人等御座候ハ、介抱仕置、早速御注進可仕候事、
- 一 途中ニ捨候物有之候ハ、名主・組頭相斷御注進可仕候事、
- 一 前々御制禁之通博突・賭之諸(勝)負堅仕(間)敷候事、
- 一 不依何事、替候儀有之候ハ、早々御注進可仕候事、
- 一 御用之儀御役人々被仰付候ハ、疎略ニ不仕、大切ニ可相務候、不依何ニ、村繼互ニ仕間敷候事、
- 一 御役人は不及申上、御家來江茂輕品たり共、音物堅仕間敷候事、
- 一 道橋・堤・川除等無油斷、條補可致候、其所ニ而難成分は可申立候事、

- 一 御役人々依怙最員・非道之儀被仰付候ハ、早速可申立候事、
 - 一 百姓江對、名主・組頭非儀申掛間敷候、百姓方々茂非儀無之様ニ可仕候事、
- 右之趣少茂相背申間敷候、今度印形仕差上候以後、印判紛失仕候敷、亦是替候ハ、御斷申上、新判用ひ可申候、此外印判所持不仕候、帳面之通村中居住之者不洩様、年々爲讀聞、相守可申候、仍如件、
- 年 號 五 人 組

五四 天保貳年武藏國葛飾郡松伏領藤塚村五人組帳*

(五人組帳前書七拾條は「元文三年武藏國幸手領不動院野村五人組帳」と全然同一であるから、これを省略し、奥書のみを記す。)

武州葛飾郡松伏領藤塚村

天保貳年卯二月

名主 本 次 郎
年寄 新 右 衛 門

五人組清 右 衛 門 一 " 三 郎 右 衛 門 一 " 太 左 衛 門 一 " 新 八

五人組帳資料

三五二

* 半紙四拾三枚綴、表紙には「從御支配様 御奉行様江御向之上箇條文言御改正被仰付五人組帳之儀去寅年々改ル、宗門帳前文記ス、天保貳年卯二月、遠藤東次郎所持」とある。遠藤東次郎はあるひは名主本太郎のことかと思はれるが、どう見ても本とは讀めず。但し藤塚村の名主が遠藤氏であつたことは確かであるから、名主の手控と見做してよからう。天領である。

組頭	李左衛門	組頭	七郎左衛門	五人組	彦左衛門	五人組	彦左衛門
"	源左衛門	五人組	甚五右衛門	"	與平次	"	團四郎
組頭	平次右衛門	"	兵三郎	"	庄助	"	清五郎
五人組	市郎兵衛	"	傳七郎	"	新五右衛門	五人組	庄兵衛
"	金兵衛	"	傳十郎	"	彦右衛門	五人組	平三郎
"	仁兵衛	組頭	藤右衛門	"	藤左衛門	"	長左衛門
"	角右衛門	五人組	清次右衛門	五人組	其右衛門	"	長左衛門
"	金左衛門	"	與市	組頭	幸七	"	重右衛門
"	角平	"	宇之吉	五人組	所左衛門	組頭	甚右衛門
"	茂平	"	八右衛門	"	八左衛門	五人組	七郎次
組頭	吉右衛門	"	瀨兵衛	"	嘉兵衛	"	万右衛門
五人組	仁右衛門	"	又藏	"	彌次右衛門	"	紋左衛門
"	利左衛門	"	三左衛門	"	與三右衛門	"	清左衛門
"	權左衛門	組頭	彦七	五人組	忠兵衛	"	九兵衛
"	權次郎	五人組	半六	五人組	市郎右衛門	"	瀧助

組頭	仁左衛門	五人組	七右衛門	五人組	正吉	組頭	又左衛門
五人組	兵右衛門	"	彦兵衛	"	助右衛門	"	佐七郎
"	源次郎	"	德左衛門	"	喜八	"	七三郎
"	太郎兵衛	"	次郎右衛門	"	安左衛門	"	重五郎
"	五右衛門	"	規右衛門	"	作兵衛	"	孫四郎
"	庄五郎	"	勘右衛門	組頭	作兵衛	"	孫四郎
年寄	淺右衛門	組頭	權右衛門	五人組	傳六	"	權四郎
五人組	傳兵衛	五人組	喜右衛門	"	山三郎	"	權太郎
"	太郎左衛門	"	泊仙	"	與右衛門	"	彌源次
"	吉郎次	"	市右衛門	道心	彌五兵衛	組頭	喜助
"	六左衛門	"	嘉七	道心	彌五兵衛	"	喜助
"	佐左衛門	"	新四郎	組頭	四郎兵衛	五人組	久兵衛
"	新左衛門後家	"	七郎右衛門後家	五人組	六郎兵衛	五人組	茂兵衛
"	新六	組頭	喜七	"	與兵衛	五人組	茂兵衛
"	重左衛門	組頭	定八後家	"	佐五兵衛	"	武兵衛
組頭	兵左衛門	五人組	長三郎	"	茂右衛門	"	孫兵衛

*この後に宗門帳前書を附載するも、ここには省略する。

” 長次郎一 ” 喜左衛門一 ” 長兵衛
山田茂左衛門様
御役所*

**中判二十二枚。

五五 天保三年武藏國埼玉郡古新田五人組御箇條帳*

(七十三箇條、三三寛政六年武藏國豊島郡角管村五人組御仕置帳と内容同一故これを省略する。ただ最後に、「天明四辰年八月」と記し、その後に次ぎの如く記してある。)

前書御々條之趣御知行所村々大小之百姓水呑等ニ至迄、爲聞御讀被成、逐一承知仕候、然上ハ御々條之趣急度相守可申候、依之銘、致印形置候處如件、

天保三辰年三月

古新田

*半紙二十六枚。

五六 天保四年信濃國安曇郡上野組焼山村五人組連判帳*

(前書なく、五人組連判のみ、その體裁は寛政八年同國同郡田屋村五人組連判帳と同様である。)

五七 天保六年大和國廣瀬郡笠村五人組帳**

**半紙十四枚。前書前文を缺く。表紙に辨才天組とあるのをみれば、同村になほ他にいくつかの組があつたものと思ふ。同村元治二年の分は古寺組と記してある(後出)。

……割合を以五人組相極メ、重而出入無之様念入可申候、ふ吟味之儀相聞候得ハ、穿儀之上、庄屋・年寄可爲越度度

右之條堅可相守、若違背之於有之者、穿儀之上、當人ハ不及申上、品ニク親類・縁者・庄屋・年寄・五人組まで可爲曲支者也、

天保六年未三月

右御條目之趣大小之百姓、其外村中之者不殘承知仕、奉畏候、常ニ無油斷吟味可仕候、若違背仕者御座候得ハ、當人ハ不及申上、親類・縁者・庄屋・年寄・五人組まで如何様之曲支ニも可被 仰付候、爲其村中相談之上五人組相極メ連印帳面差上申度、仍而如件、

五人組帳資料

和州廣瀬郡笠村

天保六年
未三月

一高拾八石九斗貳升九合七勺	庄屋 清 治郎	三五六
一同拾九石貳斗八升七勺	同斷 彌 太郎	
一同八石四合四勺	小 平 治	
一同拾壹石六斗壹升	善 千 郎	同斷 治 兵衛
一同拾石九斗九升壹合三勺	年寄 千 治郎	
一高六石七斗五升	年寄 善 太郎	庄屋 清 治郎
一同七石壹斗九升	善 四 郎	年番 與 助
一同五石六升壹合	榮 藏 郎	
一無高	年寄 甚 七郎	
一高貳拾石壹斗五升六勺	年寄 藤 治兵衛	
一同壹石八斗壹升貳合五勺	年寄 治 兵衛	
一同拾石四斗三升三合	年寄 甚 七郎	

一無高	嘉 四 郎	一無高	組頭 伊 兵衛	三五七
一無高	乙 吉	一高拾三石八斗七升	組頭 伊 兵衛	
一無高	久 兵衛	一同七石壹斗九升	善 四 郎	
一高貳拾貳石壹斗八升	組頭 久 兵衛	一同五石四斗八升貳合	與 八 郎	
一同六石貳斗六升五合	文 治郎	一同四石七斗貳升	甚 兵衛	
一同八石五斗五升三合	佐 久 衛門	一同壹石三斗八升	清 兵衛	
一同四石七升六勺	伊 助	一無高	組頭 佐 兵衛	
一同五石五斗九升九合八勺	作 兵衛	一高九石八斗三合壹勺	久 四 郎	
一無高	清 五 郎	一同七石四斗貳升	清 九 郎	
一無高	又 兵衛	一同拾石三斗壹升六合	彌 助	
一高拾七石五升壹合	組頭 忠 三郎	一同五石五斗	平 八 助	
一同九石九斗三升貳合	平 兵衛	一無高	卯 之 助	
一同六石九斗五升三合五勺	兵 助	一無高	新 之 助	
一同三石五斗九升貳合四勺	源 四郎	一高拾八石四斗壹合	組頭 志 郎	
一無高	十 九郎	一同拾石九斗六升六合	五 郎	
一無高	甚 九郎		長 兵衛	

一同拾三石七斗四升四合三勺	彌平治	一同三石五斗	吉太郎
一同貳石五斗四升四勺	清三郎	一同四拾八石九斗九升五合壹勺	中地高
一同拾石壹斗八升六合五勺	嘉十郎	一同拾九石壹斗	出作高
一同無高	三藏	一同八拾三石五升	永荒村辨
一同高壹石八斗八升四合六勺	極樂寺	五百八拾三石六斗	

差上申宗門手形之支

(以下村人数及び死亡・縁組人名等を記し、總連名を掲ぐ。詳細は同村元治貳年の分を見よ。)

* 大判十五枚。伊勢崎領である。

五八 天保七 years 上野國佐位郡太田村五人組御改帳*

五人組御改ニ付一札之事、

- 一 五人組被 仰付候上者於當郷徒者有之候ハ、遠慮不仕、御内ニ而可申上候事、^{〔二〕}
 - 一 親に不孝仕間敷候事、^{〔三〕}
 - 一 修業者宿賃申間敷候事、
- 但し順禮・山伏・坊主・鉢ひらき・行人等也、

附り 諸勸進一切入申間敷候事、^{〔三〕}

- 一 下男・下女出所不知者并請人無之もの抱置申間敷候事、^{〔四〕}
- 一 屋鋪之内地主借申者并店借之者有之候ハ、成程吟味可仕候、請人丈夫無之者貸置申間敷候事、^{〔五〕}
- 一 浪人居住之者片時茂圍置申間敷候事、若シ親子兄弟伯父甥は名主・五人組江斷、其上ニ而御役所江申上、可任御差圖候事、^{〔六〕}

一 當村人数壹人茂隠置申間敷候事、

附り 他所江男女共奉公出し申間敷候事、^{〔七〕}

- 一 難遁客并賣買人有之、一宿爲仕候節、名主江相届ケ可任差圖候事、^{〔八〕}
- 一 浪人居住之者於有之者、出所寺請證文、慥成請狀取置可申候事、^{〔九〕}
- 一 盜賊有之節は出合可申候事、

附り 火事等出來之節、出合消可申候事、^{〔一〇〕}

一 他所江參り候ハ、名主江相斷、隣郷江參り候ハ、組合之内江斷可申候事、^{〔一一〕}

一 諸博奕打申間敷候事、

附り 宿堅仕間敷候事、^{〔一二〕}

- 一 大酒仕、或は用なくして他所江切參り、田畑荒置輩於有之は、早速可申上候事、^{〔一三〕}
- 一 田畑質地ニ仕候ハ、名主・五人組立會、加判可仕候事、^{〔一四〕}

* 天保八年下植木村の五人組帳には「當村人数上下共」とあり。
** 同上「男女共壹人茂」とあり。

五人組帳の研究

一 於當郷ニ、爭論出來之節、御代官之御差圖不用、或は輕可相濟儀を脇々重取成、非儀成公事作立者於有之は、何者ニ不寄急度可申上候夏、
 一 他領之相撲・操見物之類一切無用可仕候夏、
 一 竹木猥ニ伐取申間鋪候夏、
 此ヶ條之外後ニ被、仰付候五人組之御條目可相守候、

年七拾四歲 作左衛門

六拾四歲 女房 他領八木沼村 忠右衛門娘

男子壹人 長次郎 四拾六歲
孫男壹人 熊五郎 貳拾壹歲
孫女壹人 宮下村又右衛門娘 十八歲
孫女壹人 拾七歲

同四拾貳歲 作太

六拾三歲 夫 三拾五歲 女房 他領上山ノ上村 幸右衛門娘

弟壹人 兵五郎 三拾貳歲
弟女壹人 他領上ノ宮村儀八娘 廿七歲
甥男壹人 作次郎 貳拾壹歲

附箋
彌兵衛母去冬中相
果候故帳面可除
酉二月廿九日

同五拾九歲 彌兵衛

八拾四歲 母 衛

同五拾六歲 助左衛門

養子男壹人 松之助 貳拾壹歲
他領下觸井村牛七俵

年四拾壹歲 仲右衛門

六拾貳歲 母 三拾三歲 女房 養三太夫娘

男子壹人 仲五郎 拾四歲
女子壹人 尻付男壹人 五市 貳拾貳歲
女子壹人 厄介男壹人 四市 拾六歲

同六拾九歲 善次

五拾六歲 女房 他領下増田村 勘右衛門娘

孫男貳人 龜藏 拾四歲

同四拾歲 孫

助 出奔

同三拾四歲 茂兵衛

六拾四歲 母 三拾貳歲 女房 養茂兵衛娘

男子壹人 茂次郎 七歲
女子貳人 茂次郎 五拾五歲

同六拾四歲 助

五拾三歲 女房 他領小濟村 友吉娘

男子貳人 長次郎 四拾九歲
孫男壹人 儀次郎 拾三歲
孫女壹人 軍次郎 八歲

同三拾六歲 軍

五拾七歲 藏母 三拾歲 女房 當此右衛門娘

男子壹人 惣之助 四拾壹歲
女子貳人 九歲

五人組帳資料

*この出奔の意は明かでない。張紙の脱落した形跡があるが、恐らく翌酉年には早く歸つて来てゐたものと思ふ。

附箋
林左衛門義當春中
印刻粉尖いたし候
二付新判用度旨、
委細以書付願候
故、願之通新判可
用⑨
酉二月二十九日

同四拾五歳 平右衛門母	六拾三歳 母	四拾壹歳 女	房	養平右衛門娘父	男子貳人 女子貳人	新平	太次郎	拾三歳
同三拾七歳 茂太	六拾三歳 夫母	貳拾九歳 女	房	他領高岳村 勇左衛門娘	男子壹人	勝	太郎	六歳
年六拾六歳 多郎左衛門	五拾九歳 女	五拾九歳 房	孫芝三郎娘	男子三人	長一忠	太郎	八藏郎	廿七歳
同六拾六歳 多郎右衛門	五拾九歳 女	五拾九歳 房	田中鶴村娘 勘右衛門娘	孫男壹人	熊太	郎	松郎	拾三歳
同五拾八歳 林左衛門	出奔*			男子壹人	藤			
同三拾貳歳 彦右衛門	五拾九歳 母	貳拾歳 女	房	他領筑井村 求右衛門娘	妹壹人			
同三拾貳歳 瀬兵	五拾八歳 母	三拾歳 女	房	伊勢崎町 佐兵衛娘	妹壹人 男子壹人 女子貳人	寅	藏	拾六歳 六歳 八歳 四歳

附箋
當村林左衛門印刻粉
尖二付新判奉願上候

附箋
儀兵衛野州佐
野大町喜兵衛
貫以引取度旨委
細書付願候故
之通貫引取度旨
之助儀清兵衛
成江八斗嶋村
店年當西五年賦
宅申請右店賦之
以書付願候、委
之通差遣帳面除
年賦書上可出ス、
酉二月廿五日

*「右五人組之内」とあるも、これは「右五組之内」の誤りのやうである。天保八年下植木村の例等を見ると、何れも組数を掲げてゐる。

同四拾六歳 八左衛門	三拾五歳 女	房	他領下武土村 差右衛門娘	男子壹人	万	吉	拾四歳
同貳拾歳 安兵	五拾九歳 母	廿三歳 女	房	他領平塚村 清右衛門娘	下男 下女	馬一疋 壹人	
同五拾九歳 儀兵	四拾五歳 女	房	當右衛門伯母村	男子三人 男子壹人 女子壹人 孫女壹人	芳嘉房 嘉之 浦勇	馬一疋	廿九歳 廿四歳 拾五歳 廿三歳 拾壹歳 五歳

右五人組之内御制禁宗門并博突打其外怪敷もの於有之者可申上候、若シ隠置脇露顯仕候ハ、同罪可被仰付候

五人組帳資料

- 判頭 左衛門⑨
- 作 右衛門⑨
- 仲 右衛門⑨
- 助 平⑨
- 多郎左衛門⑨

(右と同様の形式を以つて十三軒分を三組として續いて記載してゐるが、ここには省略する)

三拾三人	本組
貳拾六人	女房
壹人	祖父
五人	父
拾七人	母
三拾貳人	男子
拾九人	女子
貳人	弟
三人	妹
五人	姫
壹人	弟
壹人	妹
壹人	甥
貳人	養子男

作 太 夫

八人	孫男子
四人	孫女
壹人	孫
貳人	尻付男
貳人	尻付女
四人	下男
貳人	下女

人數合百七拾壹人 下男下女共
外ニ樂師堂 月聚院持

右之條、相背輩於有之は、急度曲事可被 仰付候、爲後日仍而如件、

百姓代 作 太 夫
名 主 利 兵 衛

雷岡眞左衛門様

栗原 悉兵衛様

親類書上之事

一作太夫弟伊太郎と申者

他領小齊村ニ罷在候

五人組帳資料

一 同人婿半兵衛と申者 同八木沼村ニ罷在候
 一 彦右衛門姉婿卯七と申者 同宮子村ニ罷在候
 一 五市姉婿徳藏と申者 同保泉村ニ罷在候
 一 祐右衛門妹婿茂兵衛と申者 同連取村ニ罷在候
 一 瀬兵衛婿嘉藏と申者 同連取村ニ罷在候
 一 儀兵衛婿嘉兵衛と申者 同村田村ニ罷在候
 右之外於當村他領江縁組遣し候者壹人茂無御座候、若し隱置脇方訴人出候ハ、當人者不及申上、何分之曲
 更ニ茂可被仰付候、爲後日依而如件、

天保七年申二月

組頭 多郎左衛門
 同 作左衛門
 名主 利兵衛

富岡眞左衛門様
 栗原 悉兵衛様

店借年賦書上之事

當村善右衛門伊勢崎町藤右衛門店ニ借宅罷在候處、此度願之通引込被 仰付、跡ニ召抱手代新兵衛五ヶ年

賦店借ニ差出置申候、

右之外於當村、店借ニ罷出候者壹人茂無御座候、若し隱置脇方於露顯仕候ハ、當人者不及申上、御穿鑿之
 上、連判之者共何分之曲更ニ茂可被 仰付候、爲後日仍而如件、

天保七年申二月

組頭 多郎左衛門
 同 作左衛門
 名主 利兵衛

富岡眞左衛門様
 栗原 悉兵衛様

五九 天保八年五人組帳前書*

* 半紙四十五枚。
 表紙には單に「御
 法度書 飯山清藏」
 とあるのみ。國郡
 村名不詳。

(本書の内容は五拾七箇條附則拾九條。大體において五〇文政十年下總國葛飾郡大呷新田五人組御仕置帳と
 同様である。同書より箇條は多くなつてゐる。五〇の上欄に註記してある。最後に天保八年酉三月と記して
 ある。四七文政八年五人組御條目などと同型のものである。)

* 大判二十八枚。

六〇 天保八年上野國佐位郡下植木村五人組御改帳

(當村は伊勢崎領であつて、その前書もその他の形式も前掲の五八天保七年上野國佐位郡太田村の分と全然同一であるから、これを省略する。ただ太田村の分には出奉公人の記載がなかつたが、本帳にはそれが記載されてあるから、左にその形式を示して置く。)

奉公人書上

- 一 江戸御仲間 七右衛門と申者罷在候
 - 一同 友八と申者罷在候
 - 一同 平兵衛と申者罷在候
 - 一 御國御仲間 彌次右衛門と申者罷在候
- 右之外於當村奉公ニ罷出候者壹人茂無御座候、若シ隠置脇々他所江奉公ニ罷出候と訴人於有之ハ、當人は不
及申上、御穿鑿之上、何分之曲事ニ茂可被仰付候

與頭 源 太 夫
" 彌 五 兵 衛 〇

" 政 右 衛 門 〇
" 宅 右 衛 門 〇
" 彦 七 〇
" 傳 左 衛 門 〇
名主 五 郎 右 衛 門 〇

富岡眞左衛門様
栗原 悉兵衛様

六一 天保十一年武藏國葛飾郡牛嶋村五人組御改

(五人組帳の前書のみを記す。その内容は一箇條顛倒したところがあるが、それは誤記と見られ、全文七十箇條は七元文三年武藏國葛飾郡不動院野村五人組帳と同様である。最後に次ぎの如く記してある。)

天保十一年十一月改

武藏國葛飾郡
牛嶋村

惣百姓連印

三六九

五人組帳資料

* 半紙四十五枚、表紙に牛嶋村秀山とある。秀山は號であらうが、何人であるか不明。天領。

* 半紙二十二枚、五人組帳前書のみ。裏表紙に「上野國新田郡尾嶋村元宿、金井友治郎」と記してある。天領。

六二 天保十二年上野國新田郡尾嶋村五人組帳

條々

- 一 前々從 公儀被 仰出候御條目之趣は勿論、自今以後被 仰出候御法度之儀堅相守可申事、^{〔一〕}
- 一 五人組ハ家並最寄次第五軒宛組合、借地・店借・寺社門前・下人等ニ至迄吟味仕、惡事無之様ニ可仕事、^{〔二〕}
- 一 一切支丹宗門之儀御制禁之条不審成者有之ハ、早速申出へし、若隱置後日ニ顯候ハ、名主・組頭・五人組共急度曲事ニ可申附事、^{〔三〕}
- 一 常々無油斷耕作ニ精入、百姓不似合遊興何ニ而茂仕間敷候、若不精成もの有之ハ、異見いたし、不用ニおゐては可申附事、^{〔四〕}
- 一 父母ニ孝行、夫婦兄弟親類とむつまじく可仕候、若諸親類共と不和ニ而異見をも不用、不孝不儀之輩有之ハ、名主・組頭吟味いたし可申附事、^{〔五〕}
- 一 兼而被 仰出候通捨子堅仕間鋪候、惣而無便老人幼少之者ニ而介抱致兼候ハ、其旨可申出事、^{〔六〕}

一 鉄炮之儀獵師并猪鹿防之爲貸置候外、一切所持不可仕、猪鹿防之外、獵ニ殺生不可仕、他人ハ不及申、親子兄弟たりと云共、堅貸申間敷事、

附 前々取上鉄炮之外、隠鉄炮所持仕候者相聞候ハ、名主・組頭・五人組迄急度曲事可申附事、^{〔七〕}

一 人賣買御制禁之条堅相守、召仕之男女抱候節は身本宗門相改、懺成者證人手形取之、可差置事、^{〔八〕}

一 御朱印傳馬并往來掛り繼人馬先規之通勤來候所ハ不及申、傳馬宿之外、在りたりといふ共、御用ニ而通候輩有之ハ、晝夜風雨をいとわす、人馬無遅滞出之、御朱印之外御定之賃錢取之、可繼通候、若廻人通候ハ、人馬早速差出、大切ニ可仕事、^{〔九〕}

附 往還之旅人江法外成儀堅仕間敷事、^{〔九〕}

一 押賣・押買堅仕間敷候、常々商賣ニ不仕品、又は他所々疑敷もの持來候ハ、不可買取事、^{〔一〇〕}

一 田畑永代賣買并二重質前々御制禁ニ而候、堅相守候、年季質地ニ入、不可過拾ヶ年、尤名主加印證文可取置候、名主借主之時は組頭加印可致事、

附 質地出入ニおよび候節は、名主判形無之證文ハ不可取上事、^{〔一一〕}

一 所有來候造酒屋、從前々改請候外、不可造、勿論新規ニ造酒屋堅く仕間敷候事、^{〔一二〕}

一 常々火之元大切ニ可仕候、若村内ハ不及申、隣郷ハ出火有之ハ、早速走付消可申候、衣類諸道具ハ他所之ものニ不可綺事、^{〔一三〕}

一 火事喧嘩其外不限何事、不慮之儀有之ハ、早速注進可仕事、^{〔一四〕}

- 一 御年貢郷藏ニ詰置候節、名主・組頭立會、戸前封印仕、番人を附置大切ニ可仕候事、^{〔一五〕}
- 一 村之内火事出来候ハ、村中欠附、郷藏を圍、防可申事、^{〔一六〕}
- 一 旅人ニ一夜之宿賃候共、名主・五人組迄相斷、若無據儀有之、翌日逗留仕置ハ、名主・五人組立會吟味ノ上留メ可申候、尤怪敷ものニは一夜之宿賃申間敷候事、

附 旅人落置候もの有之ハ、早速追掛可相渡候事、^{〔一七〕}

- 一 旅人煩候敷、或は酒醉、不辨前後體ニ候ハ、醫師を附、藥を用ひ、名主・組頭立會雜物相改、出所縦名等委細相尋、介抱仕、本服仕候節、雜物可相渡候、病氣重リ候ハ、可訴出候事、^{〔一八〕}
- 一 倒死候者有之ハ、名主・組頭立會、委細相改、所持之雜物書付、死骸其所ニ番人を附置、早速注進可仕候、尤尋來候者有之ハ、出所開届ケ、是又可訴事、^{〔一九〕}
- 一 欠落者有之節、追手之者慕來リ、其届於有之ハ、早速村中之もの馳付、不取逃様いたし置、早速注進可致事、^{〔二〇〕}

- 一 博突賭之勝負・三笠附等堅御停止ニ候条、一切不可仕候、若相背者有之、右之宿仕候もの有之ハ、五人組之内ハ早速可訴出候、隱置脇ハ相開候ハ、名主・組頭・五人組迄可爲曲事候事、^{〔二一〕}
- 一 常ニ人之妨をなし、或は酒狂仕、口論を好族有之敷、亦は耕作・商等茂不仕、渡世不分明成者有之ハ、名主・組頭・五人組之内ハ可訴出候事、

附 無用事ニ而他所ハ出入仕候者有之ハ、心附様子見届、子細有之ハ、可遂吟味事、^{〔二二〕}

- 一 喧嘩口論有之ハ、開届次第出會押ヘ可申候、人を殺、立退候もの有之ハ、捕置、注進可致、捕儀難叶候ハ、跡を慕ひ、落附所江急度可申届事、

附 喧嘩口論取押候節、飛道具不可持出候、尤かせひ不可致候事、^{〔二三〕}

- 一 堂宮山林ニ疑敷もの不罷有様、常ニ吟味可仕候、行衛不知もの一切差置申間敷候事、^{〔二四〕}
- 一 郷中番屋之儀、如有來、番人を差置、不審成もの有之ハ、聲を立可申候、自然盜賊入候ハ、番人は不及申、所之者迄不殘欠附捕置、注進可仕候、若出會さるもの有之ハ、急度可爲越度事、^{〔二五〕}
- 一 新規之寺社不可建立、并念佛塚・庚申塚・堂塔等有來之外不可仕立事、^{〔二六〕}

附 住寺・神主替目之節可申出候事、^{〔二六〕}

- 一 神事祭禮有來之所隨分輕く可執行、新規ニ不可企事、

附 佛事分限ハ輕く可仕事、^{〔二七〕}

- 一 勸進能・相撲・狂言・芝居・其他諸見物可爲停止事、

附 遊女・歌舞・踊子之類不可差置事、^{〔二八〕}

- 一 不依何事、徒黨ケ間敷儀仕間敷候、惣而公事出入之儀有之ハ、名主・組頭・五人組立會、取扱之可相濟候、不可申出候、

附 荷擔致候者有之敷、又は公事上出入をすゝむる族有之ハ、科重かるヘき事、^{〔二九〕}

- 一 境論無之様ニ常ニ念入可申事、

- 附 古荒・川欠起返候場所并新開發等有之ハ、無隠可申出候、尤開發ニ可成場所所有之ハ可致注進事、^{〔三〇〕}
- 一 用水之儀先規ノ例を以兼而相定置、濁水之節論無之様ニ可仕事、^{〔三一〕}
- 一 川通之村ニ滿水之節、名主・組頭・惣百姓罷出、堤・川除・堰・池等切不申様、隨分防可申候、勿論常ニ無油斷御普請所不及大破様可相心得事、

附 用水溜井毎年春之内凌可申付事、^{〔三二〕}

- 一 往還道橋ハ不及申、脇ニ之儀常ニ無油斷繕之、人馬通路無難儀様可仕事、

附 有來之道并堀添を田畑ニ切込申間敷事、^{〔三三〕}

- 一 川船運賃之儀古來定之通不可有違亂事、

附 御城米積候御船は不及申、不慮ニ破船有之ハ、所之者迄罷出相働、荷物紛失無之様可仕事、^{〔三四〕}

- 一 公儀之御林ハ落葉たりといふ共、一切不可伐、其外御林四壁之竹木猥ニ伐荒し申間敷事、

附 御林并往還道並木風折等有之ハ、常ニ通路障ニ不相成様仕置、早速注進可仕事、^{〔三五〕}

- 一 村權之廻文不限晝夜、無遲滯先ニ江相届ケ、請取手形取置可申候、若廻文留置、御用間違候ハ、名主・組頭可爲越度事、^{〔三六〕}

- 一 質物之儀能ニ吟味いたし、慥成證文取預り可置事、^{〔三七〕}

- 一 百姓家作之儀分限ノ輕ノ可仕候、目立候普請不可致候、衣類之儀結構成ものを不可著、名主は綾紬、平百姓は布木綿より外ハ不可著、綸子・紗綾・縮緬之類糸リ帶等ニも致間敷候、然ハ平百姓ニも身上宜敷ハ

手代召迄斷を立、差圖を請、紺紬可著事、

附 男女乗物鞍馬ニ不可乘、惣而奢ケ間敷義不可致、無斷而不可刀差事、^{〔三八〕}

- 一 毎春百姓夫食ニ可相成類貯置可申候、其心懸ケなくして、自然夫食願ニ出候ハ、吟味之品ニより不取上事、^{〔三九〕}

- 一 田畑譲り候節高拾石以下不可分、若無據子細有之ハ可窺出事、^{〔四〇〕}

- 一 掣取嫁養子取候儀、名主・五人組立會、念入、後日ニ出入ケ間敷儀、出來不仕様可仕事、^{〔四一〕}

- 一 何者ニよらず他所ノ越候者有之ハ、出所兼ニ吟味仕、慥成證文を取、其段可申出事、^{〔四二〕}

- 一 他所江罷越一宿ニ而茂可仕節は、名主・組頭ハ申合、其外之者ハ五人組江相斷、罷歸候ハ、其届可仕事、

附 江戸并何方ニ而茂用事有之、罷出候ハ、其更相濟次第早速可罷歸候、長逗留不可致更、^{〔四三〕}

- 一 跡式之儀兼而遺狀仕、名主・五人組立會、致加印、後日出入無之様可仕事、

附 跡目無之者不慮ニ死候ハ、所持之品ニ名主・組頭・五人組立會相改可申事、^{〔四四〕}

- 一 獨身之百姓若長病抔いたし、耕作成兼候節ハ、五人組として助合、田畑荒し不申様可仕事、^{〔四五〕}

- 一 訴訟其外何事ニよらず可申出儀有之は、五人組江斷、名主・組頭を以可申達候、或ハ名主之添狀を以可

訴出候、名主・組頭取繼添狀茂不仕候ハ、以其趣可申出事、^{〔四六〕}

- 一 名主・組頭非分を申懸ケ、小百姓を掠ニおゐてハ可申出、我儘をいたし、名主・組頭申付承引不仕百姓

有之ハ、詮儀之上曲事可申附事、^{〔四七〕}

一町在ニ共ニ諸事御用ニ付手代差遣候節、賄之儀定ル木錢雜用相渡候間、請取之、所有合之野菜を以相賄、一汁一菜之外馳走ケ間敷義一切仕間敷候、并召仕之者仲間小もの等ニ至迄同事ニ相心得可申、勿論金銀米錢・酒肴・衣類・諸道具如何様ニ輕きものにては音物堅仕間敷候、尤金銀米錢當分たりといふ共、一切借貸等仕間敷事、

附 手代并召仕之者迄非分之儀申者有之ハ、早速可申出事、^{〔四八〕}

一毎年御年貢割附出候ハ、惣百姓并入作之者迄致披見、無相違様ニ割合可申事、^{〔四九〕}

一御年貢米金名主方江相納候節、銘ニ其時ニ請取手形名主方ハ百姓江取置可申候、万一請取手形相滞候ハ、其旨可訴出事、^{〔五〇〕}

一御年貢皆濟目録相渡候ハ、本途米永・其外高掛り・并石代・荏大豆直段・同代米永・運賃・駄賃等諸差引、惣百姓立會、銘ニ納方目録引合相改、過納有之儀、吟味可仕事、^{〔五一〕}

一割附皆濟相違之儀無之様ニ付、則銘ニ割合出入無之旨、奥書相認、惣百姓連判仕、役所江可差出事、^{〔五二〕}

一何事ニよらず其子細能ニ承届ケ、書付見届ケ候上、印形可仕候旨、得心不仕義ハ印形仕間敷候、惣而後日ニ出入不出來様ニ、諸事念入可申候事、

附 自分之印形親子兄弟たりと云共、少之内茂預置申間敷候、縱令御用之儀たりといふ共、名主・組頭江印形渡置候儀堅仕間敷候事、^{〔五三〕}

一村ニ御普請人足扶持方其外被下之類當座割合可申候、年中村入用掛物等之儀、其村ニ名主・組頭・年寄・百姓立會、帳面ニ記、致判形、無相違割合、重而出入無之様念入可申候、若不吟味之儀有之ハ可申出、詮儀之上、名主・組頭可爲越度事、

附 繼合勘定一切仕間敷候事、^{〔五四〕}

一御年貢割合其外寄合之節、給もの酒肴等相調、村入用ニ仕候儀不可仕候、前ニ割來候内、向後減候様村中可申合事、^{〔五五〕}

右之條ニ堅相守違背有之族有之は、當人は不及申、品ニより親類・縁者・名主・組頭・五人組迄可爲曲事者也、

右御條目之趣大小之百姓其外水吞迄、村中之者不殘承知奉畏候、常ニ無油斷吟味可仕候、若違背仕候者御座候ハ、當人は不及申上、親類・縁者・名主・組頭・五人組迄何様之曲事ニ茂可被 仰付候、則村中相談之上五人組相究、連判仕、差上申候、爲後日依如件、

天保十二年

丑正月

上野國新田郡尾嶋村*

御代官伊奈友之助様

御預所

*この帳の後に、鷹場に關する御請書に記載するも、五人組帳に關係のないものと見做し得るから省略する。

六三 天保十二年武藏國埼玉郡樋遣川村中山御役所御條目*

覺

*半紙二十六枚。本書は特殊の五人組前書である。本書に二種の寫本があつて、一は文政七年申十一月廿五日寫としてあるが不完全である。他は嘉永元年正月の日附で「出羽國山形領中山御小屋場御條目寫」としてある。それを天保十二年としたのは、後者の最後には、「天保十二年申出、中山御屋場當村江相渡り、當村十五耕地一冊宛ニ相渡り是ヲ寫申候」とあるからである。

- 一 從 公義被 仰出候御條目、且又御高札之趣堅相守、自今以後被 仰出候御法度有之ハ、堅可相守事、
- 一 不孝不儀之行ひ有之、諸親類と不和ニ而異見をも不用輩有之は、名主・組頭・五人組、令吟味可申出支、
- 一 御朱印傳馬は不及申に、前々勤來候往來之宿々、繼人足・繼馬之義晝夜風雨寒暑を厭わす、無滯様相勤、對旅人江、不作法成儀仕間敷事、

附 傳馬役之外たりといふとも、御用に而通り候節有之候ハ、傳馬宿同前ニ可心得支、

- 一 前々之通り五人組を定、下々迄致吟味、惡事無之様可仕事、

- 一 五人組之支、町ハ互ニ萬端申合、相互ニ相救ひ、百姓耕作互ニ相助之、長病之者、或は獨身之者有之ハ、猶以五人組助合之、田畑荒不申様ニ可仕候、若耕作不沙汰ニ仕もの有之ハ、名主・組頭可申出之、其通り捨置、吟味之上、於相知るには、本人ハ不及申、名主・組頭可爲越度事、

附 惣而無便老人・幼少之者有之候而渡世難成辨あらハ、其所にて致介抱置、其旨可申出支、

- 一 他所江奉公ニ出候敷、子細有之候而他所江罷出候者ハ、名主・組頭江相斷、其趣名主・組頭可申聞事、
- 一 鐵炮之儀ハ兼而被 仰出候通、堅所持仕間敷支、
- 一 牛馬放來支有之ハ、見附次第名主・組頭江早々相達し、名主・組頭立會、養置可申出支、

附 常々牛馬調候節は、請人を所、調之、其段名主・組頭可相斷事、

- 一 他所々怪敷辨ニ而駈來ルもの之者、村中之者馳集り留置之、早々可申出、其内尋來、可請取由申候とも、差圖無之内ハ、相渡申間敷事、
- 一 他所々來附候商人江對し、不作法不道成儀無之、假令輕き辨之ものニ而も、あなとり不申、かさつたる義仕間敷事、

- 一 一定たる宿之外、所々或ハ親類・縁者等、其外常々賣買等ニ而來り候者ハ格別、むざと旅人に宿貸申間鋪候、若指留可申ものたりといふとも、一宿にて茂仕候は、名主・組頭江相斷べく之、品ニより名主・組頭可申出支、

一定たる宿ニて旅人一夜の宿貸候とも、名主・組頭相斷(可)申候、若無據儀有之、翌日逗留仕候にをわてハ、名主・組頭・五人組立會、相談之上留可申候、勿論怪敷辨之者ニは一宿をも貸申間敷候事、

附 旅人取落置候もの有之ハ、早速追駈可遣、若追駈之、不及節は可申出支、

- 一 旅人相煩之者有之ハ、名主・組頭立會、致介抱、所持之品々相斷、其者之名并在所承届本服之後右之品々相渡可遣之候、但是ハ當分之病氣・酒醉等之儀ニ候、長病・大病之辨ニ候ハ、右之通り介抱仕、品々致注進、可任差圖ニ事、

- 一 倒死候もの有之節ハ名主・組頭立會、具ニ改之、品々紛失無之様、死骸江番人附置、品々注進仕、可任差圖ニ事、

一 郷中ニ有之番屋之儀、如有來差置之、不審なるもの有之ハ、咎メ可申候、自然盗人有之ハ、番人ハ不及申ニ、處之者共駈附捕置、可注進夏、

附り 番屋(之儀)ハ不及申ニ、家毎ニ常ニ棒・明松之類支度仕置可申事、^{〔二五〕}

一 當社山林ニ怪敷もの不罷在様常ニ吟味、惣而行衛不知もの一切差置申間敷候事、^{〔二六〕}

一 火之用心之儀常ニ油斷不仕、若火事出來之節ハ品ニ駈附、火を消可申候、乍存不出合者有之ハ、可爲越度事、

附 野火付申間敷候、其段童下ニ至迄、堅可申附、若林野焼出する事あらハ、品ニ駈附、消し可申候、

其段火事出來之節同然ニ可心得之、且又火事場へ手桶、其他火消道具可持出事、^{〔二七〕}

一 中山邊ニ火事出來之節ハ見附次第、名主・組頭・百姓ヲ召連、早ニ駈附、任下知可相働事、^{〔二八〕}

一 火事・喧嘩其外不慮之儀有之候ハ、早ニ可注進事、

附り 手疵有之者來ハ留置之、致介抱可注進夏、^{〔二九〕}

一 喧嘩口論有之ハ、早速出合取押ひ可申候、人を討、可立退舛ニ候ハ、捕置、可注進之、若延延候ハ、跡を慕ひ、落著所を見届預置可注進夏、^{〔三〇〕}

一 博突、惣而賭之諸勝負ハ勿論、宿等も仕間敷、若相背候もの有之ハ、訴人ニ可出、假令同類たりといふとも、其科をゆるし、品ニより御ほうび可被下候事、^{〔三一〕}

一 大勢集り候諸見物可爲無用こと、

附り 丘尼・遊女・歌舞妓子之類一切差置べからざる事、^{〔三二〕}

一 何事によらず徒黨がましき儀(仕)間敷候、惣而出入之儀有之節は、名主・組頭・五人組取扱、依怙最良無之様可仕候、若荷贖せしめ候わば可爲曲夏、^{〔三三〕}

一 御定之衣類(之)外不可著之、惣而居宅・食物類迄奢ケ間敷儀仕間敷夏、

附り 佛夏・作善等分限ニ應し輕く可仕事、^{〔三四〕}

一 新規之神夏不可有祭禮、新規之神社(は)勿論、小祠等迄(も)無斷して建立すべからざる事、^{〔三五〕*}

一 諸勘進・頼母子之類猥ニ仕間敷事、

附り 仲間商ひ、無盡等之出入取上間敷候、兼而其心得可仕夏、^{〔三六〕}

一 酒屋之儀前ニ有來之外、新酒屋并請賣之酒屋可爲無用夏、^{〔三七〕}

一 訴訟其外依何夏、申出有之節ハ、五人組江斷、名主・組頭を以可申達、若品ニ名主・組頭横曲ニ而、不取次節ハ可爲格別事、^{〔三八〕}

一 名主・組頭たる者、非分成儀申懸ケ、小百姓を掠メ申間敷候、小百姓致我儘、なぬし・組頭之申付を不用時ハ、早ニ可申出夏、^{〔三九〕}

一 御年貢請拂之儀、名主・組頭手形爲取替置、重而出入無之様可仕候、惣而小百姓ハ無筆無算のもの多有之べく候、左様之者等ニ而も掠候事有之は、可重其科事、

附り 兼ニ其所之入用長面、名主・組頭明白に仕置、吟味之節は差出、算用相立候様可心得事、^{〔四〇〕}

* 文政七年の寫本には、これまでよりない。この以前のものが、これまでであつたかも知れないが、結語が書かれてない點からみれば、未完成とみるべきであらう。

- 一 田畑・林・井溝等迄、境目相互常と能と相糺、評論無之様可仕事、^{〔三七〕}
- 一 堤・川除・井堰・溜池・井溝等迄、常と無油斷修復仕、大破ニをよハ、可爲越度候、訴出見分も可有之儀、無油斷可申出、長雨・大雨之節、洪水可有之候間、前方ニ其用意仕置、及其期ニ、名主を始メ惣百姓不殘罷出可防之、令油斷、不罷出、其心掛ヲも不仕輩ハ可爲不届事、^{〔三三〕}
- 一 用水之儀先規有來趣を守、渴水之節ハ評論無之様、常と可相心掛事、^{〔三三〕}
- 一 新發之田畑於有之ハ、不隱置可申出之、無用之荒地新發可成所有之ハ、無油斷可申出、^{〔三四〕}
- 一 立置林ハ勿論、自分林并ニ四壁之竹木等も猥ニ伐荒申間敷事、^{〔三五〕}
- 一 往還之道橋は不及申、脇道ニ而も有來道筋ハ常と繕ひ、通路無滯様可仕事、^{〔三六〕}
- 一 川船渡船古來ハ相定運賃之外、縱令不案内之ものたり共、不可違亂之、若ふ慮ニ破船或は難義之弊有之ハ、不限自他、近所之もの共駈會可相助、^{〔三七〕}
- 一 他所ハ引越度と申者有之ハ、出所遠吟味、慥成請人を立申出之、可任差圖事、^{〔三八〕}
- 一 附り 所生之ものたりといふとも、年久敷他所ニ罷在、立歸り時ハ其斷可爲同前、^{〔三九〕}
- 一 他所江罷出一宿も可仕時ハ、往返共ニ名主・組頭・五人組互に相斷可申、^{〔四〇〕}
- 一 田畑年季質物之儀、尤從公義被、仰出趣相守可申候、若他領之者へ質物ニ入置、子細有之ハ、其段可申候、無斷而ハ可爲無用、可相成程ハ於領内可取扱事、^{〔四一〕}
- 一 田畑子孫ニ讓り候節ハ、高拾石ハ内に當り候分ハ、小分仕間敷候、若無據子細あらハ、可申出事、^{〔四二〕}

一 跡式之儀ハ兼而書置記之、名主・組頭致加判、已後出入無之様可仕候、加判無之書置ハ難用可有之、^{〔四三〕}
 附り 住持・神主代目之時、不相極前可申間事、^{〔四四〕}

一 跡式相續之もの無之而、不慮に死失之ものあらハ、其所名主・組頭・五人組立會、諸色相斷可申事、^{〔四五〕}
 一 掣取・嫁取・養子等取組之義、名主・組頭・五人組立會正道ニ取扱、重而出入無之様可念入事、^{〔四六〕}
 附り 爲祝義振舞并祝義爲取替之ものハ、近親類・近縁者・仲人等之外一切可爲無用事、^{〔四七〕}
 一 家中之對諸士ニ、不禮慮外無之、乗打仕へからず、惣而輕きものにて、對奉公人江不作法無之様可仕事、^{〔四八〕}

一 諸役人其外侍中ニ至迄、下ニ等ニも無由緒して、音物・振舞等可爲無用、萬一諸役人等無心かましき儀申懸るもの有之そ而も受用仕間敷候、万一勢ひを以、非分を申懸るもの有之ハ、不限高下、可訴出事、^{〔四九〕}
 一 郷中用事ニ付、役人罷出候節は、侍ハ一汁二三菜、足輕以下ハ一汁一菜之外、不過之、尤其所有合之品ヲ以調之、馳走ケ間敷儀仕間敷事、^{〔五〇〕}
 一 廻文村繼ニ而遣候節ハ、不限晝夜ニ、無滯先ニ江相届、手形取置可申事、^{〔五一〕}
 一 一面ニ印形定置可申候、印形替り候節は、面ニ江判鑑出、其斷可申、^{〔五二〕}
 右之條ニ堅可相守、若違背之輩有之ハ、科申付、依其品可有輕重者也、

寶永二百年閏四月

右被 仰出候御條目之趣、逸々奉長候、則名主方ニ寫置、月々村中寄合、拜見仕、急度相守可申候、爲後日

五人組帳資料

*この以下は鐵炮改めと宗門改めである。

人別五人組帳仍而如件、
一 鐵炮之儀前々度と御改、此度亦と御改被成候、於當村彌一挺も無御座候、以來猶以其段相守可申候、以上、

天保十二年

百 姓 代
組 頭 主
名

一 宗門不審成者有之ハ、早速可申出之、惣而邪法ケ間敷儀申者、又平生ニ違たる奇妙ケ間敷儀有之は、令吟味可申出夏、

一 男女召抱候節ハ、宗門相改、急度請人ヲ立、可差置事、

右被 仰出候宗門之儀、前々被 仰出候通り相改、銘々且那寺印形爲仕、差上申候、地借・店借之者召仕等迄、地主・人主方ニ而相斷、寺請狀取置申候、爲後日宗門御改帳依如件、

年號月日

百 姓 代
組 頭 主
名

一 宗門御改ニ付差上申證文之事、

一切支丹并不受不施、非曲宗門御改ニ付、出僧共右之通銘々且中印形取之、差上申候、御^(虫喰)法度之宗門と

申者御座候ハ、何時成共罷出、申訳可仕候、爲後日依而如件、

寺方差上候分、

一 例年村方差出候五人組帳前書之儀は、村(之)爲第一大切之品ニ而、百姓ハ外ニ季間等致し候も不及、右ヲ能ク守さひ致候得ハ、容易ニ不法・我儘・公事・出入等出來致間敷處、近年一般ニ小前百姓共印形いたし帳面(と)而已存、睦之ケ條趣會得不存、或は數ヶ條之事、所詮難守なとと、都而等閑ニ心得候事と相聞、每度右書面ニはつれ候取斗有之候故、公事出入ニおよび、以之外(之)事ニ候、急度帳面奥文之通、月々村役人方江惣百姓寄合熟讀いたし、無筆ニ而よめかね候ものへハ、村役人共々爲讀聞、其外手習師匠などニも頼、子供手本ニ認メ貫、幼年之節ハ能覺候様可致候、以後は村々之者出廣不意ニ帳面之趣意相尋候義も可有之候間、兼而無油斷辨居、且又右ヶ條ニたかひ候取斗於有之、急度可沙汰候条、彌堅相守可申候、右之趣小前も末々迄不洩様可申聞もの也、

關保右衛門印

右之通

御公儀様内代官御觸も有之候ニ付、面々相辨并ニ子供ニは爲習可申候、外ニ

一 御殿様御家法之御法度趣を御領法と申、御法度之趣數多ク有之候事、

*御殿様御家法云云とあるところをみると私領のやうでもあるが、關保右衛門は幕府の代官である。此の帳面の最後に、嘉永元年正月吉日とし、その下に「此年八月中山小屋場山形江引越相成、此時濱し申候」とあり。

六四 天保十三年武藏國都筑郡勝田村五人組前書御條目*

*半紙五拾壹枚。

(前書のみを記す。條目七拾三箇條、三二寛政六年武藏國豊嶋郡角筈村五人組御仕置帳と同様故、これを省略する。但しその後次に次ぎの如き注目すべき記事が記載してあるから、これを轉載して置く。)

前書本文御條目

七拾ヶ条 外附七ヶ条

本文四拾ヶ条 附三ヶ条

追加三拾ヶ条

此 訳

元和元年天保十三年迄

元和 二年辰

壹ヶ条

寛永 十九年六月

壹ヶ条

三ヶ条

廿未三月

壹ヶ条

附壹ヶ条

百八十八ヶ年

三酉年 正月十一日

七ヶ条

百八十二年 寛文

八申年 十三丑年 六月

壹ヶ条

貳ヶ条

外壹ヶ条

百七十年 延寶

三卯年三月三日 七未十月三日 二月三日

壹ヶ条

貳ヶ条

百六十二年 天和

三亥年二月 同年三月

貳ヶ条

四ヶ条

百五十九年 貞享

二丑十一月 四卯四月

壹ヶ条

貳ヶ条

百廿七年 享保

六丑年閏七月 八卯年八月 九辰四月 六月

三ヶ条

(一、二、三) 九ヶ条

小以 三拾ヶ条

古代五人組御ヶ条 六拾ヶ条 尤附八ヶ条

虫 〇〇本文 四十ヶ条 附四ヶ条

前書本文之内

一 御支配人とハ往古ヨリ伊奈家家來之内にて、御代官所之内領ミを手分ケニ引請候事、

五人組帳資料

但享保十二年正月廿五日極ル敷、

- 一 添役衆ハ享保十四酉年八月伊奈半左衛門取極、支配所村ニ江觸ル趣、
- 一家抱トハ地主ニ而建置候家ニテ、其屋敷付田地を引請實作、世話爲致、家賃なしニ置候ものをいふ、
- 一 脇百姓トハ當時平百姓、先年ハ村役人を本百姓ト唱ル事、
- 一 前地トハ地借百姓之事、
- 一 店之ものハ店借之事、
- 一 出居衆之儀天和三亥年御觸、
- 一 町中店借之もの彌店請人入念可申候、儲ニ無之もの店貸申間敷候、徒もの差置候ハ、大屋は勿論、品
- ニ寄五人組迄、曲事可申付候間、五人組五ニ店のもの吟味可仕候、井出居衆差置候共、
- 此出居ト申ハ今言座敷之事ニテ、明座敷を借り、席料を出ス浪人か、暫商敷、又ハ何用向達候間居候もの出居衆ト唱、座敷迄借り候而已、諸事手賄ニいたし候人の事也、
- 一 座敷而已賄ニ候ハ、旅人と申ニ而可有之か、畢竟關ヶ原、大坂一亂之後、諸浪人衆暫之借家等之事にて、元和頃より出居衆と御觸被出、
- 貞享五年三月拾五人組前書之内書抜
- 一 右之條ニ御領・私領・寺社領共在ニ所ニ村切ニ名主百姓五人組、毎年正月十五日ヲ限ニ、此趣堅相守候、急度申付、手形可被取置之、若全油斷於不申付は、其地頭・代官可爲越度もの也、

- 一 每年被仰渡候貳拾壹ヶ条御法度候此五人組御文言、毎月卅日ノニ惣百姓・わき百姓迄不詳名主所ニ而拜見仕候、
- 一 右被仰渡候段ニ少も違背仕間敷候、若相背申者御座候ハ、早速可申上候、御せんぎ之上、如何様曲事ニも可被仰付候、少も御非分と存上間敷候、爲後日仍而如件、
- 貞享五年辰四月
- 武州都筑郡

六五 天保十三年上總國山邊郡粟生村五人組帳*

五人組前書條々

- 一 從 御公儀様前ニ被 仰出候御條目者不及申、其以後追ニ被 仰出候御法度之趣彌以堅相守、御制禁之儀少茂不相背様、村中大小之百姓共相守罷在候事、
- 一 五人組御改ニ付、家並最寄次第ニ組合、惡事一切不仕候様、常ニ無油斷御法度之趣急度相守申候、若徒者有之、名主之申付茂不相用候ハ、早速御注進可申上候事、
- 附 五人組之儀、親類又者中能者斗組合不申、大小之百姓最寄を以組合、惣而當村住居之者組合ニ波候もの壹人茂無御座候、且又地借等之儀者儲成請人爲相立、證文取之、差置申候、且又行衛不知

五人組帳資料

三八九

* 半紙十五枚。似し最後の數葉を脱落してゐるやうである。慶應四年には天領であつたが、當時は明かでない。

者ニ一夜之宿も貸申間敷候事、

一 従前、被 仰渡候通田畑等永代賣買御停止ニ付、惣百姓急度相守罷在候、若田畑質物ニ入候者有之候ハ、名寄帳ニ引合、反別・石高・名所等吟味仕、年季者拾ヶ年限り、請人相立、右之質地手形ニ、名主・組頭・五人組加判可仕候、惣而相對を以、田畑質地ニ入、金を借、其田畑を金主ニ爲作置候而、御年貢者地主ノ納候義、是又御停止ニ候得は、右之類當村ニ一切無御座候事、

一 博突・三笠附、惣而博突ニ似寄候諸勝負事一切仕間敷候、若相背候者有之敷、またハ右之宿いたし候者有之候ニおひてハ、早速御訴可申上候事、

附 右之宿いたし候者於有之は、其者之兩隣は勿論、五人組・名主・組頭共急度御咎被 仰付旨被 仰渡候ニ付、常々無油斷氣を付、相互ニ申合、相守罷在候事、

一 家業を第一ニ相勤可申候、且又百姓ニ不似合遊藝を好ミ、或者悪心を以公事等いたし、不依何事爲を巧み、人之害をなし、村中之難儀を仕出、ふ埒之者有之敷、またハ誓紙書を以、一味同心仕、徒黨ケ間敷義を企候もの有之候ハ、早速御訴可申上旨被 仰渡、惣百姓一同奉承知候、是等之儀者別而入念吟味仕候得共、左様成者一人茂無御座候、尤惣百姓徒黨ケ間敷儀は、決而不仕候、此儀常々相慎罷在候事、

附 田畑耕作之間ニハ男ハ薪を取、女ハ麻を織、其所相應之稼をいたし、無油斷可仕候事、

一 百姓衣類之儀者平生木綿物を著し、名主ハ紺細木綿之外著し申間敷候、惣而緞子・紗綾・縮緬之類衿ニも帯ニも堅いたし申間敷候事、

一 前、被 仰出候通御年貢皆濟無之以前、米穀他所江一切出し申間敷候事、

一 御年貢御割附御免狀、大小之百姓立會拜見仕候上、銘々百姓小前致割合、以來割合ニ付申分無之旨割帳ニ書記、百姓銘々印形取寄可申候、勿論御年貢出精仕、年々十一月限皆濟可仕候事、

附 村用役錢等之義茂銘細ニ書記、無相違割合可仕候、筆墨紙等年々少々宛之儀ニ而も、其時々帳面ニ記、費候ハ、遣方會以無御座候、惣而百姓不存入用、其上名主・組頭分申聞候而も合點不仕、入用等割懸候ハ、村役人越度可被仰付候旨、度々被 仰渡候ニ付、少々之入用ニ而も吟味を詰候上、割合仕、役錢帳面ニ惣百姓印形仕候事、

一 御公儀様御鷹御用之儀、常々無油斷惣百姓申合、少々ニ而茂御用差支無之様相勤可申候事、

附 道橋普請等之義前々之通り入念、御通路差支不申候様可仕候事、

一 神事祭礼隨分軽く可仕候、御取・取取之祝儀等者ケ間敷義無之様、分限分軽く可仕候、人大勢集め大酒を呑候義、堅致間敷候事、

附 新宅之廣目・初産之祝儀とて不相應之祝仕候儀は、兼而御停止之旨奉承知候間、分限ニ應、内證ニて軽く祝候様仕候、并葬礼之狂酒者是又御停止ニ付急度相守申候事、

一 御年貢米之儀、早稻方出來次第、早々相納可申候、勿論米拵、依拵等之儀、毎年被 仰付候通入念可申候、尤壹俵毎ニ米主・名主・外取・米見、銘々印形仕、中札入可申候事、

附 御年貢米著廻し切無之様、是又入念可申候、若惡米惡依不埒成納方仕候ハ、御吟味之上急度可

長	吉	勘	甚	平	次	郎	庄
次右衛門	門	兵	九郎兵衛	市	五郎	郎	右衛門
金六郎	助	權	助	清	藏	忠	藏
重次郎	清左衛門	傳	藏	岩	吉	源	佐
善八郎	惣十郎	文	平	善	七	戸	右衛門

六六 天保十三年下總國千葉郡坂尾村五人組證文*

*半紙十一枚。前書なし。表紙に「從佐倉御城、方角已當り、道法四里半」と記してある。

寅三郎	磯右衛門	八平	忠右衛門
彦太郎	彦太郎	茂八	伊左衛門
五人組富藏	眞吉	三郎右衛門	伊左衛門
惣右衛門	岩五郎	三郎右衛門	茂
千之助	六右衛門	五人組新右衛門	仙右衛門
太郎右衛門	五人組富五郎	源三右衛門	市太郎

藤兵衛	權右衛門	佐勘	嘉右衛門
五人組作左衛門	長右衛門	後助	清次郎
平吉	喜右衛門	兼平左衛門	德右衛門
七兵衛	五人組八五郎	兼平左衛門	七三郎
利右衛門	留次郎	五人組清松	清十郎
平三郎	伊左衛門	五人組長藏	五人組忠次郎
五人組安次郎	次四郎	富太郎	和銀助
嚴吉	榮吉	仁右衛門	源三郎
長左衛門	藤七	久平	源三郎
長太郎	直吉	五人組忠左衛門	與惣兵衛
彦助	勘七	平次左衛門	三治助
後家	藤右衛門女子	庄太郎	金藏
五人組寅松	五人組太四郎	庄太郎	金藏

(以下脱落)

五人組帳の研究
嘉兵衛 後

五人組與之助 家印

永 治印

勇右衛門 門印

源右衛門 門印

百次 郎印

五人組富太 郎印

治左衛門 門印

忠右衛門 門印

源 治 郎印

五人組惣五 郎印

長右衛門 後

千 藏印

豐 吉印

新兵 衛印

五人組惣 吉印

次 平印

政右衛門 門印

岩次 郎印

五人組忠 藏印

治作 家印

孫四郎女子 ん印

三九六

文左衛門 門印

金左衛門 門印

五人組市 太 郎印

文五 郎印

德右衛門 後 家印

三治 郎印

五人組仙 藏印

吉三 郎印

幸右衛門 門印

右之通少茂相違不申上候、以上、

天保十三壬寅年三月

坂尾村

百姓代 源 太 郎印

同 市 太 郎印

源兵衛 門印

榮次郎 郎印

市郎兵衛 門印

五人組源 左衛門 門印

清兵衛 門印

儀左衛門 門印

勘藏 郎印

五人組 長 作印

長三郎 左衛門 門印

同 家印

與頭 半左衛門 門印

同 安次郎 郎印

同 長右衛門 門印

同 三郎右衛門 門印

同 太郎右衛門 門印

同 忠右衛門 門印

同 利右衛門 門印

同 名主 寅三郎

御役所様

六七 天保十四年上總國望陀郡神納村五人組改帳*

差上申五人組手形之事

一 今度被 仰付候五人組、村中相改、家持之義者不及申、借家之面、抱之者共并妻子下人等迄壹人も不殘、連判之人別帳差上申候、五人組之義ハ親類兄弟或者中克者斗組入申者御座候ハ、御穿鑿之上、如何様之

五人組帳資料

三九七

* 半紙十枚。表紙に「大御番頭大岡紀伊守御預與力・御先手内藤安房守與力、上知」と記してある。この村は天領・旗本領・請西藩領入交つてゐるが、本五人組帳は旗本領の分であらう。

曲事ニも可被 仰付候、勿論村中百姓詮議之上、五人組はづし申族御座候ハ、其品ニ御注進、所ヲ御追放被成候様ニ可申上候事、

一切支丹邪蘇宗門御高札之趣、村中ニ而も堅相守、御法度之宗門は無御座候、若し隠置訴人申出候ハ、御注進之上、急度曲事ニ可被 仰付候事、

一不審成者無御座候、爲其宗門御改之帳、檀那寺判形差上申候、勿論下人等迄寺請狀取置申候事、

一邪蘇宗門并類族、或者疑敷もの有之候ハ、早ニ御注進可申上候、同類又ハ親類ニ而も科を御赦免御褒美可被下旨被 仰付候趣奉畏候、若同類之者親類縁者ニ而も怨をなし可申と存候ハ、内ニ而可申上候、急度御褒美被下、怨を御仕置可被 仰付旨被 仰渡候、怪もの御座候ハ、早速訴人可仕候、隠置後日露顯仕候ハ、御詮議之上、當人ハ不及申、村中之者如何様之曲事ニも可被 仰付候事、

一御法度之不受不施法花は切支丹改帳判形爲致申間敷候、縦奉公人差上候共、右之宗門堅寺請狀取申間敷候事、

一在ニ所之輩百姓ニ不似合者たる義不仕、農業いたし、身持立様心懸可仕候事、

一公事勤メ、無筋目申分巧、當村之妨ニ罷成もの御座候ハ、早ニ可申上候事、

一御年貢米永、極月十日前ニ急度皆濟可仕候、尤御免狀下り候節ハ、早速名主・組頭・惣百姓立會拜見仕、無高下勘定可致候事、

一御年貢御藏ニ預申候内者大切ニ夜番相勤可申候事、

一行衛不知者少し之内も宿賃申間敷候、勿論何ニ而も預り物致間敷候事、

一喧嘩・口論・醉狂之もの有之候ハ、理非無構双方ニ急度御咎可被 仰付候事、

一博奕・寶引、惣而賭之諸勝負堅仕間敷候、勿論宿仕間敷候、若相背申者御座候ハ、五人組共急度曲事ニ可被 仰付候事、

一毒藥一切賣買仕間敷候、若違背候ハ、御詮議之上、何分ニも可被 仰付候事、

一捨馬之儀前ニ被 仰付候通堅仕間敷候、若相背御座候ハ、急度曲事ニ可被 仰付候事、

附リ 牛馬相求候ハ、先ニ證據を取、賣買可仕候事、

一常ニ親ク仕候ものたり共、欠落有之ニおわてハ、片時も宿ニ置申間敷候、若背候ハ、何分之曲事ニも可被 仰付候事、

一惣而百姓寄合相觸候節ハ早ニ立會可仕候事、

一見分殊之外安物一切賣買仕間敷候、若賣買いたし候もの有之候ハ、早ニ御注進可申上候、若隠置脇

ノ顯候ハ、五人組共何分之曲事ニも可被 仰付候事、

右之條ニ少しも相背申間敷候、爲其五人組合仕申置候、以上、

五人組頭

五郎左衛門

仁左衛門

市右衛門

小三郎

傳八郎

新五兵衛

新兵衛

太郎兵衛

助十

所右衛門

五人組頭 孫兵衛

孫兵衛

五人組帳資料

三九九

*本村の五人組帳は、この外に弘化四年、嘉永七年、安政三年、文久元年、慶應三年の六冊ある。弘化四年の分には表紙に野畑組とあり、安政三年、文久元年、慶應三年の分には四ツ谷組とあるが、その構成人員は本帳と同一の者と見做し得る。これら六冊は何れも前書なく、ただ最初の一枚に「定」として「御公儀様御法度之義者堅相守可申候事」と記すのみ故、これを省略する。ただ宛名を「御代官坂野一郎様」としてある。文久元年の分は坂野一郎の外に坂野貫之助なる者を連記してある。
*半紙四枚。名

五人組帳の研究
 惣兵衛 利兵衛 清右衛門 五人組頭 小十郎
 新助 紋兵衛 仁兵衛 五人組頭 宇之吉
 平藏 茂右衛門 兵右衛門 庄八郎 傳兵衛
 清兵衛 五郎兵衛 兵右衛門 八郎 三郎右衛門
 儀兵衛 藏 兵右衛門 新助 又
 吉兵衛 七郎左衛門 茂新 助 吉
 右之通五人組合少も相違無御座候ニ付、一同奥印仕候、以上、
 天保十四卯年
 名主 作右衛門
 組頭 傳治
 百姓代 仁右衛門
 弘化三年 明治三年 弘化三年 明治三年 弘化三年 明治三年
 六八 弘化三年・明治三年下總國千葉郡下坂尾村五人組帳
 四〇〇

主の下書か。前書なし。訂正の箇所。書入等があるが、原形と推定し得るもののみを記す。なほ本帳と同様なものに、明治三年の分がある。兩者を對比して置く。

五人組帳資料
 三郎右衛門 三人組 權右衛門 儀助後家 藤右衛門 源次郎 朝吉久治郎
 多吉多吉 長右衛門 治郎右衛門 勘治富藏 庄七半左衛門
 三右衛門 福松 喜右衛門 治四郎 宇之助 藤右衛門 後家 嘉右衛門 庄左衛門
 源藏 傳右衛門 市郎右衛門 八五郎 作右衛門 兼松 與惣兵衛 德右衛門 兼松
 市太郎 市右衛門 三治郎 八十郎後家 清松 橋郎右衛門 德右衛門 兼松
 藤兵衛 作左衛門 治四郎 長右衛門 定治郎 橋左衛門 清
 作左衛門 桃太郎 榮吉 喜右衛門 富太郎 善五兵衛 七三郎 忠左衛門
 平吉清吉 清太郎 治右衛門 百太郎 清十郎 嘉助
 七兵衛 忠兵衛 直吉 次郎兵衛 源右衛門 宇平仁平次
 半右衛門 五人組 森藏 仁右衛門 五人組 和助
 彦助 彦兵衛 久平 五左衛門 源三郎 德右衛門
 寅松岩治郎 勘四郎 勘治郎 忠左衛門 鐵五郎 源三郎 德右衛門
 岩治郎 權右衛門 勘七字之助 平次左衛門 金四郎 與惣兵衛 次左衛門

伊之助	嘉右衛門	寅三郎	七三郎	五人組
三治郎	嘉七	彦太郎	政右衛門	
仁平	清三郎	富藏	菊太郎	
庄七	惣右衛門	作次郎		
福松				

六九 弘化五年武藏國埼玉郡下新井村五人組御仕置帳

盜賊人穿鑿之條

一 關東中在所御料・私領・寺社領共、五人組を毎年皆可申付之、其上耕作・商賣をも不致、又は遠國江切に罷越輩、并博奕其外賭之勝負を好ミ、不似合衣類を著シ、不審多き者於有之は、早速可申出之、若隱置、彼輩惡事をなし、顯るニおひてハ、其者并親子兄弟之儀ハ、不及沙汰、名主・五人組迄御穿鑿之上、科之輕重に隨ひ、可(被)行罪科、惣而一夜之泊りに他所へ罷越といふ共、其行所并用事之趣巨細ニ名主・五人組江相斷可罷越事、

附 盜賊人之訴人にハ、共同類より後日ニ仇をなすニ付、氣遣いたし、不罷出よし其聞有之、向後地

* 半紙二十二枚。本村は天領・旗本領入交つてゐるが、本五人組帳は旗本領のものではないかと推定される。

頭・代官より奉行所江密書付を以、可差上之、御褒美被下之、重而仇を不成様可被 仰付事、
一行衛不知浪人一切不可抱置、但シ親類・縁者儘成證人手形いたし、其斷有之ハ、名主・五人組穿鑿之上可差置事、

附り 惡黨人於欠落來には、其所ニ留置、地頭・代官江可届之、若見逃・聞逃、後日令露顯は、名主・五人組共可爲曲事、

- 一 不叶用事有之、他所江相越候もの、格別用事として他所切來る輩不(可)留置、若隱置者有之ハ、其五人組詮儀いたし、地頭・代官江可申出之、致油斷惡事於(致)出來ニは、可爲曲事、
- 一 在所詰之能所ニ番所を造置、夜番をいたし、其郷中は勿論、隣郷盜賊(を)見出(し)、聲を立るにおいてハ、早速出合、捕置候様、名主・百姓常ニ申合、心掛ケ不可(致)油斷、自然見逃・聞逃、又は不出合者ハ、後日ニ穿鑿之上、可爲曲事、
- 一 盜賊人捕來るニおひてハ、路次之入用等、百姓不致迷惑様、可被下之、
- 一 在所ニ夜盜ニ逢候もの有之は、即刻地頭・代官迄可申出之、然ルにおひてハ地頭・代官遂穿鑿、自分として穿鑿難成候ハ、奉行所迄可訴之、自然地頭・代官不遂穿鑿、其儘ニ於差置は、可爲越度事、
- 一 一堂宮井山林ニからまり不審成者於有之ハ、相擲、名主并其所之者相談之上、地頭・代官江可相渡、捕候儀相成かたく時は、相隨而落著之所江斷り可相擲、若見逃・聞逃、不出合、致欠落におひてハ後日相聞候共、可爲曲事、

一 山中筋此以前より鉄炮御免之所ハ格別、其外於在所ニ鉄炮所持すべからず、自然相背無益之殺生いたし、晝夜を限らず、野山ニ住居於有之は可申出之、縦同類たりとも、其科を免し、御褒美可被下之、隠置、他所より顯るニおひてハ、御穿鑿之上、可(被)行罪科事、

一 在所より馬盗人有之候而、晝夜を限らず、馬牽通るニ付而者、其落著之所名主・五人組江儘ニ斷可罷歸事、

附り 慥成者口入無之、馬賣買不可仕事、

一 盗人贓物見出、相届有之ハ、早速名主・五人組立合、致詮儀、可埒明、縦如何様者申來るといふ共、不可疎略、令遲滞、其盗人於致欠落は、名主・五人組可爲曲事、

右之條ニ御料・私領・寺社領共在所ニ村切(ニ)名主・百姓五人組、毎年正月十五日限り、此趣堅く相守候様、急度申付、手形可取置之、若令油斷、於(不)申付は、其地頭・代官可爲越度事、

一 此頃於在所ニ、晝夜盗人入候間、郷境詰ニ番屋を作、はん之者差置、ふ審成者夜中通候ハ、相改可申事、

一 何方ニても夜盗人入候節、聲を立べし、然ルニおひてハ早速出合可捕、自然不出合者ハ御穿鑿之上可爲曲事、

附り 堂宮山林ニ不審成者隠れ居候ハ、相改穿鑿可仕事、

一 用事有之候而夜(ニ)入、他所江參り候ハ、名主・五人組江相斷、可罷越候、其届無之、罷越、夜中宿

ニ不宥之者ハ、後日ニ穿鑿之上、可爲曲事、

一 前ミ夕如被 仰定、知行江他所より來り候ハ、無請人而差置申間敷候、但シ往還之旅人一夜之宿ハ可爲格別事、

一如 御法度、山中之外鉄炮持不來所ハ勿論、所持不仕候様可申付、自然隠置申者有之ハ訴人ニ可罷出候、急度御褒美可被下之事、

右之條ニ其所之地頭・代官可申付也、右之通り前ニ從

御 公儀様御奥書出申候通、彌堅相守可申旨、毎年被 仰渡候 御箇條之趣、惣百姓急度相守可申候、依之村中五人組惣加印にて御請書差上申所如件、

弘化五年申正月

武州埼玉郡下新井村

金 平 ⑩	清 兵 衛 門 ⑩	源 右 衛 門 ⑩	惣 兵 衛 門 ⑩
武 平 次 ⑩	銀 藏 ⑩	勇 助 ⑩	富 三 郎 ⑩
甚 右 衛 門 ⑩	長 兵 衛 門 ⑩	乙 松 ⑩	丹 藏 ⑩
由 松 ⑩	熊 右 衛 門 ⑩	久 右 衛 門 ⑩	彌 惣 治 ⑩
甚 助 ⑩	五人組持 勘 吉 ⑩	孫 勘 吉 ⑩	右五人組 七郎左衛門 ⑩
五人組持 孫 兵 衛 門 ⑩	直 吉 ⑩	右六人組 勘 七 ⑩	勘 七 ⑩
七左衛門 ⑩	新 平 ⑩	久 七 ⑩	吉 ⑩
五人組帳資料	五人組帳資料		

泰七 五人組持 勘太郎
 幸藏 五人組持 六左衛門
 德五 五人組持 右八人組
 鐵五 五人組持 孫右衛門
 太平 五人組持 右善四人組
 源助 五人組持 倉次
 吉郎 五人組持 金次
 幸次 五人組持 右八人組
 八吉 五人組持 右五人組
 傳藏 五人組持 傳彦

庄左衛門 五人組持 理太助
 元右衛門 五人組持 右六人組
 治郎 五人組持 仙平右衛門
 伊右衛門 五人組持 重五郎
 馬之丞 五人組持 右七人組
 平次兵衛 五人組持 文次郎
 源左衛門 五人組持 新庄兵衛

吉左衛門 五人組持 代五郎
 傳十郎 五人組持 右七人組
 傳三郎 五人組持 右五人組
 孫左衛門 五人組持 善兵衛
 新平 五人組持 與四郎
 善兵衛 五人組持 太左衛門
 覺右衛門 五人組持 彌四郎
 彌四郎 五人組持 右拾一人組
 政右衛門 五人組持 新右衛門
 藏門 五人組持 新右衛門

五人組持 金三郎
 才兵衛 五人組持 右六人組
 庄助 五人組持 與十郎
 代吉 五人組持 伊右衛門
 幸承 五人組持 右四人組
 吉郎 五人組持 萬五郎
 彌五兵衛 五人組持 市太郎
 彌次右衛門 五人組持 右六人組
 彌次右衛門 五人組持 右五人組
 勘吉 五人組持 重助
 安右衛門 五人組持 右四人組

彌五右衛門 五人組持 藤次郎
 源之丞 五人組持 久五郎
 太郎兵衛 五人組持 又七郎
 儀助 五人組持 右五人組
 彌助 五人組持 彌右衛門
 久平 五人組持 善兵衛
 善兵衛 五人組持 儀右衛門
 儀右衛門 五人組持 右七人組
 藤右衛門 五人組持 右五人組

多藤次郎 五人組持 藤次郎
 久五郎 五人組持 久五郎
 岩五郎 五人組持 又七郎
 又七郎 五人組持 小七衛門
 竹次郎 五人組持 竹次郎
 彦次郎 五人組持 右九人組
 市左衛門 五人組持 市左衛門
 茂左衛門 五人組持 茂左衛門
 德兵衛 五人組持 德兵衛
 孫兵衛 五人組持 孫兵衛

辨次郎 五人組持 吉郎右衛門
 治助 五人組持 傳次郎
 常七 五人組持 八左衛門
 八左衛門 五人組持 金左衛門
 金左衛門 五人組持 與右衛門
 與右衛門 五人組持 右八人組
 長平 五人組持 喜平太
 辰之助 五人組持 甚五兵衛
 保太郎 五人組持 保太郎

源藏 五人組持 彦四郎
 勘次郎 五人組持 勘次郎
 庄次郎 五人組持 彌五郎
 彌五郎 五人組持 右拾一人組
 榮助 五人組持 金之丞
 金之丞 五人組持 藤助
 萬作 五人組持 忠兵衛
 忠兵衛 五人組持 又次郎
 又次郎 五人組持 右六人組

弘化五年申正月

* 本村の五人組帳は、この外嘉永四年、五年、七年、及び安政二年、四年、五年の六冊存してあるが、前書は多少の字句の差違はあるが、同文であり、形式も同様故、省略する。
 * 半紙十四枚。弘化五年、文久二年共に、宗門人別帳と合冊になつてゐる。兩年間の變化を知るため、兩者を對比して置く。

七〇 弘化五・文久二年上總國市原郡不入斗村永藤五人組高改帳

弘化五年

- 一 高拾貳石六斗五升壹合貳勺 又 兵衛
- 一 同貳斗三升六合八勺 善四郎
- 一 同壹斗三升七合貳勺 善藏
- 一 同壹石壹斗七升六合四勺 磯右衛門
- 一 同貳斗五升三合壹勺七才 與七
- 右五人組
- 一 高拾石四斗貳升壹合 定次
- 一 同貳石八斗壹升六合 清左衛門
- 一 同貳石八斗壹升五合三勺九才 甚兵衛

文久二年

- 一 高拾貳石五斗貳升九合六才 又 兵衛
- 一 同貳斗三升六合八勺 又左衛門
- 一 同壹斗三升七合貳勺 勝之介
- 一 同 清松
- 一 同貳斗五升三合壹勺七才 與七
- 右五人組
- 一 高拾七石五斗貳升 直右衛門
- 一 同貳石八斗壹升六合 源五郎
- 一 同七斗壹合貳勺六才 石太郎

- 一 同三石四合八勺 與八
- 一 同 彌八

右五人組

- 一 高壹石四斗六合七勺六才 長兵衛
- 一 同貳石六斗六升四才 長左衛門
- 一 同貳斗六升五勺三才 伊兵衛
- 一 同壹斗七升九合六勺七才 權七
- 一 同壹升七合四勺貳才 勘右衛門

右五人組

高三拾八石九升七合四勺七才

御百姓特高

- 一 高五升貳合七才 郷藏敷高
- 一 同六斗九升壹合四勺六才 氏神持高
- 一 同四石貳斗四升貳合六勺八才 西光院持高
- 一 同壹升五合八勺四才 前々無地高
- 高四拾三石九升九合五勺貳才

五人組帳資料

- 一 同三石四合八勺 與八
- 一 同 彌八

右五人組

- 一 高壹石四斗六合七勺六才 仙之助
- 一 同貳石六斗六升四才 仙右衛門
- 一 同貳斗六升五勺三才 伊兵衛
- 一 同壹斗七升九合六勺七才 權七
- 一 同壹升七合四勺貳才 勘右衛門

右五人組

高合四拾壹石七斗六升五合九勺壹才

郷藏鋪高

- 一 高五升貳合七才 郷藏鋪高
- 一 同六斗九升壹合四勺六才 鎮守持高
- 一 同四石貳斗四升貳合六勺八才 西光院持高
- 一 同壹升五合 前々無地高
- 差高四拾六石七斗六升七合壹勺貳才
- 殘而高貳拾三石貳斗三升八勺八才 出石高

四〇九

殘而高貳拾六石八斗九升八合四勺八才

越石高

惣高六拾九石九斗九升八合

弘化五年三月

永藤

惣高合六拾九石九斗九升八合

四一〇

本寺望陀郡高谷村延命寺門徒

永藤

文久二年

三月

西光院信榮

片又木村

法蓮寺

無住ニ付兼帶

豐成村

不動院

右之通り相調差上申候間、先例之通り宜敷奉願上候、以上、

永藤組頭 又 兵衛

名主 直右衛門

* 中判、十一枚。表紙には單に「御請書」とのみ記す。旗本領である。

七一 嘉永二年武藏國橋樹郡木月村五人組帳*

差上申御請書之事

一 御年貢皆濟不仕以前、他所江米出し申間鋪候、若能米を賣、悪米ヲ御年貢ニ相納候ハ、當人ハ不及申、

名主・年寄・組頭・五人組迄何様之曲事ニ茂可被 仰付候、御年貢米御藏入候節、則荒碎米無之様、米拵致シ、繩依拵迄諸事御定法之通念入郷藏江詰置、御差圖次第相納可申候、勿論庭帳ニ附置、納主銘ニ印形致置可申事、

一 御年貢其年損毛引方共有之候節ハ、惣百姓寄合、拜見仕、明白ニ割を致、御割付江惣百姓印形可仕置候事、

一年ニ御年貢取立日限、皆濟日限迄、兼而被 仰渡茂有之候通、惣百姓等閑ニ御年貢不納之者有之候ハ、名主・年寄・組頭・五人組ヲ嚴敷申聞、其上取用不申族有之ハ、早ニ可申出候事、

一切支丹宗門并博突諸勝負、徒黨ケ間鋪儀御法度之儀者、兼而被 仰出茂有之、紛敷儀有之ハ、早ニ可申出候事、

一 惣百姓ニ而不依何事、名主・年寄・組頭・五人組差添罷出候節者、壹人ニ付壹晝夜泊リ之分共、銀五匁ツ、其日限差添之者江可相渡、若シ當人差支候節者、五人組・親類之者ニ而割合、無差支差出可申事、

一 惣百姓代替リ、相續人名前改候節ハ、組合を以名主迄申出、御地頭所御役所江御訴申上、并印判之儀自分勝手ニ替申間鋪候、若取落候敷、又替印仕度節者、名主迄申出、印鑑差出、其御掛リ御役所江訴上、御開届之上相用可申候、且印形仕候節者、其身差合不罷出候ハ、親子兄弟之外むさと判を預ケ遣申間鋪候事、

一 御鷹場之内鷹遣候衆有之候ハ、何方迄茂附送、宿開届、御鷹見御役所江御注進可申上候、縦餌差ニ而

茂御法度之鳥を取候ハ、留置早速御注進可申上候、兼而
 御拳場之義者被 仰渡茂有之、大小之百姓末迄不洩様申開置、若相背候もの有之ハ、早可申出候事、
 前書御法度之御箇條之趣、急度相守可申候、若違背仕候もの御座候ハ、何様之御咎メニ茂可被 仰付旨
 被 仰渡、承知奉畏候、爲後日一統連印御請書奉差上候、以上、

嘉永二百年二月

左 右 衛 門 ①	多 左 衛 門 ①	市 右 衛 門 ①
萬 吉 ①	佐 吉 ①	次 八 ①
五人組 治 郎 吉 ①	同 庄 右 衛 門 ①	五人組 竹 次 郎 ①
治 三 郎 ①	熊 次 郎 ①	兼 次 郎 ①
泰 次 郎 ①	松 五 郎 ①	平 吉 ①
次 右 衛 門 ①	與 吉 ①	兵 五 郎
傳 兵 衛 門 ①	常 次 郎 ①	三 右 衛 門 ①
熊 五 郎 ①	岡 藏 ①	同 喜 三 郎 ①
文 次 郎 ①	傳 左 衛 門 ①	市 喜 三 郎 ①
金 右 衛 門 ①		市 五 郎 ①

前書之通被 仰渡趣承知奉畏候、并五人組連印帳奉差上候處相違無御座候、以上、

武州橋樞郡木月村

酉二月

組頭	喜	三	郎	①
同	留	五	郎	①
年寄	三	右	衛	門
名主見習	兵	左	衛	門
名主	德	植	兵	五
	郎			①

御地頭所様御内
 伊藤久右衛門様

七二 嘉永三年相模國愛甲郡妻田村五人組御改帳*

指差申一札之事

一 邪蘇宗門、切支丹宗旨之者常々御改之通郷中ニ登人茂無御座候、若隱置、他所訴人御座候ハ、庄屋・
 五人組は不及申上、一郷不殘如何様之御仕置ニ茂可被仰付候、郷中ニ有之非人等ニ至迄相改、不審成もの
 御座候ハ、可申上候、

五人組帳資料

* 半紙十八枚。萩
 野山中藩大久保候
 一万三千石の領地
 である。

附 御公儀江書物不致、不受不施之法花宗壹人茂無御座候、若他所々參をも所ニ置申間敷候、

一 御林之儀は不及申上、百姓自由ニ自分之立山、四壁之竹木ニ至迄、猥ニ伐採申間敷候、不叶入用御座候ハ、其品書付者御帳面ニ付、伐可申候事、

一 人之賣買仕間敷候、但奉公人之年季前々拾ヶ年を限候處、向後年季之限無之、譜代ニ召仕候とも相對可仕候事、

附 行衛不知牛馬并衣類諸道具一切買求申間敷候事、

一 博突諸勝負常々ハ不及申上、於市町茂前々より御法度御座候間、相背申間敷候、殊ニ宿仕者ハ重科ニ可被仰付候、若違犯之輩御座候ハ、可申上候、他所より御聞出候ハ、庄屋・五人組、村中曲夏可仰付候事、

一 於御鷹場・御留川何ニ而茂殺生仕間敷候事、

一 寶永六丑年被 仰出候通、生類憐ミ心はなつへからず候事、

一 衣類、庄屋は絹・紬・木綿、脇百姓は布木綿斗り著可申候、絹布之類系り帶等ニ茂仕間敷候、大脇指一切差申間敷候事、

附 染色之儀紫・紅梅ニ染申間敷候、并馬之裝束結構ニ仕間敷候事、

一 似セ金銀遺候ハ、曲夏ニ可申付、若似セ金銀拵候者有之候ハ、早速名主江申聞、名主ハ御代官様江早々可申達候、若隱置、後日相知レ候ハ、當人可爲同罪、前々被仰出候通、毒藥賣買御禁制之条相背

ニおひてハ、可被處重科候事、

一 庄屋百姓男女共ニ乗物ニ乘申間敷候事、

一 行衛無之浪人置申間敷候、但由緒有之浪人は名主江相斷、名主ハ御代官様江相達、差圖次第可仕候事、

一 行衛不知出家・山伏・比丘尼・こも僧・馬口勞、或は壹人身、或ハ他所々欠落之百姓、縦親類・縁者・知音之好身たりといふ共、一夜之宿をも貸申間敷候事、

一 御公儀御用之儀何方より申來候共、遅々不仕、御配符先々江相届可申候、若日付時付違御座候ハ、御詮議之上、曲夏可被仰付候事、

一 佛神參詣何ニよらず、他所江參候ハ、其子細を五人組江しらせ可申候、若無其斷、出行仕、人改又は御尋之時分不罷在候ハ、御詮議之上其身ハ不及申上、庄屋・五人組迄曲夏可被仰付候事、

一 他所之者は出入之義ハ不及申、百姓仲間ニ而少々之申分御座候共、互ニ理を盡可申候、毛頭かさつ成義仕間敷候事、

一 通之者ニ不限、所之者ニ而茂喧嘩を仕、人を殺、人をあやめ退候ハ、所之者ハ不及申、隣郷共ニ出合、留置可申候、若打拂退候ハ、何方迄もしたひ行、落著之所ニ渡、其所之名主・長百姓江斷を申、罷歸リ様子可申上候、むさと討殺申間敷候事、

一 手負之者郷中江參候ハ、留置、様子可申上候、又は所之者あやまちにて手負等有之候ハ、其子細を可申上候事、

一堤・川除・井堀御普請之時分、不參候百姓有之候ハ、可申上候、道惡敷候ハ、無御尋候共、往還之迷惑ニ成候間、念入造可申候、若油斷ニおひては、其場所請負之郷中、過代として他所之道橋をも修覆可被仰付候事、^{〔二七〕}

一百姓之不應分限借銀・借米を仕、不見届もの、又は借物質として田地人ニ爲作、御年貢等を不致候而欠落可仕様子相見江候百姓御座候ハ、早速番を付、御注進可申上候、欠落仕候を仕付候由、後日ニ申出候者候ハ、庄屋・年寄・五人組迄何様之曲夏ニも可被仰付候事、^{〔二八〕}

一常々公夏を好、喧嘩・口論・博突致し、耕作龜相ニ仕者、又ハ五人組之相談ニはつれ、我儘申者御座候ハ、子細申上、可致追放、其外理不盡ニ百姓を拂候ハ、庄屋・組頭曲夏可被仰付候事、^{〔二九〕}

一堤・掛ヶ堀・落堀・道等をせはめ、田畑を仕出候ハ、其身ハ不及申、庄屋・年寄・百姓曲夏可被仰付候事、^{〔三〇〕}

一田地壹歩之所をも荒シ申間敷候、永荒之其場は不及申、野原ニ而茂無構地有之候ハ、新田發、御注進可申上候事、^{〔三一〕}

一田地有之百姓仕付候敷、又ハ前地・門屋・店借等置候共、他所より引越候者之義ハ銘々出所無構、慥成者御座候ハ、得御下知、證人を立、手形を取可申事、

附 近年所ニ不罷在者古郷ニ候逆罷歸リ度旨申候ハ、其者を召連レ、銘々様子を申上、御穿鑿之上、置可申事、^{〔三二〕}

一御手代衆江庄屋・百姓御年貢米銀ハ不及申、當座之米錢之儀茂、無手形取引仕間敷候、證據茂無之事、後日出入申上候ハ、曲夏可被仰付候事、^{〔三三〕}

一百姓明田地又は追放跡、致持添、役義を潰申間敷候、若死失百姓跡之田地又百姓仕付候は、其子細を申上、壹人之跡其儘壹人仕付可申候、能所を抜取、惡敷所ニ引替申間敷候、若百姓仕付之義、其郷中ニ而才覺不罷成候は、家屋敷共ニ書付差上可申候、無其斷家をこほち、竹木ヲ伐採申間鋪候事、^{〔三四〕}

一所之者ニ候共耕作商賣茂不仕、不審成もの郷中ニ有之候ハ、可申上候事、^{〔三五〕}

一五人組之義彌堅ク仕、仲間ニ而申合、耕作精を出シ可申候、尤下人等不持百姓植付刈取之節、相煩申候ハ、作不荒様ニ、親類・縁者ハ勿論、五人組之其内ニ而助合候様ニ可仕候、作不精ニ而徒ニ暮候者有之ハ、五人組之内ニ而互ニ致吟味、異見可申候、不用之者有之は名主江早々相斷、庄屋方々御代官様江訴、如何様共、御下知次第可仕候事、^{〔三六〕}

一盜人爲用心之、郷境ニ番屋を造り、番仕、盜人出來候時分、なりを立、出合搦取可申候、勿論隣郷ニ而なりを立候は、早速出合可申候事、^{〔三七〕}

一五人組帳仕上申候印判取替申間敷候、若紛ニおひてハ、買調候則御手代衆迄判鑑差上可申候事、^{〔三八〕}

一欠落之者男女ニよらず郷中江參候は、押へ置、其段申上、御差圖次第可仕候事、^{〔三九〕}

一往還之旅人、僧俗男女共、於路次相煩、行歩不相叶、臥罷在候は、庄屋・百姓出合、近所之家ニ入置、看病をくわへ、其出所行所、其趣を尋、申届ケ相渡可申候、如何様之者候共、村中出合可申候、壹人にて

執斗ひ申間敷候事、

一 田地永代賣買之義前々御法度ニ被 仰付候、自今以後彌急度相守可申候事、

附 質物之田地之義是又賣買仕間敷候、若質物ニ入候わて不叶百姓御座候ハ、御手代衆迄御注進申

上、御差圖次第可仕候事、

一 御年貢之儀御檢見之上御免狀頂戴仕候は、則庄屋・組頭・小百姓・出作之者等迄不殘拜見仕、無筆之者等ハ具ニ爲讀聞、田地立毛上中下割合相違無之様、免狀帳相認メ、庄屋・組頭・小百姓迄迄形仕、差上置可申候、手前之扣帳ニも御手代衆御加判可申請候、惣而御公用ハ不及申上、仲間算用等迄取込無之様、吟味可仕候、不依何事互證文取替し、以來仲間之申分無之様念入可申候事、

一 御藏近所は不及申、町在共、自然近所ニ火事出来候は、男女ニよらず早速出合消可申候、身かまひ致し遅参仕者御座候ハ、仲間ニ而可申上候事、

一 御代官様御手代衆其外御家中江何にても音信音物一切差上申間敷候、自然庄屋方ハ左様之義有之旨申、金銀米錢、不依何ニ、出候由、庄屋方ニ而割掛ケ申候は、其段有躰ニ可申上候事、

一 御公儀ハ被 仰付候溜井堤堰は不及申、自分之田地普請致し候とて、我儘ニ切落、余人之田地早損、水損爲致申間敷候事、

一 不依何事捨置候もの見出候は、早々御注進可申上候、其上にて御差圖次第可仕候、猥ニひろひとり申間敷候事、

* 貼紙に「潰ニハ無御座候」とある。
* 貼紙に「當時相立候、潰ニハ無御座候」とある。

*** 貼紙「喜兵衛入分、源右衛門入分、八人」

一 不依何事神水を吞、一味徒黨仕間敷候、左様之義仕候は一同之者不殘曲事可被 仰付候事、
右之條、於庄屋所、毎月無懈怠、節句其外遊日ニ爲讀聞、御法度之通り相背申間敷候、爲其村中ニ罷在、大小之百姓不殘判形仕差上申候、此一札ニ除候もの壹人茂無御座候、若隱置、後日相聞申候は、庄屋・年寄・百姓・五人組共曲事可被 仰付候、如件、

惣 左 衛 門 ⑩	茂 兵 衛 潰 *	七 郎 兵 衛 ⑩	万 右 衛 門 ⑩
惣 右 衛 門 潰 *	岩 右 衛 門 ⑩	伊 右 衛 門 ⑩	左 右 衛 門 ⑩
七 右 衛 門 ⑩	孫 左 衛 門 ⑩	太 郎 兵 衛 潰	庄 兵 衛 ⑩
利 右 衛 門 ⑩	九 郎 兵 衛 ⑩	郷 左 衛 門 潰	清 右 衛 門 ⑩
傳 右 衛 門 ⑩	善 三 郎 潰	半 左 衛 門 潰	九 左 衛 門 ⑩
德 右 衛 門 ⑩	三 左 衛 門 潰	宇 右 衛 門 ⑩	作 左 衛 門 ⑩
〆六人	〆五人	〆五人	五 兵 衛 ⑩
七 郎 左 衛 門 潰	新 七 ⑩	政 吉 ⑩	仁 左 衛 門 ⑩
源 左 衛 門 ⑩	惣 兵 衛 ⑩	與 五 右 衛 門 潰	〆六人
仲 右 衛 門 ⑩	喜 助 ⑩	源 兵 衛 ⑩	磯 五 郎 ⑩
德 左 衛 門 ⑩	伊 兵 衛 ⑩	清 五 郎 ⑩	佐 右 衛 門 ⑩
佐 兵 衛 潰			

五人組帳資料

四一九

* 貼紙「喜代松、
六人」
** 貼紙「潰ニハ
無御座候」
*** 貼紙「右同
斷」
**** 貼紙「潰ニ
ハ無御座候、相建
候」
***** 印形のと
ころに潰と記して
ある。

三郎兵衛門
惣左衛門門
九右衛門門
彌左衛門門
直八潰
甚三郎潰
甚左衛門門
文吉
佐左衛門門
佐右衛門門
八重郎
清吉
市郎左衛門門

半兵衛門
太兵衛門
市郎右衛門門
新左衛門門
藤五郎
嘉兵衛門
角右衛門門
村右衛門門
儀左衛門門
新兵衛門
清助
傳兵衛
吉右衛門門

要右衛門門
重助
善九郎
七三郎
友八潰
忠左衛門門
勘兵衛門
伊兵衛門
利左衛門門
利助
重左衛門門
喜右衛門門
吉兵衛門

四二〇
太左衛門門
作兵衛門
次郎左衛門門
利兵衛門
次右衛門門
吉左衛門門
九兵衛潰
清左衛門門
幸次郎潰
清八
四兵衛門
彌右衛門門
六右衛門門
佐平次

平

藏

一

八

一

御領分 妻田村

組頭介役 武右衛門門

組頭 三右衛門門

同 伴 吉

同 源右衛門門

同 四郎兵衛

同 惠助

同 藤右衛門門

同 兵左衛門門

同 永野左衛門門

同 川井忠藏

山中
御役所

五人組帳資料

七三 嘉永四年下總國葛飾郡三輪野山村五人組書上帳*

*半紙二十二枚。天領。

(前書の内容は、五〇文政十年下總國葛飾郡大畔新田「五人組御仕置帳」と同様である。順序に少し差違があり、脱落などもあるが、大體同じもの故省略する。奥書のみを左に記して置く。)

嘉永四年三月

下總國葛飾郡三輪野山村

五人組	佐	吉
半	留	助
半	留	藏
半	左	門
そ	右	め
五人組	傳	門
久	左	門
新	左	助
伊	左	門
文	藏	門

五人組	孫	七
嘉	彌	藏
平	彌	助
五人組	藤	吉
茂	助	門
與	右	七
市	郎	門
百姓代	新	助
組頭	伊	門
同	半	門
名主	市	衛

*本村の五人組はこの外に文久元年の分があるが、半紙二十六枚、その前書の如きは本帳を傳寫したものの如く、誤記をもそのまま寫してゐる。全然同一のもの故省略する。ただ宛名は「林部善太左衛門様御役所」となつてゐる。

竹垣三右衛門様御役所*

五人組帳資料

七四 嘉永四 亥年武藏國埼玉郡吉羽村御公儀様御定五人組帳*

差上申一札之事**

* 半紙十一枚、村民關半之丞の寫。本村は天領・旗本領入り、所屬不明。
** 劈頭脱落あるが如きも、今は原本のままに従ふ。

名主郷中之もの相談之上、搦捕御注進可申上候、然上者品ニより江戸へ召連候、則路次(一)に之入用、御奉行所江罷出候迄、諸事入目百姓不致迷惑様、從 御公儀様可被下候旨、奉得其意候、自然捕申儀不罷成候ハ、何方迄も相したひ落著所へ斷之搦候様可仕候、若見逃聞逃シ欠落爲致候ハ、後日ニ御聞出申候とも、急度可被懸咎旨、是亦奉畏候、百姓不及出家ニ山伏(二)、空無僧、鉦扣、□□、乞食、非人等盜人の宿を仕、又ハ同類茂可有之間、常々詮儀いたし怪敷義有之候ハ、可申上候旨、

一 在ニ所々名主百姓之所江盜人候ハ、雜物委細ニ書付、早速御注進可申上候、勿論無心元もの有之候ハ、親類縁者好身之者ども無遠慮可申上事、

一 盜人之届ケ又は被盜候雜物見分、其届有之候ハ、名主五人組立會詮義いたし可申上候、縱如何様之輕きもの申來候共、疎略に仕間鋪候、若し致油斷、其盜人欠落爲致候様斷之、雜物紛失致候ハ、其ものハ不及申ニ、名主・組頭共ニ曲可被仰付候旨、

一 男女ニよらず欠落もの郷中江參候ハ、押置早速可申上、尙又先ニ搦有之由届有之候ハ、早速寄合致詮儀申上、得御下知可申候、惣而怪敷ものハ不及申に、壹人もの一夜の宿をも貸申間鋪候、親類・縁者・好身之者他所より浪人參候ハ、障儀無之、不苦ものハ、名主并年寄、五人組寄合穿鑿いたし、慥成證文

手形取之差置可申候事、^(四)

一手負之もの他所參候ハ、不及申ニ、郷中ニ而手負候もの有之候ハ、當座ニ可申上候、并郷中にて行倒相果もの有之候ハ、是又早速御請可申候、勿論行倒相煩候もの有之候ハ、乞食・非人ニ不限、其者之名前并親類國所宿を承り、看病いたし置、早々御訴可申上候、尤相果候とも、其旨早速可申上候、^(五)

一 不寄何者人をあやめ、立退き候もの有之節、所之もの隣村之もの出會留置、早速御注進可申上候、若切拂逃候ハ、先ニ村中よりも出會留置、御注進可申上候、尤何方迄も付したひ、落付所江渡可申候、理不盡打殺申間鋪候、^(六)

一 田畑壹歩之所も荒し申間敷候、若作面之所餘候ハ、毎年正月中可申上候、無其儀荒置候ハ、根取之通御年貢差上可申候、其上曲事ニ被仰付候、但壹人身之百姓煩候而耕作不罷成候時者、五人組は不及申ニ、一村之もの共寄合田畑仕付、收納仕候様相互ニ助合可申事、^(七)

一 田畑永代賣之儀兼而御法度被仰付候通堅相守、永代賣買一切仕間鋪候旨、^(八)

一 田地屋敷年季定賣物ニ入、金銀等預り候ハ、名主五人組加判之證文取置所持可申候、勿論年季之儀者拾ヶ年を限り、永年季書入申間鋪候、田畑質物書入候儀、双方合點致可埒明儀、名主五人組私曲を搦江證文加判印形不仕、相滯迷惑仕候ハ、其段可申上候、名主五人組無加判、相對ニ而證文仕候ハ、双方曲事可被仰付事、^(九)

一 小百姓致退轉跡田畑を持添致候事、御法度之旨年來被仰付候通、奉得其意候、前々より百姓壹軒分之跡

死失致共、百姓を仕付、壹軒分の跡を立可申候、郷中斗に不罷成候ハ、家鋪田畑共ニ書上、訴之御差圖を請可申候、其外家別取、或者四壁之竹木伐荒、或其もの田畑持添いたし、壹軒分の跡を繼候ハ、何様之曲事ニも可被 仰付候、勿論相背申もの有之候ハ、五人組之内より可申上候事、^{〔一〇〕}

一 古畑煙草作申間鋪候事、^{〔二〕}

一 御朱印傳馬并人足之儀、少も無滯急度相立可申候、惣而馬糞之宿者從御公儀様諸支被 仰出通り、御法度之旨相守、御定之人馬退轉無之様に、仲間ニ而吟味仕、人馬無滯相立可申候、惣而往還之衆晝夜を不限、泊リ之節旅籠、

附リ 御家中衆御用ニ付、在御通り之、御役人衆之手形を以、人馬相立可申候、無其儀自分斷ニ而壹疋壹人も立申間鋪候、^{〔三〕}

一 御公儀様御用之儀何方より申來候共、宿者不及申に、何れ之村ニ而も、縦割付無之候とも、少も滯仕間鋪候、勿論御急配符杯先ニ江速相届、日付刻付違ひ候ハ、持送候者は不及申ニ、名主、年寄、百姓曲事に被 仰付候事、^{〔三〕}

一 所々御立山にて伐採申間鋪候旨被 仰渡奉畏候、若シ相背狼りの者有之候ハ、其者は不及申上ニ、名主・年寄・百姓何様之曲事ニ茂可被 仰付候、惣而郷中ニ有來候古木并從 御公儀様被 仰出候苗木等迄伐取申候ハ、御詮義之上、何様之曲事にも可被 仰付候事、^{〔四〕}

一 自分居山林又者四壁之内にて茂、大木我儘に伐取申間鋪候、自然伐候もの^{〔五〕}不叶義有之候ハ、其品申

* 文章中斷、意味不明のまま。

* 書後に次ぎの如き道歌を記してゐる。
水かへて秋の田もかりほすまてはひよりよく皆一どうに心能哉
* 中判十二枚。
* 旗本領である。

上御差圖を請ケ可申候、勿論小木にても狼ニ伐荒シ申間敷候事、^{〔一五〕}

一 邑々請取候而作來り候道橋、毎度御觸無御座候とも、作り可申候、就中從 御公儀様御掛被成候板橋、大小共に塵芥等無之様ニ、常々掃除可仕候、若シ道橋未成所は其請取之場所之名主、百姓可被遊尤候事、^{〔一六〕}

七五 嘉永五年上總國望陀郡飯富村五人組合帳^{〔一七〕}

差上申五人組合帳

一 御公儀様御法度之品被 仰付候通急度相守可申候、不依何事、急 御用之節觸來次第早ニ罷出、無滯相勤可申候事、^{〔一七〕}

一 一切支丹宗門之儀御改、前々被 仰付候通、常々相改申候處、不審成もの登人も無御座候、若紛敷もの御座候ハ、早々御訴可申上候、隠シ座候ハ、早々御訴可申候、隠居申間敷候事、^{〔一八〕}

一 鉄炮一切所持之もの無御座候、此已後堅相守可申候、若紛敷もの御座候ハ、早々御訴可申上候、隠シ置、外々相知レ候ハ、何様ニ茂可被 仰付候事、^{〔一九〕}

一 博突一切不仕、尤宿等茂堅仕間敷候事、^{〔二〇〕}

一 田畑隨分大切ニ可仕候、少成共荒置申間敷候、作物何不依登本成共盜取申間敷候事、^{〔二一〕}

一 田畑仕付之時分、道橋等念入、少成共切狭申間敷候、牛馬放置、作物喰セ申間敷候事、^{〔二二〕}

一 村境は不及申、村内ニ而も竹木猥伐取申間敷候事^{〔七〕}
 一 火之元等大切ニ可仕候、若村中火事出来候ハ、火消道具持寄、消可申候、見物ケ間敷儀堅仕間敷候事^{〔八〕}
 一 由緒なきものニ一夜たり共、宿貸申間敷候、若無據儀ニ茂御座候ハ、役人中江相届差圖請可申候事^{〔九〕}
 一 他村ノ御遺跡并縁組仕候節、他村之もの斗ニ而、村内は不立合濟申間敷候、他村江出し候は勿論、村内之内ニ而茂、右之段役人中江相届可申候事^{〔一〇〕}
 一 外江罷越一夜たり共一宿仕候節は、役人中江相断罷越可申候事^{〔一一〕}
 一 村内ニ不見届ものからまり居候ハ、見付次第役人中江相断可申候事^{〔一二〕}
 一 不依何夏、百姓不似(合)奢ケ間敷儀堅不仕、農業出精(専ニ)可仕候事^{〔一三〕}
 右之條、少茂相背申間敷候、惣而五人組仲間ニ而相互ニ吟味仕可申、若ふ吟味之儀有之候ハ、見遣、聞遣シ悪事仕出候ハ、其入用等五人組仲間ニ而急度差出可申候、其上何分之曲夏ニも可被 仰付候、爲後日五人組合印形仕、帳面差上申處仍如件、

嘉兵衛門
 三郎兵衛門
 孫右衛門
 彌五左衛門
 彦右衛門
 彌次右衛門
 藤右衛門
 七左衛門
 万五郎
 伊兵衛
 源藏
 平左衛門
 吉左衛門
 五郎兵衛
 傳左衛門
 與五右衛門
 庄左衛門
 與右衛門
 七兵衛
 兵右衛門
 藤左衛門

市郎兵衛門
 市右衛門
 庄八
 源五左衛門
 孫左衛門
 佐次右衛門
 佐右衛門
 長助
 彌兵衛
 利兵衛
 傳兵衛
 市左衛門
 市左衛門
 元右衛門
 彌左衛門
 權兵衛
 多兵衛
 六左衛門
 利左衛門
 茂右衛門
 孫兵衛
 四郎右衛門
 治郎右衛門
 又右衛門
 六兵衛
 四郎平
 喜左衛門
 清記
 權左衛門
 助左衛門
 金右衛門
 平右衛門
 五郎右衛門
 五郎兵衛
 八左衛門
 孫左衛門
 彦左衛門
 彌右衛門
 新左衛門
 紋左衛門
 武右衛門
 八兵衛
 治郎九衛門
 半太夫
 甚左衛門
 多郎右衛門
 武助
 市郎兵衛
 甚八
 治兵衛
 仁兵衛
 德兵衛

久半 左衛門 助印	與三 左衛門 印	權右 衛門 印	清兵 七衛門 印	庄兵 七衛門 印	三勤 兵衛 門印	久角 兵助 門印	五郎 兵衛 門印	重郎 左衛門 印	七喜 兵右 衛門 印	清次 右衛門 印	八郎 兵衛 門印	多右 衛門 印	
八治 右衛門 印	作兵 八衛門 印	與兵 七衛門 印	平兵 七衛門 印	權兵 七衛門 印	三源 右衛門 印	市右 衛門 印	庄右 衛門 印	半三 右衛門 印	久半 兵衛 門印	市右 衛門 印	喜左 衛門 印	與左 衛門 印	兵左 衛門 印
三右 衛門 印	李兵 衛門 印	治兵 衛門 印	惣兵 衛門 印	惣右 衛門 印	七善 郎兵 衛門 印	安兵 衛門 印	久兵 衛門 印	長左 衛門 印	新左 衛門 印	平治 郎兵 衛門 印	清右 衛門 印	由右 衛門 印	三郎 左衛門 印
長喜 兵衛 門印	利兵 衛門 印	彌兵 衛門 印	彌左 衛門 印	彌左 衛門 印	七新 兵左 衛門 印	庄右 衛門 印	善右 衛門 印	忠右 衛門 印	傳佐 兵衛 門印	十三 郎衛 門印	五右 衛門 印	久右 衛門 印	

惣ノ貳拾八組

右之通五人組御改被遊候ニ付、組合印形仕、差上申候通、少茂相違無御座候、萬一ふ吟味之儀及御座候ハ、私共迄何分之御咎ニ茂可被 仰付候、爲後日五人組帳面相認差上申處、仍而如件、

嘉永五年三月

井上儀惣次殿

飯富村	年寄	三郎兵衛
同	嘉	七
同	利左衛門	印
同	清	記
同	名主	嘉兵衛
同	源	藏

*本村の五人組帳はなほ安政五年及び文久四年の分があるが、前書その他本帳と同様である。ただ宛名を異にする。安政五年、文久四年共に加藤左司平、とある。大判十九枚。前書はないが、各人別を記載した後に、記してある。人別記載の形式は宗門改帳に類似してゐるが、最初の一例のみを掲げ、他を省略する。本村の五人組は十三冊あるが、この年の分と同様の形式のもの、安政五年の分のみである。岩槻藩領か。

七六 嘉永五年上總國夷隅郡庄司村宗旨御改五人組帳

一代ノ日蓮宗 上總國夷隅郡庄司村 常徳寺巨那(印) 高六反五畝十六歩 家主 半 兵衛(印) 子四十七歳 四三一

五人組帳資料

同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人女房	子 <small>四十</small> 六 <small>歳</small>
同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人伴	子 <small>三十一</small> 歳
同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人女房	子 <small>三十二</small> 歳
同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人孫	子 <small>八</small> 歳
同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人孫	子 <small>四</small> 歳
同宗	同寺旦那 <small>(寺印)</small>	同人孫	子 <small>四</small> 歳

家數合拾八軒

人數合九拾六人 内 男四拾七人 女四拾九人

外ニ僧壹人

馬貳疋 牛無御座候

右者天保十三年寅四月中ノ永尋被 仰付候ものニ御座候、

一代ノ日蓮宗常徳寺旦那

喜 惣 次

高貳反四畝歩

高貳反拾三步

常 徳 寺(寺印)
日蓮宗判

清 寺(寺印)
無住

妙 寺(寺印)
無住

右帳面之外壹人も殘置不申、毎年御改之通り村中吟味仕、宗門五人組相改、連判帳差上申候事、

一 御公儀様ノ毎年被 仰付候御法度之宗門之者壹人も無御座候、銘ノ師匠寺ノ判形被致候通り寺請狀被 差上候趣相違無御座候事、

一 前ニ被 仰附候鉄炮御法度之趣堅相守可申候、尤獵師鉄炮・御免鉄炮之外、猥ニ所持仕候者御座候ハ、急度御注進可申上候、假令御免鉄炮、又ハ御貸鉄炮所持仕候共、猪鹿防之外殺生堅仕間敷候、右之趣違背仕候者御座候ハ、如何様之曲事ニも可被 仰附候事、

一 御法度之捨子・捨馬之儀堅相守可申候、其外毎年被 仰附候趣、急度相慎可申候、并 御公儀様御用等無遲滯急度相勤可申候事、

一 御法度之博突、惣而懸之諸勝負一切仕間敷候、勿論博突之宿仕間敷候、若シ左様之者隠置、後ニ露顯仕候ハ、當人は不及申上、其五人組迄如何様之重科ニも可被 仰附候、少も御恨ニ不奉存候、毎年村中名主方江毎月立合、嚴敷吟味仕、博突、掛之諸勝負ニ不限、其在所不相應之者、又者不審成者御座候ハ、御披露可申上候、万一御披露不仕、後日ニ及御開被遊候ハ、如何様之曲事ニも可被 仰附候事、

一 一堂宮山林ニ不限、又ハ路邊たりとも鉄炮を持、審成者御座候ハ、村中立合縛置、御披露可申上候、尤鉄炮を持候者ニ不限、胡亂ケ間敷者御座候ハ、村中立合、穿鑿可仕候、尤も其品ニ寄御注進可仕候事、一 御公儀様御尋者之儀ニ付、胡亂ケ間敷者見聞候ハ、不隠置急度御注進可仕候、惣而欠落追放者堅差置申間敷候、万一親類・縁者由緒御座候而、抱置申ニおゐてハ急度御仕置可被 仰附候事、

一 晝夜ニ不限、隣郷ノ審成者追來、送來候時分、村中出合、其子細ニ應而了管可仕候、尤も其品ニ寄御披露可申上候、惣而胡亂成者見聞候ハ、急度詮儀可仕候事、

一 御法度之永代田地堅相慎可申候、百姓勝手ニ而質地等賣買仕候共、名主・組頭了管以可相定、御年貢諸

役等之義ハ、作人方急度相勤可申候、百姓登人前持來候田畑、拾石目以下之百姓、家督總領外江堅分讓リ申間鋪候、若シ次男等江分譲リ不申不叶節ハ、諸親類相談之上、村中江相達シ、名主差圖可申請、尤其品ニ寄御披露可申上候事、

附 百姓仲間煩之節、又ハ身上仕舞候者御座候ハ、其田畑荒不申様ニ村中相心得可申候、尤名主差圖可仕候事、

一 田畑耕作無油斷可仕候、御年貢上納不仕候内、米穀龜抹費之賣買等堅仕間敷候事、

一 請證據無御座候浪人抱置申間敷候、若シ由緒御座候て抱置申候ハ、其子細吟味之上差置可申候、并乞食・非人等ニ至迄一切差置申間敷候事、

一 兼而被 仰附候牛馬生類憐可申儀常々心掛可申事、

一 武家之御方江慮外仕間敷候、假令馬次ニ無御座候共、御通り之節ハ人馬其外共ニ御用等急度相勤可申候、駄賃等申請候とも、世間大方ニ可仕候、惣而往來之者少も疎略仕間鋪候事、

一 他所ノ彈取之節并奉公人等抱置候時分、宗門其外由緒在所之趣、念之入相改可申候事、

一 無用事、他所江一夜泊り成共罷出申間敷候、若シ不叶用事御座候ハ、其子細名主方江相斷罷出可申候、尤他所之者一夜成共留置申候ハ、其子細村役人江相斷留置可申候、無斷我儘ニ留申間敷候事、

附リ 他所江罷出、博奕之義ハ不及申上、喧嘩・口論・亂酒・長居、其外惡事仕間敷候、若左様之儀御座候ハ、急度曲事可被 仰附候事、

一 商人・職人、惣而諸旅人等差置候時分、國所請證據、其者之様子隨分吟味之上、差置可申候、尤も久々罷有候者之儀ハ御披露可申上候事、

一 請證據無御座候買物取申間敷候、惣而諸商賣者高利不取商賣可仕候事、

附 不審成物賣買仕間敷候、勿論相場過分下直成物吟味仕、卒所ニ買取申間敷候、何れニ不限、押賣・押買堅相慎可申候事、

一 請證據無御座候牛馬賣買御停止之趣、堅相慎み可申候事、

一 男女奉公人他所に出候ハ、名主・組頭江相斷差出可申候、他所ノ參り居候奉公人之儀、彌念入相改差置可申候、毎年奉公人改帳吟味之上、名主方江認置可申候事、

一 結徒黨、新規新法申合候儀一切仕間敷候、諍論出入御座候節、刀・脇差・弓・鎗・鉄炮、其外不相應之道具持用仕間敷候、尤常々共ニ此段遠慮相慎可申候事、

附リ 所ニおひて喧嘩口論御座候節、村中出合過無之様ニ取噤可申候事、

一 能・歌舞妓・操・相撲、惣而芝居常々御停止之趣急度相慎可申候事、

一 山林竹木猥ニ伐取申間敷候事、

一 家作・振舞・衣類・諸道具并百姓分限之外、結構美麗仕間敷候、神事・祭禮・諸祝儀・葬禮・佛事等隨分輕可仕候事、

一 火之用心晝夜無油斷心掛可申候事、

一村中ニ而僅之物成とも豈人ニ被取候者御座候ハ、村中出合詮義之上、名主・組頭了管以穿鑿可仕候、我々ども力ニ及不申候ハ、其子細御注進可仕候事、

右ヶ條之趣急度相守可申候、若シ違背ニおゐてハ、庄屋・五人組共ニ如何様之曲事ニも可被 仰附候、万端被 仰附候趣堅相慎少も違亂仕間敷候、爲其連判帳差上申所仍而如件、

上總國夷隅郡庄司村

嘉永五年
子ノ三月 日

百姓代 宇 右 衛 門 ④
組頭 三郎左衛門 ④
名主 善 右 衛 門 ④

勝浦
御 役 所

差上申宗旨御請狀之事

一 庄司村宗旨御改五人組帳面ニ印形仕候男女拙寺旦那ニ紛無御座候、
一 御公儀様御法度宗門と訴人御座候敷、又ハ如何様之儀出來候とも、拙寺共何方迄罷出、御苦勞掛不申様ニ急度埒明可申候、爲後日一札仍而如件、

嘉永五年

子ノ三月 日

房州小湊誕生寺末

庄司村 常 徳 寺(寺印)
日權書判
同 末 中野村 光 善 寺(寺印)
日學書判
部田村徳性寺末
庄司村 妙 清 寺(寺印)
無住

勝浦
御 役 所

*半紙六枚。天領。

七七 嘉永五年武藏國足立郡染谷村五人組書上帳*

差上申御請證文之事

一天保七申年被 仰渡候五人組前書并ニ別段被 仰渡候趣共、月々名主・組頭・惣百姓小前末ニ至迄爲 讀聞、逸々承知奉畏候、若右ヶ條之内聊たり共相背候者御座候ハ、何様之御科ニ茂可被仰付候、仍惣連 印、御請書差上申處如件、

嘉永五年三月

武州足立郡染谷村

組合 百姓 彦 次 郎 ④ 大 次 郎 ④ 關 次 郎 ④ 龜 藏 ④
" 龜 右 衛 門 ④ " 市 郎 兵 衛 ④ " 常 次 郎 ④ " 龜 藏 ④
" 常 吉 ④ " 八 十 右 衛 門 ④ " 松 四 郎 ④ " 海 藏 ④
五人組帳資料 四三七

嘉三郎	源八郎	要右衛門	要吉郎
清次郎	吉右衛門	百姓專次郎	藤次郎
忠藏	友右衛門	藤左衛門	名主大
磯右衛門	倉八郎	元五郎	勇左衛門
善左衛門	平八郎	正覺院	吉郎
熊次郎	伊左衛門	與頭喜内	吉郎
さ	重次郎	惣左衛門	

勝田次郎様 御役所

* 大判十五枚。本書と同様の五人組帳は嘉永七年、安政三年、四年、七年、萬延二年、文久二年、慶應二年、三年、四年、明治二年の十冊ある。

七八 嘉永六年上總國夷隅郡庄司村宗旨御改五人組帳*

(その形式は前掲嘉永五年本村の五人組帳と同様であるが、所謂「前書」に相應すべき二十四ヶ條の記載なく、人別の後に直ちに宗旨御請狀をのせ、別に次ぎの如き一文を記載してゐる。)

差上申一札之事

- 一行衛不知者一夜之宿貸申間敷候事、
 - 一請證據無御座候者弟子ニ取申間敷候事、
 - 一山林竹木猥ニ伐採申間敷候事、
- 右ヶ條之趣急度相守可申候、仍而如件、

高四反四畝六歩
高貳反十三歩
勝浦 御役所

庄司村 常 德 寺(寺印)
同 妙 清 寺(寺印)
日護花押 無住

七九 嘉永六年武藏國葛飾郡中里村五人組帳*

(前書七拾箇條。七元文三年武藏國幸手領五人組帳と同様であるから、これを省略する。届先宛名は「望月新八郎様御役所」とある。望月新八郎は幕府の代官である。)

* 半紙三十七枚。表紙なし。名主の控、前書のみ。天領。

八〇 嘉永七年美濃國本巢郡神海村立毛請五人組御改帳*

神海村當立毛請人并五人組御請狀之事

* 中判二十五枚。安政四及び五年にこの帳を土臺とし訂正してあるが、大體もとのものと推定されるものとみ掲げる。大垣藩領。

一名主・五人組頭・小百姓迄壹人茂不殘立會、家數・人數・面・高付、有様ニ書記、强者弱者無甲乙組合、面・請人を立、本人共ニ判形仕、御請申上候御事、

一兼而被 仰出候諸事御仕置之趣、少茂相背申間敷候御事、

一當御年貢御皆濟之儀、御書付を以、霜月廿日以前、御皆濟可仕旨被 仰付奉畏候御事、

附 當時 御宥免を以、極月迄ニ八分通、翌春御勘定ニ貳分通相納、請御勘定屹相勤可申候、尤田畑

荒し置不申、耕作出精可仕候、若壹畝壹歩ニ而茂荒し置申候者御座候ハ、互ニ吟味仕、早ニ御

内證可申上候、

一御段木御伐木出水ニ而流出候ハ、早ニ村中馬帽子狩ニ而罷出、精を出し取揚可申候、假令御觸無之候

共、少茂無油斷出精仕、取揚、壹本茂取ちらし不申様仕、早速御注進可申上候御事、

一不審成者ハ勿論、何方ヲ頼來候とも一夜之宿茂貸申間敷候、無差と人之請ニ立申間敷候御事、

一村中有人之分、男女老若共ニ、壹人も他國他領江奉公ニ遣シ申儀は不及申上、養子縁付ニ茂遣シ申間敷

候、假令大垣又ハ御領分之在ニ江奉公ニ遣シ申男女、古キ奉公人とも穿鑿仕、御田地之搆ニも罷成者御

斷申上、奉公爲仕可申候御事、

一五人組之内如何様之者ニ而茂、壹人も欠落爲仕申間敷候、若走りそう成もの御座候ハ、押置、早速御内證可申上候、万一次落仕候ハ、其請人五人組中といたし、何分迄も相尋、召返シ可申候御事、

一當御年貢米萬事御貨物等ニ至迄、御皆濟仕兼そう成者御座候ハ、只今御斷申上、其者之田畑作毛、又

は下作方迄立毛押置、村中載判仕、御皆濟可申上候得共、左様成者壹人茂無御座候ニ付、面・儘成請人を

立、名主・五人組中共ニ御請仕、銘・載判仕候上は、若壹人成共、御皆濟遲ニ仕候ハ、其請人之儀者不

及申上、組中と仕、急度御皆濟可申上候、尤御皆濟無之以前ニ借金・借米之儀者不及申上、米・雜穀ニ至

迄一切外江出し申間敷候御事、

附 御皆濟無之以前御勘定之妨ニ罷成候出入仕間敷候御事、

一御年貢御日折米之儀被 仰付候時分、名主・五人組頭立會、人々高多少ニ應し、少も無甲乙、割賦仕、

被 仰渡候御日限無滯御納所仕、庭帳ニ書載、御押切ヲ請可申候、御日折米度毎ニ多出シ候者之米を以、

不足仕候者之分ニ立用仕、當分之間を合申間敷候、時々銘・高ニ當分御日折米一粒成共不足仕候者有之候

ハ、假令村中々惣都合御納所仕候共、不足仕候人々時々會議仕、相納させ、御皆濟之時分差聞不申候様

ニ可仕候御事、

一替米之儀御兼制之通、何方江茂一粒茂替米ニ遣シ申間敷候、諸奉公人給米之儀、能會議仕置、御勘定遲

ニ罷成不申候様ニ急度大藏御通ニ付、可申候御事、

一御米拵之儀御定之通名主・米見立會、隨分念之入、見分仕候之上、上納爲仕可申候、繩依念之入、村中

一統ニ可仕候、別而下依念之入可申候、若惡敷仕置候ハ、何時ニ而茂顯次第急度御仕置可被 仰付候御事、

一御年貢米中札・差札兼ニ被 仰付候通可仕候御事、

一當村中之儀者不及申上、外村組之内、御年貢米滯申儀敷、又者何ニ而茂不埒成儀出來仕候ハ、如何様ニ茂御差圖次第急度埒明可申候御事、

一御免割并諸割賦之儀、兼而御仕置之通り、名主・五人組頭・小百姓中、出作人共ニ不殘立會、能吟味仕、明細ニ相改、無甲乙割賦いたし、其割帳ニ品ニ斷書仕、惣百姓中不殘印形仕置、重而仲間之出入無之様ニ可仕候、名主・五人組頭ノ小百姓・出作人江、毛頭成共、仕懸ケ米仕候ハ、何様之曲事ニ茂可被 仰付候御事、

一兼而被 仰付候通、在ニ諸奉行衆仕出シ之儀、御献立之通相守可申候、名主・五人組頭、大垣宿ニ而旅籠相給申候節、是又御献立之通、一盃六合ニ相極可申候、尤御斷不申逗留仕間敷候御事、

一村中之儀者不及申上、隣郷并近所之御他領ニ替りたる儀出來仕候ハ、早ニ御内證可申上候御事、
右之通御請申上候處實正也、若違背之族於有之は、本人之儀は不及申上、請人・名主・五人組頭如何様之曲事ニ茂可被 仰付候、其時一言之御斷申上間敷候、爲後日仍如件、

一高辻七百九拾石九斗壹升六合

高七拾壹石六斗六升九合
高百六拾四石壹斗六升貳合

永引地
諸引地

高拾八石九斗四升九合

内野村ノ入

一高三石三斗五升五合

請人七甚右衛門七

殘高五百三拾六石壹斗三升六合

外ニ

一無高

請人武牧太藏郎

高七石壹斗五升

内野村ノ入分支配

一高壹石三斗四升

請人七甚右衛門六

高合五百四拾三石貳斗八升六合

内ニ

一高三石五斗壹升壹合

請人武彌藏六門

高三百七拾五石七斗四升六合

本村・向井野・外野
田畑共

一高六石五斗五合

請人助傳十

高七石壹斗五升

内野村ノ入分支配

一高四石七升

請人傳傳十

高百六拾石三斗九升

無役別御免御高

一高貳石壹斗貳升

請人兵右衛門後家助次

五百四拾三石貳斗八升六合

内ニ

一高五石貳斗六升三合

請人助幸十

一高貳石九斗壹升七合

請人七金右衛門六

一高壹石三斗三升六合

請人領兼藏次郎

一高貳石八斗貳升九合

請人七武右衛門

一高四石六斗五升八合

請人助領十

一高貳石六升貳合

請人七武右衛門藏

一高貳拾八石四斗八升四合

請人兵助十

一高壹石八斗七升七合

請人金忠右衛門六

一高八石五斗三合

請人助門十
郎藏助郎

五人組帳資料

四四三

五人組帳の研究

一 高四石四斗六升四合 請人領常 右衛門藏
 一 高石壹斗貳升貳合 (虫喰) 請人兵清 右衛門助
 一 高貳石六斗貳升七合 請人林十 右衛門次
 一 高四拾石五斗七升五合 請人兵高 橋權三 助
 一 高三拾貳石壹斗九升壹合 請人角高 橋權三 助
 一 高壹石四斗八升五合 支配人西宮神 助
 一 高壹石六斗七升九合 請人磯文 右衛門
 一 高九石九斗四升五合 請人金橋權三 助
 一 高壹石九斗八升六合 請人高橋權三 助
 一 無高 請人甚貞 七助
 一 無高 茂左衛門女子 七助
 一 無高 請人文こ 右衛門
 一 高八斗九升壹合 請人平民 七助
 一 高六石八升貳合 請人角文 右衛門

一 高三石六合 請人兵高 橋權三 助
 一 高貳石貳升三合 請人磯伊 助
 一 高貳石六斗六升壹合 請人磯小 助
 一 高壹石七斗七升七合 請人磯市 助
 一 高壹石壹升五合 請人文嘉 助
 一 高五斗貳升壹合 請人磯幸 助
 一 高貳斗六升壹合 請人幸榮 助
 一 無高 請人忠榮 助
 一 無高 請人忠源 助
 一 高四石六斗四升八合 請人磯忠 助
 一 高壹石四斗壹合 請人磯伊 助
 一 高三石六斗六合 請人次儀 助
 一 高壹石六斗貳升七合 請人儀忠 助

四四四

一 高三石七斗貳升九合 請人儀次 助
 一 高貳斗七升五合 請人次卯 助
 一 高六斗六升貳合 請人磯惣 右衛門
 一 無高 請人孫次 右衛門
 一 高貳石三斗八升九合 請人十次 右衛門
 一 高七斗貳升貳合 請人領宇 左衛門
 一 高三斗貳升三合 請人宇半 左衛門
 一 高九斗壹升 請人宇平 左衛門
 一 高貳石壹斗六升六合 請人七伴 右衛門
 一 高三石四斗壹升四合 請人小民 右衛門
 一 高貳石八斗四升七合 請人佐民 右衛門
 一 高貳石七斗 請人市助 助
 一 高三石六斗七升五合 請人幸利 助

一 無高 請人儀次 助
 一 無高 請人儀次 助
 一 高五石四斗貳升九合 請人小藤 助
 一 高四斗五升三合 請人藤佐 助
 一 高八石七斗七升九合 請人藤小 助
 一 高壹石五斗三升四合 請人助儀 助
 一 高貳石壹斗九升四合 請人助儀 助
 一 高貳斗四升 請人祐和 助
 一 高貳石四斗四升六合 請人甚小 助
 一 高壹斗三升壹合 請人甚勤 助
 一 高壹石六斗五升七合 請人助和 助
 一 高四石九升壹合 請人仲民 助

四四五

五人組帳資料

五人組帳の研究

一 高貳石三斗九升 請人 善儀藏後助家
 一 高壹斗貳升 請人 助利右衛門藏
 一 高八斗壹升三合 請人 仲佐右衛門六
 一 高貳石壹斗三升壹合 請人 市五郎右衛門藏
 一 無高 請人 市松藏
 一 高四石壹斗九升六合 請人 五五郎右衛門
 一 無高 請人 利仲右衛門家
 一 高三石壹斗三升貳合 請人 熊九郎次郎門
 一 高六斗三合 請人 平平五郎七
 一 高貳石七斗貳升壹合 請人 平傳七
 一 高貳石六斗五升壹合 請人 庄九郎門
 一 無高 請人 九惣郎助
 一 無高 請人 庄治右衛門藏

一 高三石壹斗五升 請人 藤庄右衛門七
 一 高貳石壹斗貳升壹合 請人 信庄右衛門
 一 高壹石八斗九升三合 請人 和庄右衛門
 一 高貳斗 請人 庄左衛門
 一 高壹石三斗四升三合 請人 彌庄左衛門
 一 高貳石七斗三升 請人 文彌左衛門
 一 高壹石五斗四升壹合 請人 伊九右衛門
 一 高六石貳斗六升七合 請人 文次郎助
 一 無高 請人 友庄右衛門
 一 高四斗六升九合 請人 彌彌右衛門
 一 高六斗九升六合 請人 儀信右衛門
 一 高三斗四升七合 請人 喜儀右衛門
 一 高九斗壹升八合 請人 文次郎門

四四六

一 高壹石三斗壹升四合 支配人 地高橋權三郎分
 一 無高 請人 彌與右衛門
 一 無高 請人 市彦藏
 一 無高 請人 甚九郎平
 一 高貳石壹斗八升貳合 請人 園右衛門
 一 高八斗三升五合 請人 領九郎次・作兵衛
 一 高五石七斗九升 請人 領十郎藏
 一 無高 請人 小磯三郎
 一 高三斗五升壹合 請人 兵助・兵次郎相合
 一 高拾五石九斗壹升七合 村 高橋權三郎
 高 三百貳拾五石六斗五升八合 御百姓代 五人組頭

一 高五拾七石貳斗三升八合 名主 高橋權三郎
 一 高百六拾石三斗九升 別御 免御高
 惣高合五百四拾三石貳斗八升六合
 一家數合九拾九軒 寅年御改高
 一人數合四百七人内男貳百拾九人 寅年御改高
 一牛馬合貳拾九疋内拾四疋壯馬 寅年御改高
 右仕上五人組并高附家數・人數・諸奉公人・牛馬數
 壹人壹疋も隱置不申、有様ニ御書面ニ書記、差上申
 候、若壹軒壹人成共隱置申敷、又ハ高付杯ニ相違之
 儀御座候ハ、名主・五人組頭、何分之曲事ニ茂可
 被 仰付候、爲後日仍而如件、

嘉永七年九月 同村名主 高橋權三郎
 神海村五人組頭 助 十郎
 四四七

五人組帳資料

五人組帳の研究

*内野村は神海村の分れである。正式には別冊に作つたものか。

一 高辻七拾六石貳斗八升三合

内

高四拾八石六斗三升三合

高七石壹斗五升

残高貳拾石五斗

外二

高貳拾貳石壹斗貳合

高壹石七斗九升貳合

高合四拾四石三斗九升四合

内野村*

諸引地

神海村江分支配

神海村入分支配
藤七分

同村入同斷
作三右衛門分

附名主
高橋權三郎

未知原村名主
請人九郎

嘉左衛門娘しと
請人高橋權三郎

民右衛門後家
請人高橋權三郎

一家數合貳軒

一人數合拾貳人内男五人
女七人

寅年御改高
寅年御改高

右仕上五人組并高附家數・人數・諸奉公人・牛馬數
壹人壹疋茂隱置不申、有様ニ御書面ニ書記差上申候、
又ハ高付杯ニ相違之儀御座候ハ、名主・五人組頭
何分之曲事ニ茂可被 仰付候、爲後日仍而如件、

嘉永七甲寅年九月

御代官

御役所

内野村附名主

高橋權三郎

仕上ル御請狀之事

一 今度村ニ五人組相極メ、當立毛諸御改被成候、
人ニ請を立、當立毛義判仕候上は、萬事御仕置之
通、相背申間敷候、若御法度相背申敷、御年貢米
滞り申者御座候ハ、外山中名主共吟味仕、何
分ニ茂埒明可申候、爲後日一組名主共連判仕、差

上申候、以上、

嘉永七甲寅年九月

山口村名主 仙右衛門
木知原村名主 九郎
川内村名主 玄策
奥村名主 民右衛門(?)

御代官

御役所

木倉村名主 平次
佐原村名主 助七
日當村名主 織之助

八一 安政二年武藏國足立郡蕨宿五人組御制帳御請印帳

御請證文之事

天保七申年被 仰出候五人組帳前書、并別段被 仰渡之趣とも御藏板之上御渡被下置候、御法度之趣月々名
主・組頭・惣百姓・小前末ニ至迄讀聞、逸々承知奉畏候、若箇條之内、爲聊共相背候者御座候ハ、何様
之御科ニも可被 仰付候、依之惣連印差上申處如件、

安政二年二月

武藏國足立郡蕨宿

銀 藏 ① の ふ ① く ま ① 宇 吉 ① さ の ①
榮 吉 ① 林 藏 ① 伊 助 ① 清 松 ① 豊 吉 ①

五人組帳資料

*半紙十四枚。上下蕨宿の五冊の内四番としてあるから、蕨宿の一部に過ぎない。この外安政五年、文久二年の二冊あるが、何れも四番、内容も同型である。慶應義塾圖書館蔵本である(二二二/二三/一四九)。
*「御藏板被仰渡候五人組帳」といふのが時に存在してゐる。その内容は山本大膳五人組帳と同様のものである。ここにいふものも、それと同じものである。

*この組に徳次郎二名あるも、印形異なり、同名異人である。

久恒	源次	彌右衛門	鉄五郎	てう	茂七	清八	庄藏	万次郎	藤吉	文助	庄藏
藏	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
彌長	德次	勘右衛門	徳次郎	鉄五郎	勘平	新助	小兵衛	次郎吉	彌五郎	せき	銀藏
兵衛	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
富次郎	彌吉	清次郎	義正	常八	作兵衛	新藏	鉄五郎	平兵衛	甚五郎	とみ	吉兵衛
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
庄左衛門	庄太	角太	長左衛門	金次郎	作之丞	彌四郎	源兵衛	茂右衛門	安次郎	清右衛門	龜之助
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
與四郎	清次郎	三太郎	儀助	新五郎	新藏	金藏	ひさ	金兵衛	伊之助	傳次郎	與三郎
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
喜八郎	庄左衛門	喜助	庄太	武右衛門	彦左衛門	条次郎	由太郎	伊之助	留五郎	吉藏	彌五郎
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
石五郎	彌助	彌吉	彌五郎	吉藏	伊之助	留五郎	由太郎	伊之助	留五郎	吉藏	彌五郎
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎

*同名異人。

五郎右衛門	友次郎	条次郎	長藏	澄次郎	善四郎	榮次郎	金五郎	松五郎	巳之助	市郎右衛門	半兵衛	儀三郎	銀藏	安太郎	彌左衛門
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
七郎左衛門	五郎兵衛	仙藏	定助	音五郎	源五郎	市之丞	清八	四郎左衛門	孫右衛門	周八	惣吉	平左衛門	利八		
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎		
いと	磯五郎	四郎左衛門	吉兵衛	とみ	甚五郎	平兵衛	鉄五郎	新藏	作兵衛	常八	義正	清次郎	彌吉	富次郎	
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	
勘右衛門	喜太郎	龜之助	清右衛門	安次郎	茂右衛門	源兵衛	彌四郎	作之丞	金次郎	長左衛門	角太	庄太	庄左衛門		
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎		
喜八郎	庄左衛門	八郎左衛門	與三郎	傳次郎	伊之助	金兵衛	ひさ	金藏	新五郎	新藏	儀助	三太郎	清次郎	與四郎	
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	

*改印の覺である。下の元の印は消してある。以下同じ。

五人組帳の研究

幸助 ① 金次郎 ① 三五郎 ① 伊三郎 ① 寅吉 ① 金藏 ① 金太郎 ① 藤左衛門 ① 石藏 ① 鉄五郎 ① 平田都 ① 兼次郎 ① 留吉 ① 佐次郎 ① 喜右衛門 ①

武七 ① 又藏 ① 重次郎 ① 傳次郎 ① 權兵衛 ① 太郎左衛門 ① 榮次郎 ① 四郎左衛門 ① 宇右衛門 ① 一角 ① 伊之助 ① 忠左衛門 ① 伊三郎 ① 重次郎 ①

豊吉 ① 半次郎 ① 吉五郎 ① 與右衛門 ① 彌五郎 ① 万次郎 ① 新五郎 ① 倉之助 ① 繁次郎 ① 清吉 ① 善兵衛 ① 傳兵衛 ① 新兵衛 ① 新安五郎 ① 寅藏 ①

よし ① 兼次郎 ① 藤右衛門 ① 十兵衛 ① 弁藏 ① 佐次兵衛 ① 庄左衛門 ① 辰五郎 ① 寅藏 ① 惣次郎 ① かつ ① 富右衛門 ① 權次郎 ① 勘藏 ① 長左衛門 ①

熊次郎 ① 由藏 ① 六兵衛 ① 安五郎 ① りよ ① 三五郎 ① 徳次郎 ① 新五郎 ① 六兵衛 ① 重五郎 ① 角藏 ① 寅右衛門 ① 富五郎 ① 三郎右衛門 ① すて ①

四五二

五人組帳資料

喜三郎 ① 定七 ① 保之助 ① 幸藏 ① 糸次郎 ① 音吉 ① 豊吉 ① 勇次郎 ① 久次郎 ① 忠次郎 ① 吉五郎 ① 鉄五郎 ① 甚五郎 ① 清兵衛 ①

權次郎 ① 乙吉 ① 與市 ① 生之助 ① 勘五郎 ① 留五郎 ① 半兵衛 ① 彌四郎 ① 彌吉 ① 彌十郎 ① 重次郎 ① 新五郎 ① 又吉 ① 直次郎 ① 字吉 ①

八十八 ① すみ ① 伊兵衛 ① かう ① 久藏 ① 久次郎 ① 佐四郎 ① 兼次郎 ① 倉次郎 ① 留五郎 ① 寅吉 ① 權六郎 ① 忠五郎 ① 金龍都 ①

午之助 ① 平八郎 ① 竹次郎 ① 万吉 ① 富士松 ① 半右衛門 ① 安右衛門 ① 長松 ① 徳次郎 ① 仙吉 ① ふく ① 權次郎 ① 紋太郎 ①

榮吉 ① 兼吉 ① 忠藏 ① 元廣 ① 久藏 ① 國藏 ① 喜八郎 ① 寅吉 ① 源次郎 ① 金藏 ① 留吉 ① はる ① 生都 ① 源太郎 ① 平右衛門 ①

四五三

平 吉印
 法花町 平 八印
 寅 藏印
 伊 八印
 清 吉印
 林 次郎印
 勘 兵衛印
 儀 兵衛印
 久 次郎印
 御殿組 七 太郎印
 倉 吉印
 富 五郎印

榮 吉印
 傳左衛門印
 増次郎印
 平 七印
 平 吉印
 中上組 藤右衛門印
 榮次郎印
 長五郎印
 丑之助印
 甚兵衛印
 房次郎印
 七五郎印
 甚五郎印
 新左衛門印

佐右衛門印
 金五郎印
 榮吉印
 金次郎印
 伊勢松印
 藤五郎印
 所左衛門印
 和吉印
 綱五郎印
 吉印
 吉印
 今次郎印
 林藏印
 留五郎印

常 吉印
 金八印
 菊次郎印
 仙之助印
 次兵衛印
 兼吉印
 彌右衛門印
 松太郎印
 松五郎印
 久次郎印
 ら印
 金八印
 庄八印
 土橋組 源右衛門印

榮 七印
 次郎右衛門印
 彌兵衛印
 吉太郎印
 善五郎印
 久三郎印
 甚兵衛印
 龜次郎印
 次左衛門印
 七左衛門印
 長右衛門印
 安右衛門印
 彦右衛門印
 市右衛門印

安右衛門印
 榮次郎印
 長右衛門印
 宇兵衛印
 七郎右衛門印
 太郎右衛門印
 八太郎印
 源七印
 金藏印
 半四郎印
 清兵衛印
 次郎兵衛印
 權右衛門印
 源左衛門印
 五人組帳資料

大境 源藏印
 佐太郎印
 傳五郎印
 金兵衛印
 八十八印
 下蔵組 茂右衛門印
 金藏印
 藤五郎印
 源八印
 丈吉印
 角之丞印
 とり印
 甚左衛門印

勘五郎後家 紋次郎印
 元七印
 留吉印
 吉右衛門印
 や才印
 清左衛門印
 安五郎印
 松五郎印
 倉吉印
 佐太郎印
 寅之助印
 傳十郎印

新兵衛印
 万太郎印
 長右衛門印
 作右衛門印
 七之助印
 吉五郎印
 藤吉印
 べん印
 庄九郎印
 庄三郎印
 十兵衛印
 幸太郎印
 金兵衛印
 安太郎印

利 八印
 市左衛門印
 權九郎印
 定吉印
 森吉印
 兼次郎印
 喜兵衛印
 万右衛門印
 富印
 辰五郎後家印
 三右衛門印
 次兵衛印
 善兵衛印
 (虫喰) 右衛門印

五人組帳の研究

文治郎[㊦] 德次郎[㊦] 伊三郎[㊦] 清次郎[㊦] 三五郎[㊦]
沖右衛門[㊦] 孫右衛門[㊦] 兵藏[㊦]

四五六

八二 安政二年相模國鎌倉小町村御箇條仕置五人組帳*

御制禁條

前書の内容は寛政六年武藏國豊島郡角管村五人組御仕置帳と同様であるが、四十五・四十六・七十三の三箇條を缺き、全部で七十箇條である。前書省略。

* 半紙三十六枚。表紙に名主孫右衛門控の旨記載してある。鎌倉小町村の内寶戒寺領である。

五人組壹組	孫右衛門 [㊦]	条	吉 [㊦]	八十次	郎 [㊦]	龜	吉 [㊦]
源右衛門 [㊦]	清左衛門 [㊦]	松五郎 [㊦]	四郎右衛門 [㊦]	直次郎 [㊦]	半兵衛	孫兵衛	七 [㊦]
傳吉 [㊦]	吉 [㊦]	五人組壹組	六右衛門 [㊦]	清藏 [㊦]	伊文	忠伊	三
豐吉 [㊦]	金藏 [㊦]	孫右衛門 [㊦]	四郎左衛門 [㊦]	佐吉 [㊦]	萬	忠伊	三
五人組壹組	鐵右衛門 [㊦]	孫右衛門 [㊦]	孫右衛門 [㊦]	吉 [㊦]	萬	忠伊	三

與右衛門[㊦] 忠 藏[㊦] 兼 吉[㊦]
右之通り御座候 以上

相州鎌倉小町村之内

寶戒寺領

百姓代 清 吉[㊦]
年寄 四郎左衛門[㊦]
名主 孫右衛門[㊦]

安政二年 四月

八三 安政三年下野國河内郡西原條臺新田五人組御改帳*

* 半紙長帳十枚。宇都宮領。前書なし。

一 高八石八斗五升
 内 田五石六斗四升
 畑三石貳升(マ、)

一同五斗三升六合 新田畑 潰 菊五郎方
 家登軒 三間半 七間
 やしき 二間 四間

五人組帳資料

四五七

五人組帳の研究

八間 四十五間
地付林 十六間 四十五間
十間 三十間

一 高七石三斗貳升五合
内 田六石三斗五合八勺
如壹石貳斗八升五合(マ、)

家分

當辰四十二 長左衛門

" 四十二 妻

" 八才 は る

" 四才 長之助

四人 男貳人 女貳人

家壹軒 三間 六間

地付林 十五間 四十五間
九間 貳間*

* 以下略。

惣人数百四拾九人内 男八拾貳人 女六拾七人 馬數拾疋

家數貳拾五軒

竈數右同斷

屋敷三拾三ヶ所

御林杉山壹ヶ所

御茶屋 壹ヶ所

地付林貳拾ヶ所

天神宮 壹ヶ所 境内四十八間 六間、

五人組

彦兵衛

七左衛門

紅兵衛

同 彌右衛門

菊地林藏

米吉

伊代吉

宗治郎

宗吉

万右衛門

同 斧右衛門 吉

重右衛門

喜右衛門

五郎左衛門

久右衛門

長右衛門

久次郎

同 甚右衛門

龜五郎

善右衛門

藤左衛門

平左衛門

吉五郎

清助*

* 戸數廿四軒に過ぎないのは庄屋の家が抜けてるからである。

右者當辰年五人組御改帳面差上申處、少も相違無御座候、以上

五人組帳資料

郡方
御役所

彌右衛門
組頭 重右衛門
庄屋 菊地三代吉

*半紙長帳十二枚。後半を缺く。

八四 安政四年武藏國多摩郡小丹波村五人組御改帳

(如何なる理由か明瞭でないが、「前書」の部分に白紙二葉綴じてあるだけで、そこに次ぎの如く記した紙が貼付されてゐる。

「前書之義ハ御認メ奉願上候、下書之義ハ本書一所ニ御下ケ奉願上候、」

何人に「前書」を認めさせんとしたのか、その間の事情は明かでないが、僅か白紙が二枚であつたとすれば、簡單なものに過ぎなかつたのであらう。次ぎに人別を記してゐるが、別に五人組に分けてゐない。普通の人別帳と同様である。先例の如く最初の分を一例として掲げて置くに止める。

家主
一幸 右衛門 年四十五

母	房	年六十六
女	吉	年三十九
幸右衛門男子	十	年十八
八		
同人男子	次郎	年七
熊		
五人内	男三人 女二人	私家分
持高三石四斗壹升壹合八勺	馬壹疋	幸右衛門

(以下略)

*半紙五枚。前書なし。本村の分この外安政七、萬延二、文久二年の三冊あるも、何れも前書なし。

八五 安政四年上野國勢多郡中根村五人組帳

小頭民	藏	小頭善兵衛	小頭助	吉
德次郎	常三郎	太兵衛	太兵衛	瀧
兼吉	組頭源右衛門	馬藏	作藏	仙
國太郎	小頭金左衛門	小頭新左衛門	磯仙	太
佐傳次	直次郎	林藏	磯	五

五人組帳資料
四六一

勝太郎 <small>印</small>	幸藏 <small>印</small>	和三郎 <small>印</small>	吉兵衛 <small>印</small>
仁兵衛 <small>印</small>	久七 <small>印</small>	伊勢五郎 <small>印</small>	名主榮吉 <small>印</small>
組頭条右衛門 <small>印</small>	半次郎 <small>印</small>	小頭忠藏 <small>印</small>	
小頭常吉 <small>印</small>	小頭太右衛門 <small>印</small>	竹藏 <small>印</small>	
傳兵衛	新左衛門 <small>印</small>	銀藏 <small>印</small>	

八六 安政五年武藏國橘樹郡木月村惣百姓五人組連印帳*

差上申一札之事

* 半紙十八枚。その前書は元文三年武藏國幸手領五人組帳のものと同系に属するが、かなり多く省略されてゐる。如何なる省略がなされてゐるかを示すために、敢て全文を掲げて置く。

一 兼日被 仰出候通大小之百姓五人組を極置、不依何事五人組之内ニ而 御法度相背候儀は不及申上、惡事仕候もの有之候ハ、其組合より早速可申上候、若隱置脇申出候ハ、其者ニは品ニ寄御褒美被下、五人組之者共曲事可被 仰付旨奉畏候、惡事仕候もの申上候ハ、自然同類・親類・縁者坏後日仇をなすへきと、氣遣ひに存候ハ、隱置ニ可申上由、是又奉畏候、諸事致吟味、聞出次第御注進を可申上候、若五人組ニはつれ申者御座候ハ、名主・年寄迄相届奉申上候ハ、曲事可被 仰付候事、^{〔一〕}若五人組ニはつれ申者以下無用の語あり意味不通。

一名主・百姓印判之義自分ニ而替申間敷候、若取落候敷、又は替候節は名主は改候印鑑を差出、御役所江訴上、御帳ニ付年寄并百姓は名主ニ見せ候而、名主方ニ而帳付、其印判相用可申候、并印形仕候義、其身差合、不罷出候節は、親子兄弟之外むさと判を預ケ遣し申間敷候事、^{〔三〕}

一 御年貢皆濟不仕以前、他所江米出申間敷候、若能き米を賣、惡米を御年貢に納候ハ、當人は不及申、親類・五人組迄何様之曲事ニ茂可被 仰付候、御年貢御藏入致候刻荒碎米無之様米拵いたし、繩依拵迄、諸事御定法之通念入郷御藏江詰置、御差圖次第納可申候、勿論御藏入之時分、御支配人々庭帳ニ付置、納主銘ニ印形致置可申事、^{〔四〕}

一 御年貢御割付惣百姓寄合拜見仕、其年ニ損毛引方共明白ニ割を致し、則御割付之裏ニ惣百姓判形可仕候、自然名主壹人ニ而割をいたし候ハ、當座可申候、^{〔五〕}

一年ニ御年貢内割仕候節、名主・年寄・惣百姓寄合、御割付之表を以勘定相違無之様割をいたし、勿論反歩米永之員數委細ニ記之、名主方より皆濟押切判形いたし、百姓方江銘ニ相渡可申事、^{〔六〕}

一 御用ニ而御支配人・添役衆、其外御家中之衆中、郷中江被成御越候節、内夫并賄之儀所ニ有之輕き野菜、薪を出シ、其外何ニ而茂一切出不申、馳走ケ間敷儀堅仕間敷候事、^{〔七〕}

一 在ニ所ニ惡黨もの有之時分は聲を立可申候、其節は先ニ之村ニよりも出合召擲候者御褒美可被下候由、得其意奉畏候、若郷中ニ而不出會者は曲事可被 仰付候、尤郷中江ふ審成者参り候敷、惡黨もの堂宮山林ニからまり候を見出候ハ、名主并郷中之者相談之上、擲取候而御注進可申上候、然ル上は品ニ寄、江戸

表召連候刻旅路ニ而之入用

御奉行所江罷出候迄之諸入用、百姓不致迷惑候様、從

御公儀様可被下之由、奉其意候、自然捕申候儀不相成候ハ、何方迄茂相したひ、落著所江斷之、搦候様可仕候、若見逃し開逃し欠落爲致候は、後日御開出被成候共、急度御咎可被遊候旨、是亦奉畏候、并二百姓不及申、出家・山伏・行人・虚無僧・鉦たき・□□・乞食・非人等盜人之宿を仕、又は同類茂可有之間、常々致詮儀、怪敷義有之候ハ、可申上候事^{〔八〕}

一 在々所々之名主、百姓宅江盜人入候ハ、雜物委細書付、早速御注進可申上候、縱雜物不被盜取候とも、其由申上、御帳ニ付可申候、勿論無心元有之候ハ、親類・縁者・好身之者ニ候共、無遠慮可申上候事^{〔九〕}
一 田畑壹歩之所茂荒申間敷候、若作面之處、餘候ハ、毎年正月申上候、無其儀荒申候ハ、根取之通、御年貢差上申候、其上曲事ニ可被 仰付候、但壹人身之百姓煩無紛、耕作不相成候時は、五人組は不及申、一村之者共寄合、田畑仕付、收納仕候様互ニ助合可申候事^{〔一〇〕}

一 田畑永代賣買之儀兼日御法度被 仰付候通相守、永代賣買一切仕間敷候事、

附 質物證文たり共、永代之文言書入申間敷候事、

一 享保元申年以來田畑屋敷年季を定、質物ニ入、金銀等預り候ハ、名主・五人組加判之證文取之、所持可申候、勿論年季ハ拾ヶ年を限、永年季書入申間敷候、尤田地質地年季明ヶ拾ヶ年過候は、質流地ニ相心得、縦金子有合次第、可請返文言有之候共、御取上無之旨被 仰渡、但私曲を構、證文ニ加判不仕、相滞

迷惑仕候ハ、其段可申上候、名主・五人組無加判、相對ニ而證文仕候ハ、双方共曲事ニ可被 仰付候事^{〔一一〕}

一 御鷹場ニ而鷹遣ひ候衆有之候ハ、相改、何方迄茂付したひ、宿を聞届、御鷹見衆江御注進仕、勿論其訊早速可申上候事、縦餌差ニ而茂御法度之鳥を取申候ハ、留置、御注進可申上候、且百姓ニ而鳥殺生致候ハ、早速召捕御穿鑿之上曲事被 仰付候事、^{〔一二〕}

一切支丹宗門御制禁之儀御高札之面急度相守可申候、自然不審成す、め致候僧俗有之候ハ、郷中之義は不及申ニ、他所々參り候共、捕置可申上候、若隠置申候ハ、一郷之者不殘曲事可被 仰付旨、常々被 仰付候、御法度之趣無油斷念入吟味可仕候事、^{〔一三〕}

一 在々物騒敷節はつまりよき所江番屋を立置、夜番をいたし、其郷中江は勿論、隣郷々盜人見出し、聲を立るにおゐてハ、早速出合捕置候様ニ、名主・百姓申合、常々心掛油斷仕間敷候事、^{〔一四〕}

一村中ニ火事出来候ハ、早速欠付火消道具を持、精出シ消可申候、若不出合もの有之候ハ、御穿鑿之上、御咎被 仰付候事、^{〔一五〕}

一 耕作常々精出し、作之間は男女相應之持致可申候、若作不精ニ而、徒ニ黨候もの於有之は、五人組之内ニて互ニ致吟味、異見可申候、不用之者有之候ハ、名主方江品々相斷、名主彌爲申聞、其上ニ河も不致承引候ハ、御役所江可申上候、若隠置候ハ、名主・年寄・五人組共曲事ニ可被 仰付候事、^{〔一六〕}
一 人賣買之儀堅御法度之旨被 仰渡奉畏候事、^{〔一七〕}

- 一 在ミ江役人之由申偽徘徊いたし、ねたりケ間敷義申者有之候は、捕置、早速御注進可申上候、若隠置候ハ、名主・年寄曲事可被 仰付候事^{〔三九〕}、
- 一 在ミニ而質屋・古著屋共之儀、質物に取候ハ、置主・證人致吟味、印形爲致、質物取可申候、若不吟味致、盜物に取、又は買取候は、名主・年寄共ニ曲事被 仰付候事^{〔四〇〕}、
- 一 三笠附・博突重き御法度ニ候条、蜜ミニ而茂右博突致候もの於有之は、當人は勿論、名主・年寄・一村中共ニ急度御科可被 仰付候間、弥堅可相守旨奉畏候、相背候ハ、曲事可被 仰付候事^{〔四一〕}、
- 一 博突・諸勝負堅御法度之趣被 仰渡候、其外何方江出候而も、博突・諸勝負ケ間敷義、決而仕間敷候、若相背候もの有之ニおひてハ、急度咎被 仰付候、且親類・五人組之もの御法度之義異見差加、相用ひ不申候節は、早速注進仕候者江御褒美可被下候、若隠置、他所ノ顯におひてハ御穿鑿之上、名主・親類・五人組迄曲事被 仰付候事^{〔四二〕}、
- 一 在ミニ而神事・佛事、其外何ニ不依、新規之儀堅取立申間敷候、并狂言・操・相撲之類かたく仕間敷候、若無據子細有之候は、御役所江訴上、得御下知可申候、若隠置ニ而右躰之義仕候ハ、曲事可被 仰付候事^{〔四三〕}、
- 一 在ミニ而婚禮・祝儀等之節、石打いたし、又は酒をねたり吞、其外狼藉成義有之由被及御聞、不届ニ候、右躰之義急度相愼可申候、若左様之義有之ニおひてハ、被遂御詮儀を、曲事可被 仰付旨奉畏候事^{〔四四〕}、
- 一 公邊御用御地頭所様御用向井竈訟訴、都而百姓引合之節、村役人差添、組合罷出候分ハ一日分定法之通事^{〔四五〕}、

*この箇條はこの種五人組特有の箇條である。

以下連名は比較のため、文久元年同村五人組帳に併記する。

貨錢五日分丈ヶ前錢相渡候様、急度相心得可申候、若相背申者御座候ハ、此段可申出候事^{〔四五〕}、右者御法度御箇條其外御觸之趣村方ニ而寫置、毎月名主所ニ而惣百姓江爲讀聞、被 仰付候通急度相守可申候、若違背仕候もの有之候ハ、何様之御咎ニ茂可被 仰付候、爲後證名主・年寄・惣百姓連印一札奉差上候處依而如件、

安政五年二月

八七 安政五年下總國葛飾郡欠眞間村五人組御改帳

半紙四十六枚。天領。本村の五人組帳四冊は慶應義塾圖書館所藏(九九/二五/四)である。

(本帳の前書は寛政六年武藏國豐島郡角筈村五人組御仕置帳と同様であるが、ただ第二十四條、四十三條、四十四條、四十五條、四十六條の五條を缺き、さらに四十二條の後半及び附則を略してゐる。従つて全部で六十八條である。しかも誤字・脱落等が相當多い。中には意味の通じないところもある。安政五年の外、元治二年(佐々井半十郎役所宛)、慶應二年(同上)、同三年(同上)の三冊ある。慶應二年の分は前書後半を脱落してゐるが、その外前書は何れも同様であるから、省略し、安政五年の分の組分けのみを左に掲げる。)

人名中貼紙訂正あるも、元のままに従ふ。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行徳領 | 欠眞間村 | 孫 | 右 | 衛 | 門 | 清 | 次 | 郎 | 權 | 四 | 郎 | 新 | 助 | 清 | 吉 |
| 五人組 | 五人組 | 太 | 右 | 衛 | 門 | 利 | 兵 | 衛 | 新 | 助 | 清 | 吉 | 傳 | 三 | 郎 |
| 五人組 | 五人組 | 太 | 右 | 衛 | 門 | 利 | 兵 | 衛 | 新 | 助 | 清 | 吉 | 傳 | 三 | 郎 |